

ドイツの内密出産制度に学ぶ  
—新しい母子救済支援の可能性を探る—

平成28～30年度 基盤研究 (C) (一般)

課題番号 16K02125

課題名 日独両国の赤ちゃんポストと関連諸問題における出自を知る権利の  
扱いに関する研究

平成30年9月  
熊本大学 文学部



## はじめに

現在、日本の唯一の「赤ちゃんポスト」である慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」は、ドイツの <sup>ベビークラッペ</sup> Babyklappe をモデルにして設置されたものである。<sup>1</sup>ここ数年日本でも議論され始めている「内密出産制度」についても、ドイツの状況に目が向けられている。

ドイツで 2000 年に初めて設置されて以来現在 90 か所以上に広がっている赤ちゃんポストに対して、また、日本で 2007 年に設置された「こうのとりのゆりかご」に対して、子どもの「出自を知る権利」や孤立出産の問題を主な論拠として、日独両国では様々な批判が述べられている。そして、この取り組みの代わりとなり得る代替策について検討されていることも、両国に共通している。2014 年 5 月にドイツでは内密出産法（「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」）が施行され、それによって導入された内密出産制度について、日本でもメディアによってドイツ国内の立法過程の早い段階から注目されており、2012 年 11 月に初めて日本国内のメディアで紹介された。<sup>2</sup>その後も、日本のメディアでは、「こうのとりのゆりかご」に関する報道において、ドイツの現状や議論が紹介され、とりわけドイツにおける赤ちゃんポストに対する慎重な傾向やドイツの内密出産制度に関する情報も度々取り上げられてきた。

「こうのとりのゆりかご」のあり方を検証し、議論する熊本市の専門部会も、第 3 期からの検証報告書（2014 年）にドイツの現状についての項目を追加しており、<sup>3</sup>第 4 期の検証報告書（2017 年）において、国に対する要望として「ゆりかごへの預け入れが 10 年来続いている現状に鑑みて、わが国でも内密出産制度を早急に検討していただきたい」<sup>4</sup>と訴えている。その後、慈恵病院も、現行法の解釈次第で日本にも内密出産の導入が可能ではないかという理念を元に内密出産の導入を検討していることを発表した。<sup>5</sup>慈恵病院はドイツをモデルとした内密出産制度の独自案を発表し、<sup>6</sup>慈恵病院のある熊本の市長もド

---

<sup>1</sup> 「ゆりかごの設立にあたって」 [http://ninshin-sos.jp/yurikago\\_found/](http://ninshin-sos.jp/yurikago_found/)（2018 年 9 月 30 日）

<sup>2</sup> 「独の〈ゆりかご〉廃止へ：政府、規制検討—実名明かす〈内密出産〉制度化」（熊本日日新聞 2012 年 11 月 10 日 朝刊）

<sup>3</sup> 熊本市要保護児童対策地域協議会 こうのとりのゆりかご専門部会 『「こうのとりのゆりかご」第 3 期検証報告書』（2014 年 9 月）、7 ページ

<sup>4</sup> 熊本市要保護児童対策地域協議会 こうのとりのゆりかご専門部会 『「こうのとりのゆりかご」第 4 期検証報告書』（2017 年 9 月）、68 ページ

<sup>5</sup> 「熊本・慈恵病院：〈内密出産〉導入を検討—匿名で産み 成長後に出自」（読売新聞 2017 年 12 月 17 日 朝刊）

<sup>6</sup> 「慈恵病院 匿名制度の独自案—出自知る権利と両立図る」（熊本日日新聞 2018 年 6 月 6 日 朝刊）

ドイツの内密出産制度に関する現地視察を行っている。<sup>7</sup> さらに、厚生労働省も妊娠を他者に知られたくない女性への支援について、ドイツを含む数か国の法制度を調査する研究事業に取り組んでおり、<sup>8</sup> 「内密出産制度」の日本への導入をめぐる議論が本格的に始まっていると言えよう。

今回のシンポジウムを主催する科研費プロジェクト「日独両国の赤ちゃんポストと関連諸問題における出自を知る権利の扱いに関する研究」の研究グループでは、ドイツの内密出産について、法学、倫理学、福祉学などの視点から考察し、主要な文献の分析と翻訳によって、日本における内密出産の制度化への検討プロセスにも貢献しようとしてきた。本シンポジウムでは、日独両国の関係者と学者が率直に意見交換することによって、日本における導入検討にあたってのドイツ式内密出産制度のメリットと課題を浮き彫りにすることができた。このシンポジウムの報告書をもって、より多くの人々が当問題への理解を深め、考える上での一助となれば幸いである。

2018年9月  
編者

---

<sup>7</sup> 「内密出産 法制化求める一熊本市長、独視察終え国に」（読売新聞 2017年12月28日朝刊）

<sup>8</sup> 「海外制度調査へ一厚労省 独、米など数カ国」（熊本日日新聞 2018年6月5日朝刊）

## 目次

はじめに	1
目次	3
翻訳にあたって	4
<b>I</b>	
シンポジウムプログラム	6
発表要旨	10
<b>I I</b>	
ユーリア・クリーガー「ドイツにおける内密出産 — 危機からの救いの道」	
1.                   〈プレゼンテーション〉	20
2.                   〈報告原稿〉	40
ハイケ・ピンネ「内密出産制度の導入および実施の現状」	
3.                   〈プレゼンテーション〉	78
4.                   〈報告原稿〉	104
5. 蓮田健	
「日本で内密出産は実現可能？」	134
<b>I I I</b>	
1. 阪本恭子	
「匿名か内密か — ドイツの内密出産法の成立プロセス」	196
2. トビアス・バウアー	
「匿名による子どもの委託の諸制度の問題」	214
3. 床谷文雄	
「内密出産の法的問題 — 親子法・養子法を中心に」	234
4. 山縣文治	
「〈こうのとりのゆりかご〉 検証報告書からみる子どもの命・人権」	252
<b>I V</b>	
本シンポジウム関連の新聞記事一覧	272
研究組織	273

#### 翻訳にあたって

II 1.～II 4.の和訳、および、II 5.、III 1.～III 4.の独訳については、各発表者の許可の元、翻訳者が作成し、その責任はすべて翻訳者にある。

#### Hinweis zur Übersetzung

Die Verantwortung für die Übersetzungen der Abschnitte II 1. bis II 4. ins Japanische, sowie die Übersetzungen der Abschnitte II 5. und III 1. bis III 4. ins Deutsche liegt allein beim Übersetzer.

I

# 国際シンポジウム

## Internationales Symposium

### ドイツの内密出産制度に学ぶ

—新しい母子救済支援の可能性を探る—

Das System der vertraulichen Geburt in Deutschland  
– neue Möglichkeiten der Hilfe für Mutter und Kind –

2018年8月22日（水）～23日（木）熊本大学くすの木会館  
22. bis 23. August 2018 Kusunoki Kaikan, Universität Kumamoto





ドイツの内密出産制度に学ぶ－新しい母子救済支援の可能性を探る

**Das System der vertraulichen Geburt in Deutschland**

**－ neue Möglichkeiten der Hilfe für Mutter und Kind**

2018年8月22日（水）～23日（木）熊本大学くすの木会館

22. bis 23. August 2018 Kusunoki Kaikan, Universität Kumamoto

ドイツでは、赤ちゃんポストや匿名出産を巡る議論を通して、2014年に「内密出産制度」が新たな試みとして導入された。この新制度は、苦境におかれている妊婦の支援と妊娠相談の強化・拡充をはかることと、子どもの自己の出自を知る権利および妊娠と出産を隠さざるを得ない状況におかれている妊婦双方の利益を両立させることを目的としている。この内密出産制度の導入から3年の月日を経て、ドイツ本国では当制度に対する評価調査報告書が2017年に公表された。本制度のメリットと課題、従来の赤ちゃんポストや匿名出産への影響はどのようなものであったのか。それらの考察を通して、日本の現状と議論を鑑み、日本の母子救済支援の一助となり得る可能性を探っていきたい。

Ausgehend von den Erfahrungen mit Babyklappen und anonymen Geburten wurde im Jahr 2014 in Deutschland das neue System einer 'vertraulichen Geburt' eingeführt. Die Zielsetzung dieses neuen Systems ist es, die Hilfen für Schwangere in Notlagen sowie entsprechende Beratungsmöglichkeiten auszubauen. Gleichzeitig zielt es darauf ab, einen Kompromiss zu finden zwischen dem Recht des Kindes auf Kenntnis seiner eigenen Abstammung und den Interessen einer Schwangeren, die sich gezwungen sieht, ihre Schwangerschaft vor ihrem Umfeld zu verbergen. Drei Jahre nach der Einführung der 'vertraulichen Geburt' wurde 2017 eine Evaluation dazu vorgelegt. Welche positiven Effekte konnte die 'vertrauliche Geburt' bewirken und welche Aufgaben stellen sich für die Zukunft? Welche Konsequenzen hat die Einführung der 'vertraulichen Geburt' für die bisherigen Angebote von Babyklappen und anonymer Geburt? Durch die Diskussion dieser Fragen sollen auf diesem Symposium die Möglichkeiten ausgelotet werden, wie diese Erkenntnisse der Situation in Deutschland für zukünftige Entwicklungen in Japan fruchtbar gemacht werden können.

- 【日時】 2018年8月22日（水）13:30～17:30、23日（木）9:30～13:00
- 【場所】 熊本大学黒髪北キャンパス内「くすの木会館」レセプションルーム
- 【対象】 どなたでも
- 【参加費】 無料（事前申し込み不要）
- 【使用言語】 日本語（一部の講演：ドイツ語〔日本語通訳付き〕）
- 【主催】 科学研究費助成事業 基盤研究（C）課題番号：16K02125  
「日独両国の赤ちゃんポストと関連諸問題における出自を知る権利の扱いに関する研究」
- 【問い合わせ先】 熊本大学文学部 トビアス・バウアー tel: 096-342-2455 mail: bauer@kumamoto-u.ac.jp

## プログラム Programm

- 13:30 開会挨拶 Begrüßung 水元豊文（熊本大学文学部長） Toyofumi Mizumoto (Dekan, Literarische Fakultät, Universität Kumamoto)
- 13:35 趣旨説明 Einführung トビアス・バウアー（熊本大学准教授） Tobias Bauer (Assoc. Prof., Universität Kumamoto)

### 第一部 2018年8月22日（水）日独両国における「内密出産」

#### Sektion 1 22. August 2018 Die 'vertrauliche Geburt' in Deutschland und Japan

〈司会：トビアス・バウアー（熊本大学准教授） Diskussionsleitung: Tobias Bauer (Assoc. Prof., Universität Kumamoto)〉

- 13:45 「女性が途方にくれている時：ドイツにおける内密出産－危機からの救いの道」、  
ユーリア・クリーガー（ドイツ連邦家族省課長）  
"Wenn Frauen nicht mehr weiter wissen: Die vertrauliche Geburt in Deutschland – ein Weg aus der Krise", Julia Krieger (Referatsleiterin, Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend)
- 14:45 「内密出産制度の導入および実施の現状－妊娠相談員の経験と一考察」、  
ハイケ・ピンネ（pro familia オッフエンバッハ支部長、妊娠相談員）  
"Implementierung und Umsetzung der vertraulichen Geburt: Praxiserfahrungen und Reflexionen aus Sicht der Schwangerschaftsberatung",  
Heike Pinne (Geschäftsführerin, Schwangerschaftsberaterin, pro familia Offenbach)
- 15:45 休憩 Pause  
  
〈司会：阪本恭子（大阪薬科大学教授）  
Diskussionsleitung: Kyoko Sakamoto (Prof., Pharmazeutische Universität Ōsaka)〉
- 16:00 「日本で内密出産は実現可能か？－似て非なる日独社会？」、  
蓮田健（医療法人聖粒会 慈恵病院副院長）  
"Ist die vertrauliche Geburt in Japan realisierbar? – Die Gesellschaft in Japan und Deutschland – ähnlich aber doch anders?",  
Takeshi Hasuda (stellvertretender Direktor, Jikei-Krankenhaus Kumamoto)
- 16:45 全体討議 Diskussion
- 17:30 第一部終了 Ende

第二部 2018年8月23日(木) 倫理、歴史、法律、福祉、メディアからの視点

Sektion 2 23. August 2018 Perspektiven aus den Bereichen Ethik, Geschichte, Recht,  
Sozialwesen und Medien

〈司会: 床谷文雄(大阪大学教授)〉

Diskussionsleitung: Fumio Tokotani (Prof., Universität Ōsaka)〉

9:30 「匿名か内密かードイツの内密出産法の成立プロセス」、阪本恭子(大阪薬科大学教授)

"Anonym oder vertraulich? – Der Entstehungsprozess des Gesetzes zur vertraulichen Geburt", Kyoko Sakamoto (Prof., Pharmazeutische Universität Ōsaka)

10:00 「匿名による子どもの委託の諸制度の問題ー歴史的視点からの一考察」、

トビアス・バウアー(熊本大学准教授)

"Die Problematik aktueller Formen anonymer Kindesabgabe aus historischer Perspektive", Tobias Bauer (Assoc. Prof., Universität Kumamoto)

10:30 「内密出産の法的課題ー親子法・養子法を中心に」、床谷文雄(大阪大学教授)

"Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt – unter besonderer Berücksichtigung des Kindschafts- und Adoptionsrechts", Fumio Tokotani (Prof., Universität Ōsaka)

11:00 「〈こうのとりのゆりかご〉検証報告書からみる子どもの命・人権」、山縣文治(関西大学教授)

"Leben und Menschenrechte des Kindes – anhand des Berichts der Prüfungskommission zur 'Storchenwiege'", Fumiharu Yamagata (Prof., Universität Kansai)

11:30 「〈赤ちゃんポスト〉10年の取材から見えたものー葛藤する女性と子どもの視点から考える〈内密出産〉」、山室桃(NHK横浜放送局記者)

"Erkenntnisse nach 10 Jahren der Recherche zur 'Babyklappe' – die 'vertrauliche Geburt' aus der Perspektive der Kinder und der Frauen in konflikthaften Situationen", Momo Yamamuro (Journalistin, NHK Yokohama)

12:00 全体討議 Diskussion

13:00 第二部終了、閉会 Ende

8月22日 13:45

## 「女性が途方にくれている時：ドイツにおける内密出産 — 危機からの救いの道」 ユーリア・クリーガー（ドイツ連邦家族省課長）

### I.はじめに

「千里の行も足下に始まる」。女性とその子どもに彼らが必要としている支援と助けを提供することが、我々の明確な目標である。

### II.なぜドイツでは内密出産法があるのか？

ドイツの内密出産制度は、2014年5月1日に「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」をもって導入された。その目的は、困難な状況にいることから、妊娠していることを隠す女性に、正規の支援制度への道を開き、医療的手当を受けながら出産することを可能とすることにある。

### III.内密出産法は何を規定するのか？

匿名による子どもの委託の諸制度に代わる法的安定性が確保された内密出産制度、ドイツ全土に提供される包括的な相談支援、匿名を希望する女性の相談の基準を考案し、持続的な広報活動を含む支援制度の連邦全体にわたる周知。母には16年間の匿名性が保障され、その後、子どもが出自を知る権利を得る。

### IV.ドイツでは内密出産法でどのような経験を積んできたのか？

内密出産法に関する評価調査報告書が昨年公開された。それと平行して、連邦政府はこの評価調査報告書の結果に基づく報告書を公開した。内密出産法は効果的であり、困難な状況にいる妊婦のための支援は届いているとされる。

### V.ドイツの制度は他国に転用可能なのか？

転用が可能かどうかを決定づける要因は、主にそれぞれの国の現状と法律上の事情であろう。「子どもの委託の取り扱い」はデリケートなテーマであり、また、数多くの倫理的問題をはらんでいるため、多くの場合その評価についての意見も激しく分かれる。

### 終わりに

母子の新しい救済支援の可能性を探る今後の旅路でのご多幸をお祈りします。どうもありがとうございました。

22.8. 13:45

## "Wenn Frauen nicht mehr weiter wissen: Die vertrauliche Geburt in Deutschland – ein Weg aus der Krise"

Julia Krieger (Referatsleiterin, Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend)

### I. Einleitung

“Eine Reise von tausend Meilen beginnt unter deinem Fuß”. Das Ziel haben wir klar vor Augen: Frauen und ihren Kindern die Unterstützung und Hilfe zu geben, die sie brauchen.

### II. Warum gibt es in Deutschland ein Gesetz zur vertraulichen Geburt?

Vertrauliche Geburt wurde in Deutschland am 1. Mai 2014 mit dem “Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt” eingeführt. Ziel ist, Frauen, die ihre Schwangerschaft aus einer Notsituation heraus verheimlichen, den Weg ins reguläre Hilfesystem zu ebnen und eine medizinisch begleitete Geburt zu ermöglichen.

### III. Was regelt das Gesetz?

Vertrauliche Geburt als rechtssichere Alternative zu anonymen Angeboten, umfassendes Beratungsangebot in ganz Deutschland, Entwicklung von Standards für die Beratung von Frauen mit Anonymitätswunsch, bundesweite Bekanntmachung der Hilfen inklusive dauerhafter Öffentlichkeitsarbeit. 16 Jahre lang Anonymität für die Mutter, danach hat das Kind das Recht seine Herkunft zu erfahren.

### IV. Welche Erfahrungen hat Deutschland mit dem Gesetz gemacht?

Evaluation zum Gesetz zur vertraulichen Geburt wurde im letzten Jahr veröffentlicht. Parallel dazu legte die Bundesregierung einen Bericht vor, der auf den Ergebnissen basiert. Das Gesetz wirkt und die Hilfen für Schwangere in Not kommen an.

### V. Ist das deutsche System auf andere Länder übertragbar?

Tatsächliche und rechtliche Vorgaben des jeweiligen Landes spielen eine entscheidende Rolle. Sensibles Thema “Umgang mit Kindsabgaben” birgt eine Vielzahl ethischer Fragen und wird häufig sehr kontrovers beurteilt.

### Schluss

Großer Dank und gute Wünsche für die weitere Reise zu neuen Möglichkeiten der Hilfe für Mutter und Kind!

8月22日 14:45

**「内密出産制度の導入および実施の現状 — 妊娠相談員の経験と一考察」**  
**ハイケ・ピンネ (pro familia オフエンバッハ支部長、妊娠相談員)**

本発表では、まずドイツにおける妊娠相談所の法的根拠、任務範囲、実践の経験を紹介する。相談所には、あらゆる生活状況にある妊婦からの相談を受けるための能力と経験が備わっている。妊娠を継続するか中絶するかという選択について葛藤を抱いている女性、または、週数が経過した妊娠を隠したい、あるいは隠さざるを得ないという危機的な状況にある妊婦の相談にも、長年にわたって対応している。

この既存の妊娠相談所の制度に内密出産法を取り入れることについて説明をする。まず、相談員の資格認定について、研修のカリキュラムおよび教えるべき知識と能力、また、できるだけ早く全国の全ての相談所に有資格者を配置した方法を紹介する。

次に、4年間の相談任務および数件の内密出産で得た経験を描写する。それらの内密出産のケースは極めて複雑で、いくつかのレベルで問題をはらんでいる。管理に関わる上で、時間的にも、精神力動的な面でも対応に注意を払うべきである。しかしながら、これらのケースは極めて稀にしか起きないため、ルーチンの経験を積むことができない。このような緊張は、内密出産制度の導入の核心となる課題である。

さらに、他の関係諸機関との連携とコンタクトを維持することは、相談のあらゆる段階において手続の成功のための重要な条件となっている。

内密出産制度の導入と資格認定、ネットワークの持続的維持、当該女性に付き添う上で必要な資源の問題に批判的に触れる。

22.8. 14:45

**"Implementierung und Umsetzung der vertraulichen Geburt:  
Praxiserfahrungen und Reflexionen aus Sicht der Schwangerschaftsberatung"**  
**Heike Pinne (Geschäftsführerin, Schwangerschaftsberaterin, pro familia Offenbach)**

Der Vortrag beschreibt zunächst die gesetzliche Grundlage, die Aufgabenbereiche und Praxiserfahrungen der Schwangerschaftsberatungsstellen in Deutschland. Die Beratungsstellen verfügen über Ressourcen und Erfahrungen in der Beratung von schwangeren Frauen in jeglichen Lebenssituationen. Auch schwangere Frauen in Krisensituationen, die sich entweder in der Entscheidungskrise befinden, ob sie die Schwangerschaft austragen oder abbrechen, sowie Frauen, die ihre fortgeschrittene Schwangerschaft verbergen wollen oder müssen, gehören seit Jahren zum Klientel.

Die Implementierung des Gesetzes zur vertraulichen Geburt in dieses bestehende System der Schwangerschaftsberatung wird beschrieben, beginnend mit der Qualifizierung der Berater\*innen. Das Fortbildungscurriculum und die zu vermittelnden Dimensionen und Fähigkeiten werden dargestellt, sowie das Vorgehen, um möglichst schnell eine flächendeckende Qualifizierung in den Beratungsstellen zu erreichen.

Schließlich werden Erfahrungen aus vier Jahren Beratungsarbeit und in einigen Fällen von vertraulicher Geburt beschrieben. Die Fälle haben sich als sehr komplex erwiesen und sind auf verschiedenen Ebenen herausfordernd. Die Herausforderungen zeitlicher, administrativer und psychodynamischer Art müssen beachtet werden. Dennoch treten die Fälle ausgesprochen selten auf, so dass keinerlei Routine entwickelt werden kann. Dieses Spannungsfeld erweist sich als zentrale Herausforderung in der Umsetzung der vertraulichen Geburt.

Die Netzwerkarbeit und Kontaktpflege zu den anderen Verfahrensbeteiligten wird darüber hinaus in allen Beratungsphasen als wichtige Bedingung zum Gelingen der Abläufe beschrieben.

Die Frage der Ressourcen – für die Implementierung und Qualifizierung, die kontinuierliche Netzwerkpflge und die Begleitung der Fälle – wird kritisch beleuchtet.

8月22日 16:00

**「日本で内密出産は実現可能か？ — 似て非なる日独社会？」**

**蓮田健（医療法人聖粒会 慈恵病院副院長）**

日本におけるベビー・クラブ、「このとりのゆりかご」が活動を開始して11年が経過した。このシステムを巡っては、「子の出自を知る権利を損なう」「危険な孤立出産を招く」などの批判が絶えなかった。

一方、2014年からドイツで始まった内密出産については、日本国内の有識者、報道関係者も注目し、ベビー・クラブに代わるセーフティーネットになり得るか、期待が寄せられた。2017年9月には、「このとりのゆりかご」の第三者検証委員会から、「わが国でも内密出産制度を早急に検討していただきたい」との提言もなされた。かねてから孤立出産の回避を模索していた慈恵病院としては、先の提言も踏まえ、内密出産の実現に向けて行政機関への働きかけを始めている。

しかしながら、ドイツ方式の内密出産を我が国に導入することは容易ではない。一般に日本では、真面目さ、勤勉さなど、両国の国民性に類似点があると考えられている。しかし社会的養護を考えると、様々な相違点があることを感じざるを得ない。

我が国にも内密出産が必要と考えるが、果たして導入できるのか？私の主張の場ではなく、日独に精通した方々のご意見を伺える貴重な機会として期待している。

22.8. 16:00

**"Ist die vertrauliche Geburt in Japan realisierbar?**

**- Die Gesellschaft in Japan und Deutschland - ähnlich aber doch anders?";**

**Takeshi Hasuda (stellvertretender Direktor, Jikei-Krankenhaus Kumamoto)**

Seit der Einrichtung der "Storchenwiege", der Babyklappe in Japan, sind nun 11 Jahre vergangen. Die Kritik an dieser Einrichtung, wie etwa "das Recht des Kindes auf Kenntnis seiner Herkunft wird verletzt" oder "riskante unbegleitete Geburten werden provoziert" nimmt kein Ende.

Zugleich erfährt aber auch die 2014 in Deutschland eingeführte vertrauliche Geburt die Aufmerksamkeit von Fachleuten und Medienvertretern in Japan, als ein mögliches Sicherheitsnetz, das die Babyklappe ersetzen könnte. Im September 2017 wurde von der externen Prüfungskommission zur "Storchenwiege" der Vorschlag gemacht, man solle "dringend auch in Japan die Einführung eines Systems der vertraulichen Geburt erwägen". Das Jikei-Krankenhaus, das schon seit Langem nach Wegen zur Vermeidung unbegleiteter Geburten gesucht hat, hat diesen Vorschlag aufgegriffen und begonnen, für eine Realisierung der vertraulichen Geburt an die entsprechenden Verwaltungsorgane zu appellieren.

Die Einführung der vertraulichen Geburt nach deutschem Muster in Japan ist jedoch nicht einfach. Im Allgemeinen wird in Japan von einer Ähnlichkeit der Mentalität beider Völker ausgegangen, etwa hinsichtlich der Gewissenhaftigkeit oder der Arbeitsamkeit. Hinsichtlich der Pflege in der Gesellschaft kann man jedoch nicht umhin, einige Unterschiede festzustellen.

Ich denke, dass auch in Japan die vertrauliche Geburt notwendig ist - ist jedoch ihre Einführung überhaupt möglich? Jedoch möchte ich hier nicht meine eigene Position in den Vordergrund stellen, vielmehr hoffe ich, dass dieses Symposium eine gute Gelegenheit bietet, die Standpunkte der Experten zur Situation in beiden Ländern kennenzulernen.

8月23日 9:30

**「匿名か内密か — ドイツの内密出産法の成立プロセス」**

**阪本 恭子 (大阪薬科大学教授)**

「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」、略して「内密出産法」は、2013年8月に公布、2014年5月に施行された。困窮する母と子を救うため、2000年前後からドイツと世界各地で広がった赤ちゃんポストなど、匿名で子どもを委託するシステムに対して、ドイツ政府が国家の責任をはじめて明確にしたといえる。

法律成立までの10数年間、赤ちゃんポストをはじめ様々な匿名での子ども委託システムは、半ば黙認されてきた。ただし両者に関わる者や関心を寄せる政治的責任者は、政権交代を経ても、その是非をめぐって議論を続けた。彼らが各自の責務を知り、連綿と考えていた成果が「内密出産法」であろう。

本発表では、同法の概要と策定の背景を描いて、法律草案と各種の文書をもとに、議論のテーマとポイントを示す。そうして法律ができるまでのプロセスを概観して、ドイツと日本で、母と子の救済に、今後さらに何が必要なのかを探りたい。

23.8. 9:30

**"Anonym oder vertraulich?"**

**- Der Entstehungsprozess des Gesetzes zur vertraulichen Geburt"**

**Kyoko Sakamoto (Prof., Pharmazeutische Universität Ōsaka)**

Das "Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt", abgekürzt Gesetz zur vertraulichen Geburt, wurde im August 2013 erlassen und trat im Mai 2014 in Kraft. Angesichts der verschiedenen Systeme anonymer Kindesabgabe mit der Zielsetzung Frauen in Not und deren Kinder zu retten, wie etwa die sich um das Jahr 2000 in Deutschland sowie weltweit ausbreitenden Babyklappen, kann dieses Gesetz als eine erstmalige Klarstellung der Verantwortung des Staates durch die deutsche Regierung angesehen werden. In den über zehn Jahren bis zur Verabschiedung des Gesetzes wurden die verschiedenen Systeme der anonymen Kindesabgabe wie die Babyklappe mehr oder weniger stillschweigend geduldet. Die an der Babyklappe oder den anderen Systemen der anonymen Kindesabgabe Beteiligten, sowie die an diesem Thema interessierten politisch Verantwortlichen setzten den Diskurs um Für und Wider der verschiedenen Systeme jedoch auch nach den Bundestagswahlen fort. Man kann wohl sagen, dass das Gesetz zur vertraulichen Geburt das Ergebnis der Erkenntnis der eigenen Verantwortung und der fortgesetzten Auseinandersetzung mit diesem Thema darstellt.

In diesem Vortrag soll ein Überblick über das Gesetz zur vertraulichen Geburt gegeben sowie die Hintergründe seiner Genese nachgezeichnet werden. Weiterhin werden auf Grundlage des Gesetzesentwurfs und weiterer Dokumente Themen und wesentliche Punkte der Debatte aufgezeigt. Durch diese zusammenfassende Betrachtung des Entstehungsprozesses des Gesetzes zur vertraulichen Geburt soll der Frage nachgegangen werden, was für die Unterstützung von Frauen und Kindern - in Deutschland wie in Japan - in Zukunft darüber hinaus notwendig ist.

8月23日 10:00

**「匿名による子どもの委託の諸制度の問題 — 歴史的視点からの一考察」**  
**トビアス・バウアー（熊本大学准教授）**

赤ちゃんポストや匿名出産のような匿名による子どもの委託の諸制度は、はたして新生児の遺棄や嬰兒殺しを防ぐ（あるいは減らす）ことに適しているのか？あるいは逆に、それらの諸制度が提供されているからこそ、はじめてその利用の需要を喚起させているのではないか？この問題はこれらの諸制度が提供されている多くの国々において、激しく議論され続けている。

この発表では、匿名による子どもの委託についての議論に歴史的な視点を加えることによって新たな刺激を与えることを目的としている。ヨーロッパの18・19世紀における子どもの委託という現象に関する文献を手掛かりに、この現象の背景にあるメカニズムを明らかにし、この歴史的な所見が現在の赤ちゃんポストや匿名・内密出産をめぐる現在の議論にどのように貢献し得るのかを検討したい。

そのために、まず、匿名による子どもの委託の諸制度の批判者から挙げられているそれらの制度における需要喚起という論拠を分析してから、これに関するヨーロッパの18・19世紀における子どもの委託についての資料において歴史的な類例を確認する。最後に、このようにして得られた歴史的な所見が、匿名による子どもの委託についての現在の倫理的な議論に如何に当てはめられるかを検討する。また、「内密出産」という新制度の日本への導入をめぐる近年の議論を背景に、とりわけ「内密出産」における需要喚起についても、ドイツの「内密出産制度」に関する2017年の評価調査の結果に基づいて、論じていく。

23.8. 10:00

**"Die Problematik aktueller Formen anonymer Kindesabgabe aus historischer Perspektive"**  
**Tobias Bauer (Assoc. Prof., Universität Kumamoto)**

Gelingt es den verschiedenen Formen anonymer Kindesabgabe, wie der Babyklappe oder der anonymen Geburt tatsächlich, Kindesaussetzungen und -tötungen zu verhindern (oder zumindest zu verringern)? Oder schafft umgekehrt erst die Einrichtung dieser Angebote eine Nachfrage nach deren Nutzung? - Diese Fragen werden in vielen Ländern, in denen diese Angebote vorgehalten werden, bis heute kontrovers diskutiert.

Der Vortrag versucht daher, der Diskussion um die anonyme Kindesabgabe durch die Einführung der historischen Perspektive einen neuen Impuls zu geben. Anhand der einschlägigen Studien zum Phänomen der Kindesabgabe im Europa des 18./19. Jahrhunderts sollen die zugrundeliegenden Mechanismen dieses Phänomens aufgedeckt und nach der Relevanz dieser historischen Befunde für die aktuelle Debatte um Babyklappen und Systeme der anonymen bzw. vertraulichen Geburt gefragt werden.

Dazu wird zunächst das Argument einer Bedarfsweckung der verschiedenen Formen der anonymen Kindesabgabe, wie es von den Kritikern dieser Einrichtungen vorgebracht wird analysiert und anschließend versucht, historische Parallelen zu dieser postulierten Bedarfsweckung im Material zur anonymen Kindesabgabe im Europa des 18./19. Jahrhunderts zu identifizieren. Schließlich werden Möglichkeiten der Anwendung dieser historischen Erkenntnisse auf die aktuelle Debatte über die ethische Bewertung der Angebote zur anonymen Kindesabgabe untersucht. Gerade vor dem Hintergrund der jüngsten Diskussion um die Einführung eines neuen Systems der "vertraulichen Geburt" in Japan wird auch die Frage einer eventuellen Bedarfsweckung der "vertraulichen Geburt" diskutiert, basierend auf den Ergebnissen einer Evaluation der "vertraulichen Geburt" in Deutschland aus dem Jahr 2017.



8月23日 10:30

**「内密出産の法的課題 — 親子法・養子法を中心に」  
床谷文雄（大阪大学教授）**

「母は常に明らかである」という法格言がある。ドイツでは、「子の母は、分娩した女性である」（民法 1591 条）と規定する。日本法には明文規定はないが、判例は、「分娩の事実により当然に母子関係が発生する」と宣言し、学説上も通説である。内密出産の場合も、法律上の母子関係は出生と同時に成立している。よって、親子関係に基づく権利義務、例えば扶養、親権、氏、相続などに関する法の規定が適用されるべきものである。しかし、内密出産制度は、出生から 16 年間、社会的・法的に子の母の身元を秘匿しつつ、子の成長を待って、母の身元を子に対して明らかにする仕組みを包含する。その間、子に存在と生活の場を与え、親に代わる監護者の決定、生活に関わる権利義務を規律する必要がある。そして多くの場合、養子縁組(特別養子縁組)の成立が想定されている。こうした内密出産によって出生した子の親子法上の地位、及び養子法との関わりについて述べる。

23.8. 10:30

**"Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt  
– unter besonderer Berücksichtigung des Kindschafts- und Adoptionsrechts"  
Fumio Tokotani (Prof., Universität Ōsaka)**

Ein Rechtsspruchwort lautet „mater semper certa est“. In Deutschland ist bestimmt: „Mutter eines Kindes ist die Frau, die es geboren hat“ (BGB §1591). Im japanischen Recht gibt es zwar keine eindeutige Bestimmung, die Rechtsprechung jedoch erklärt hierzu: „durch die Entbindung entsteht notwendigerweise die Mutter-Kind-Beziehung“ und auch die wissenschaftliche Lehrmeinung erkennt dies an. Auch im Fall der vertraulichen Geburt entsteht die rechtliche Mutter-Kind-Beziehung gleichzeitig mit der Geburt. Daher müssen auch hier die auf der Eltern-Kind-Beziehung beruhenden Rechte und Pflichten, wie etwa solche betreffend des Unterhalts, der elterlichen Sorge, des Familiennamens, der Beerbung usw., gemäß der gesetzlichen Bestimmungen angewandt werden. Das System der vertraulichen Geburt beinhaltet jedoch die soziale und rechtliche Geheimhaltung der Identität der Mutter des Kindes bis zur Offenlegung der mütterlichen Identität gegenüber dem Kind 16 Jahre nach dessen Geburt. Für die Zwischenzeit ist es notwendig, dem Kind einen Ort der Existenz und des Lebens zuteil werden zu lassen, einen Vormund an Eltern statt zu bestimmen und die sein Leben betreffenden Rechte und Pflichten zu regeln. Des Weiteren wird in vielen Fällen von einer Vermittlung in eine Adoption (spezielle Adoption) ausgegangen. Der Vortrag behandelt den kindschaftsrechtlichen Status der vertraulich geborenen Kinder sowie die Bezüge zum Adoptionsrecht.

8月23日 11:00

## 「〈こうのとりのゆりかご〉検証報告書からみる子どもの命・人権」

山縣文治（関西大学教授）

開設10年、ゆりかごは、預け入れ部門、相談部門の両部門を通じて、子どもの命と向き合ってきた。とりわけ、相談部門の実績は、相談件数に限らず、特別養子縁組の成立件数など、高く評価できる。

一方、預け入れ部門については、評価が分かれている。判断の分かれる基準の多くは、ゆりかごが向き合ってきた命（生命、生活、人生）をどのようにとらえるかとかかわっている。ここでは、その論点のみを簡条的に紹介しておく。

- ① ゆりかごが無ければ死につながったのか、あるいは死を避けたい人が利用したのか。
- ② ゆりかごの存在にかかわらず、そもそも、保健医療関係者の立ち会わない自宅出産（車中出産）自体が、子どもの安全な誕生を阻害しているのではないか。ゆりかごの利用を想定しての自宅出産は、その危険を増幅させるものではないか。
- ③ 出産直後に母親が預け入れに来る行為自体にも危険がはらんでいるのではないか。ましてや遠隔地からの預け入れはより危険度が高いのではないか。
- ④ 仮に匿名で預け入れをしたとしても、その匿名性はその後も継続的に尊重すべきなのか。
- ⑤ 相談部門と預け入れ部門のどちらを利用するかで、その後の子どもの生活や人生が異なる可能性が高いことについて、子どもにどう説明し、納得を得るのか。
- ⑥ 家庭養護を含め、代替的養護の生活の質の現状を検討することなく、ゆりかごを利用した子どもたちの生活や人生の質を担保することは困難ではないか、など。

23.8. 11:00

## "Leben und Menschenrechte des Kindes

### - anhand des Berichts der Prüfungskommission zur 'Storchenwiege'"

Fumiharu Yamagata (Prof., Universität Kansai)

In den 10 Jahren seit ihrer Einrichtung hat sich die Storchenwiege in den beiden Bereichen der Aufnahme von Kindern [durch die Babyklappe] und dem der Beratung dem [Schutz von] Leben von Kindern gewidmet. Insbesondere die Leistungen im Bereich der Beratung sind hoch zu bewerten, nicht nur die Fallzahlen der Beratung, sondern auch die Zahlen der vermittelten speziellen Adoptionen.

Bezüglich des Bereichs der Aufnahme von Kindern gehen die Einschätzungen jedoch auseinander. Viele der unterschiedlichen Maßstäbe bei der Bewertung hängen damit zusammen, wie das Leben, dem sich die Storchenwiege zuwendet, aufgefasst wird. Im Folgenden werden die wichtigsten Punkte dazu stichwortartig vorgestellt.

- ① Wäre das Kind jetzt tot, wenn es die Storchenwiege nicht gegeben hätte, bzw. wurde sie von jemandem genutzt, der den Tod vermeiden wollte?
- ② Verhindert nicht eine medizinisch unbegleitete Hausgeburt (oder eine Geburt in einem Auto) an sich eine sichere Geburt des Kindes, unabhängig von der Existenz der Storchenwiege? Verstärkt nicht eine Hausgeburt mit dem Ziel der späteren Nutzung der Storchenwiege die Risiken?
- ③ Birgt die Abgabe eines Kindes durch die Mutter direkt nach der Geburt an sich nicht Gefahren in sich? Geschweige denn eine Anreise zur Abgabe aus größeren Entfernungen - ist hier nicht das Risiko noch größer?
- ④ Auch wenn die Abgabe vorläufig anonym erfolgte, sollte diese Anonymität auch danach weiterhin respektiert werden?
- ⑤ Wie kann dem Kind überzeugend erklärt werden, dass durch die Entscheidung, ob der Bereich der Beratung oder der der Aufnahme von Kindern genutzt wurde, das weitere Leben des Kindes mit großer Wahrscheinlichkeit unterschiedlich verläuft?
- ⑥ Ist es nicht schwierig, die Qualität des Lebens der Kinder, die in der Storchenwiege abgegeben wurden, sicherzustellen, solange nicht die gegenwärtige Lage der Lebensqualität in der Ersatzpflege, einschließlich der Familienpflege, überprüft wird?

8月23日 11:30

**「〈赤ちゃんポスト〉10年の取材から見たもの  
— 葛藤する女性と子どもの視点から考える〈内密出産〉」  
山室桃（NHK 横浜放送局記者）**

親が育てられない子どもを保護する場所として、熊本市の民間病院によって2007年に開設された「こうのどりのゆりかご」、通称“赤ちゃんポスト”。NHK取材班は、設置から10年にわたって日本にたった一つの赤ちゃんポストを追い続け、報道番組を通して、現代の日本が抱える多様な課題を明らかにしてきた。取材班は、妊娠・出産、子育てに悩み、追い詰められ赤ちゃんポストにたどりついた女性たちの声を伝えると共に、赤ちゃんポストに実際に預け入れられた子どもに報道機関として初めてアプローチし、10代に成長した少年の生の声を届け、全国に衝撃を与えた。

日本では、母子の視点に立った支援策が社会全体で活発に議論されることはない。政府は、2017年より妊娠や出産に関わる相談窓口の全国設置に向けた法整備によりやく乗り出したものの、設置は自治体の「努力義務」に過ぎず、現在、相談窓口があるのは全国の市区町村の三割あまりと限定されている。

日本における「内密出産」の導入に向けた議論が始まった中、問題を抱えたまま既存のセーフティネットからこぼれ落ちる女性たちをどう支援し、小さな命とその将来をどう守るのか、社会全体で問題意識を共有し、新たな制度づくりの必要性について明示したい。

23.8. 11:30

**"Erkenntnisse nach 10 Jahren der Recherche zur 'Babyklappe' – die  
'vertrauliche Geburt' aus der Perspektive der Kinder und der Frauen in  
konflikthaften Situationen"  
Momo Yamamuro (Journalistin, NHK Yokohama)**

An einem privaten Krankenhaus in Kumamoto wurde im Jahr 2007 die "Storchenwiege", auch "Babyklappe" genannt, als ein Ort eingerichtet, an dem Kinder, die von ihren Eltern nicht aufgezogen werden können, in Obhut gegeben werden können. Das NHK-Rechercheteam hat die Entwicklung dieser einzigen Babyklappe Japans in den zehn Jahren seit ihrer Einrichtung mitverfolgt und durch Reportagesendungen die verschiedenartigen Probleme im gegenwärtigen Japan aufgezeigt. Das Rechercheteam hat die Stimmen der Frauen dargestellt, die an Problemen betreffend Schwangerschaft, Geburt und Kindererziehung leidend aus einer Notsituation heraus die Babyklappe nutzen, sowie sich als erstes Presseorgan den tatsächlich in der Babyklappe abgegebenen Kindern angenommen und die authentischen Stimmen dieser nun bis zu zehn Jahre alten Kindern vorgestellt und damit landesweit für Aufsehen gesorgt.

In Japan gab es bisher keine lebhaftes gesamtgesellschaftliche Diskussion über Hilfsmaßnahmen aus der Perspektive von Mutter und Kind. Die Regierung hat 2017 endlich mit den Vorbereitung einer gesetzlichen Grundlage für die landesweite Einrichtung von Beratungsanlaufstellen zu Fragen von Schwangerschaft und Geburt begonnen. Jedoch besteht für die Kommunen diesbezüglich lediglich eine "Bemühungspflicht", so dass gegenwärtig landesweit in nur mehr als 30 Prozent aller regionalen Selbstverwaltungseinheiten Beratungsanlaufstellen eingerichtet sind.

Angesichts der beginnenden Diskussion um eine Einführung der "vertraulichen Geburt" in Japan möchte der Vortrag die Notwendigkeit der Schaffung eines neuen Systems aufzeigen, sowie die Notwendigkeit eines gesamtgesellschaftlichen Problembewusstseins hinsichtlich der Fragen, wie Frauen, die durch die mit Problemen besetzten bestehenden Sicherheitsnetze fallen, unterstützt werden können und wie das Leben der Kinder und ihre Zukunft gesichert werden kann.



**II**

# Die vertrauliche Geburt in Deutschland – ein Weg aus der Krise

Julia Krieger, Leiterin Referat 413,  
Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend (BMFSFJ)

Stand: August 2018

1

## 1. Einleitung

„千里の行も足下に始まる“

„Eine Reise von tausend Meilen beginnt  
unter deinem Fuß.“

2

# ドイツにおける内密出産 － 危機からの救いの道 －

ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省 (BMFSFJ) 第413課  
課長 ユーリア・クリーガー

2018年8月現在

## 1. はじめに

「千里の行も足下に始まる」

“Eine Reise von tausend Meilen beginnt  
unter deinem Fuß.”

## 2. Historie zum Gesetz

- | Auch heute noch **viele Schwangere in Not**
- | **Reguläres Adoptionsverfahren** oder ein **Leben mit Kind** ist für manche **keine Lösung**
- | Deshalb gibt es seit langem **Babyklappen** / anonyme Formen der Kindsabgabe



3

## 2. Historie zum Gesetz

- | **2012: Studie** „Anonyme Geburt und Babyklappen in Deutschland“ (Deutsches Jugendinstitut)
- | Zuvor langjährige **ethische Debatte** → noch bis 2014
- | **01. Mai 2014 Inkrafttreten des Gesetzes** zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt



4



## 2. 内密出産法の歴史

- | 今日、未だに困難な状況にいる妊婦が多い
- | 正規の養子縁組、または子どもと共に生きることは解決にならない女性もいる
- | そのため、以前から赤ちゃんポスト・匿名による子どもの委託の諸制度がある



3

## 2. 内密出産法の歴史

- | 2012: 調査研究『ドイツにおける匿名出産および赤ちゃんポスト』  
(ドイツ青少年研究所)
- | それまでに、長年にわたって2014年まで続いた倫理的議論
- | 2014年5月1日、「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」  
(SchwHiAusbauG)の施行



4



### 3. Inhalt des Gesetzes

Einrichtung einer  
niedrigschwelligen,  
bundesweiten  
Beratung

vertrauliche Geburt als  
neue Handlungs-  
möglichkeit für Frauen  
mit Anonymitätswunsch

Entwicklung von  
Standards für die  
Beratung von Frauen mit  
Anonymitätswunsch

bundesweite Bekannt-  
machung der Hilfen  
inklusive dauerhafter  
Öffentlichkeitsarbeit

5

**Hilfetelefon**  
Schwangere in Not – anonym & sicher  
☎ 0800 40 40 020  
[www.geburt-vertraulich.de](http://www.geburt-vertraulich.de)

### 3. Inhalt des Gesetzes

Hilfetelefon „Schwangere in Not – anonym und sicher“

- | telefonisch, per E-Mail und per Chat
- | Funktionen:
  - Erstberatung
  - Information
  - Lotsen → Weitervermittlung zum Hilfesystem

anonym,  
vertraulich,  
kostenfrei,  
rund um die Uhr,  
das ganze Jahr,  
mehrsprachig,  
barrierefrei

6



### 3. 内密出産法の内容

敷居の低い、  
連邦全体にわたる  
相談の設置

匿名を希望する女性の  
新たな選択肢としての  
内密出産

匿名を希望する女性の  
相談の基準の設定

持続する広報活動を含む  
支援制度の連邦全体に  
わたる周知

5

Hilfetelefon  
Schwangere in Not – anonym & sicher  
☎ 0800 40 40 020  
[www.geburt-vertraulich.de](http://www.geburt-vertraulich.de)

### 3. 内密出産法の内容

ホットライン「困難な状況にいる妊婦 — 匿名で安全」

- | 電話、メール、チャット
- | 役割:
  - 最初の相談
  - 情報提供
  - 誘導すること → 支援制度への斡旋

匿名で、  
内密で、  
無料で、  
24時間、  
年中無休、  
多言語対応、  
バリアフリー

6

## 3. Inhalt des Gesetzes

### Vertrauliche Geburt

| Entbindung, bei der die Schwangere ihre Identität nicht preisgibt, sondern ihr Kind unter Angabe eines Pseudonyms medizinisch begleitet zur Welt bringt

| 2-stufiges Beratungsverfahren:

1. Schritt

Allgemeine Schwangerschaftsberatung

2. Schritt

Beratung zur vertraulichen Geburt

7

## 3. Inhalt des Gesetzes

### Das Verfahren



| Schutz der **Anonymität** der Frau



| Vor- und Familienname der Frau (**Herkunftsnachweis**) wird in fest verschlossenem **Umschlag** sicher verwahrt



| Frau gibt sich **Pseudonym**, wählt Vornamen für das Kind, **Anmeldung** der Frau unter ihrem Pseudonym in Klinik / bei Hebamme, Information an das **Jugendamt**

8

### 3. 内密出産法の内容

#### 内密出産

！妊婦が身元を明かさず、医療的手当を受けながら仮名で出産すること

！二段階に及ぶ相談コンセプト：



7

### 3. 内密出産法の内容

#### 手続



！女性の匿名性を保障する



！女性の氏名(出自証明書)は封印した封筒に確実に保管される



！女性が自分の仮名を選び、子どもの名も決め、仮名を利用して病院、あるいは助産師に手続をすると、青少年局に連絡がいく

8



| Geschützte und medizinisch begleitete **Entbindung**



| Sorgerecht der Mutter ruht → Kind erhält **Vormund**



| Klinik / Hebamme informiert Beratungsstelle unverzüglich über die Geburt → Geburtsdatum und -ort werden auf dem Umschlag vermerkt und mit dem **Herkunftsnachweis** an eine nachgeordnete Behörde des BMFSFJ vermittelt



| Klinik / Hebamme teilt dem **Standesamt** innerhalb 1 Woche die Geburtsdaten mit. Standesamt **registriert** die Geburt.

9

### Nach der Geburt

#### Frau möchte Kind nicht behalten



- | Einleitung **Adoptionsverfahren**
- | Kind kann nach **16 Jahren Herkunft erfahren**
- | Frau kann Einsichtsrecht bei sehr wichtigen Gründen **widersprechen**

#### Frau möchte Kind behalten



- | möglich bis zum **Adoptionsbeschluss**
- | auf Wunsch der Frau → weitere **Hilfe und Unterstützung** möglich

10



守られた、医療的手当を伴う分娩



母の配慮権が停止する → 子どもには後見人がつく



病院、あるいは助産師は直ちに妊娠相談所に内密出産について報告する → 封筒には出生の日付と場所について記載され、**出自証明書**と一緒に連邦家族省 (BMFSFJ) に従属する役所に届けられる



病院、あるいは助産師は**身分登録所**に一週間以内に出生のデータについて通知する。身分登録所は出生を**登録する**

### 出産後

女性が子どもと共に生きることを  
**望まない場合**

- 養子縁組の手続を開始する
- 16年後、子どもは**出自**を知ることができる
- 極めて重要な理由がある場合、女性は**閲覧権に異議を申し立てる**ことができる

女性が子どもと共に生きることを  
**望む場合**

- 養子縁組の手続が終了するまでであれば、子どもを取り戻すことが可能
- 女性の希望に応じて → さらなる**支援とサポート**が可能

## 3. Inhalt des Gesetzes

### Umsetzung des Angebots

#### I enge Zusammenarbeit aller Akteure

- Schwangerschaftsberatungsstellen
- Ärzt\*innen / Kliniken / Hebammen
- Adoptionsvermittlungsstellen
- Jugendämter / Standesämter
- Familiengerichte



#### I Bund trägt die Kosten für die vertrauliche Geburt

11

## 3. Inhalt des Gesetzes



### Öffentlichkeitskampagne

#### I gesetzliche Verpflichtung, die Hilfen dauerhaft und flächendeckend bekannt zu machen

#### I wird seit Mai 2014 durch das BMFSFJ betrieben

#### I Nutzung diverser Kanäle / Medien z.B. Internet, Printmedien, Rundfunk

#### I zahlreiche Kooperationspartner



12



## 3. 内密出産法の内容

### 制度の実施

#### | 全ての関係諸機関の密接な連携

- 妊娠相談所
- 医者、病院、助産師
- 養子縁組斡旋機関
- 青少年局、身分登録所
- 家庭裁判所



#### | 連邦は内密出産の費用を負担する

11

## 3. 内密出産法の内容

### 広報キャンペーン

#### | 諸支援を持続的、かつ、全国にわたって周知する法的義務

#### | 2014年5月からドイツ連邦家族省 (BMFSFJ) が実施

#### | 様々な方法とメディアの利用、例えばインターネット、印刷メディア、ラジオ放送

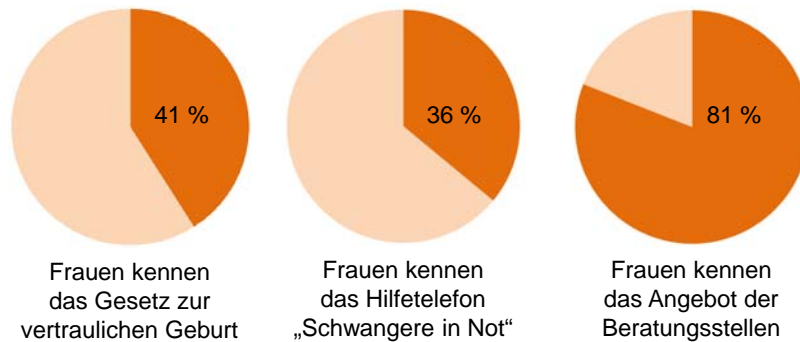
#### | 数多くの連携パートナー



12

## 4. Erfahrungen aus Deutschland

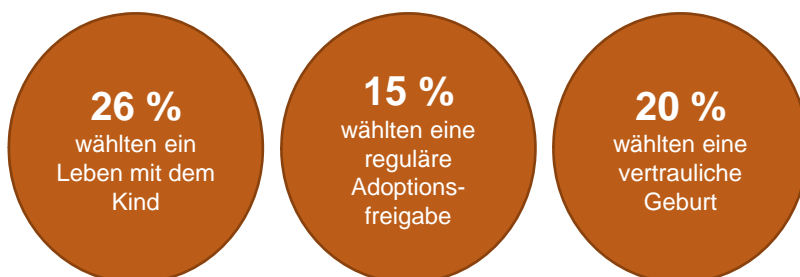
### I Erfolgreiche Öffentlichkeitskampagne



13

## 4. Erfahrungen aus Deutschland

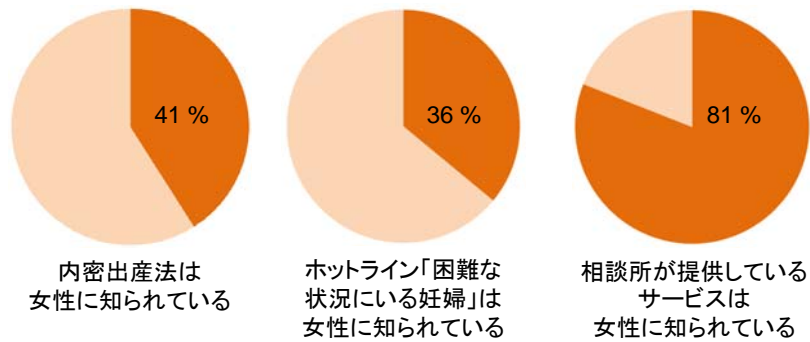
### Mai 2014 – September 2016:



14

## 4. ドイツでの経験

### I 成功した広報キャンペーン



13

## 4. ドイツでの経験

2014年5月～2016年9月



14

## 4. Erfahrungen aus Deutschland

### I Akteure

- sind über das Gesetz gut informiert
- befürworten die vertrauliche Geburt
- sind untereinander gut vernetzt

### I Bevölkerung bewertet vertrauliche Geburt positiv

### I Hilfetelefon „Schwangere in Not“ erleichtert den Schritt in die Beratung

15

## 4. Erfahrungen aus Deutschland

**Mai 2014 – September 2016:**

42 % nutzen die vertrauliche Geburt als Alternative zu anonymen Formen der Kindsabgabe

249 vertrauliche Geburten insgesamt

Ø 9 vertrauliche Geburten pro Monat

**Mai 2014 – Juli 2018:**

467 vertrauliche Geburten insgesamt

16

## 4. ドイツでの経験

### Ⅰ 関係諸機関は

- 内密出産法について十分な情報を有している
- 内密出産制度に対して肯定的な立場をとっている
- 相互に連携を築いている

### Ⅱ 国民は内密出産制度をポジティブに評価している

### Ⅲ ホットライン「困難な状況にいる妊婦」は相談を受けやすくした

15

## 4. ドイツでの経験

2014年5月～2016年9月

2014年5月～2018年7月

42%は、匿名による  
子どもの委託の  
代わりに、内密出産  
制度を利用する

合計249件の  
内密出産

月に平均9件の  
内密出産

合計467件の  
内密出産

16



## 4. Erfahrungen aus Deutschland

### Handlungsaufträge:

- Stärkung der **Netzwerkarbeit** der Akteure
- Stigmatisierung von **Adoptionen** entgegenwirken
- verstärkte Ansprache besonderer Zielgruppen**  
(z.B. Jugendliche, geflüchtete Menschen)
- Begleitung** bei der Einsichtnahme in den Herkunftsnachweis

## 5. Übertragbarkeit aufs Ausland

- | **Großes ausländisches Interesse** an der vertraulichen Geburt  
→ Japan, Dänemark, den Niederlanden
- | **Unterschiedliche tatsächliche / rechtliche Rahmenbedingungen**  
→ Suche nach geeigneten / länderindividuellen Lösungen



## 4. ドイツでの経験

### 課題:

- 関係諸機関の間のネットワークを強化する
- 養子縁組に汚名が着せられないように働きかける
- 特別なターゲットグループ(例えば、青少年、難民)への周知を強化する
- 出自証明書の閲覧の際の付き添い方

## 5. 外国への転用の可能性

- | 内密出産制度に対して、諸外国からの多大な関心  
→ 日本、デンマーク、オランダ
- | 異なる現状と法律上の事情 → 各国に適した取り組みの検討



ご清聴ありがとうございました

**Vielen Dank für Ihre  
Aufmerksamkeit**





ご清聴ありがとうございました

**Vielen Dank für Ihre  
Aufmerksamkeit**

# „Wenn Frauen nicht mehr weiter wissen: Die vertrauliche Geburt in Deutschland – ein Weg aus der Krise“

**Julia Krieger**

## **I. Einleitung**

Sehr geehrter Herr Mizumoto,  
sehr geehrter Herr Bauer,  
sehr geehrte Frau Sakamoto,  
sehr geehrter Herr Hasuda,  
sehr geehrter Herr Tokotani,  
sehr geehrter Herr Yamagata,  
sehr geehrte Frau Pinne,  
meine sehr verehrten Damen und Herren,

eines der vielen bilderreichen Sprichwörter Japans besagt „Eine Reise von tausend Meilen beginnt unter deinem Fuß (千里の行も足下に始まる)“.

Dieses schöne Sprichwort passt nicht nur gut, weil ich mit großer Freude meine knapp 9.000 km lange Reise zu Ihnen angetreten habe. Ich bin froh, hier dabei zu sein und bedanke mich bei der Universität Kumamoto auch im Namen von Frau Bundesministerin Dr. Giffey sehr herzlich für die Einladung.

Auch inhaltlich passt das Sprichwort gut zu unserem Thema. Denn die Regelungen zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur vertraulichen Geburt in Deutschland haben ebenfalls eine lange fachliche Reise hinter sich.

Um ein Ziel zu erreichen, muss man den ersten Schritt wagen. Das Ziel haben wir alle klar vor Augen: Frauen und ihren Kindern die Unterstützung und Hilfe zu geben, die sie brauchen.

In Japan haben Sie bereits erste Schritte unternommen, um die Hilfen für Schwangere und Mütter in Notlagen auszubauen und zu verbessern.

## 「女性が途方にくれている時：ドイツにおける内密出産—危機からの救いの道」

ユーリア・クリーガー

### I.はじめに

水元学部長、  
バウアー先生、  
阪本先生、  
蓮田先生、  
床谷先生、  
山縣先生、  
ピンネ支部長、  
会場の皆様、

日本語には、たくさんの生き生きとしたことわざがあるかと思いますが、その中の一つに、「千里の行も足下に始まる」と言うことわざがあります。

この美しいことわざは、今の私にとって最適な言葉です。と言いますのも、私はとても嬉しい気持ちで、ドイツから日本へ向かう 9,000 キロメートル弱の旅に出たからです。私は、このシンポジウムに参加させて頂くことを、とても嬉しく思っております。そして、ギッファイ連邦大臣の名のもとに、招待して下さった熊本大学に心よりお礼申し上げたいと思います。

また、冒頭のことわざは、我々のテーマにも見事に当てはまります。なぜかと申しますと、妊婦支援の拡大と内密出産のための規定がドイツで成立するまでには、長い旅を経てきたからです。

目的に到達するためには、第一歩を踏み出す勇気が必要です。我々は、次の明確な目標を持っています。それは、女性とその子どもに、彼らが必要としている支援と助けを提供することです。

日本で、皆様は、困難な状況にいる妊婦と母のために、支援を強化し改善するための第一歩をすでに踏み出しています。

Insbesondere durch das erste internationale Symposium zur vertraulichen Geburt in Kumamoto 2016, aber auch durch Ihren Besuch im Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend im letzten Jahr, bei dem wir über die vertrauliche Geburt und Babyklappen gesprochen haben.

Deshalb freue ich mich ganz besonders, dass ich Ihnen heute – zwei Jahre, nachdem meine damalige Kollegin über die neuen Regelungen in Deutschland berichtet hat – erste Ergebnisse aus Deutschland vorstellen kann.

Und ich hoffe, Ihnen durch unsere ersten Erfahrungen neue Möglichkeiten und Wege der Hilfe für Mutter und Kind in Japan aufzeigen zu können.

Erlauben Sie mir, Ihnen einen kurzen Überblick über meinen Vortrag zu geben, der sich in fünf Punkte gliedert:

Nach meiner Einleitung möchte ich in einem **zweiten Teil** erklären, **warum es in Deutschland ein Gesetz zur vertraulichen Geburt gibt.**

**Was das Gesetz regelt** finden Sie dann in **Teil drei**, in dem auch das komplexe Verfahren dargestellt wird.

Der **vierte Teil** wird Sie besonders interessieren: Hier geht es um **die Erfahrungen mit dem Gesetz in Deutschland.**

Und schließlich geht es **fünftens** um die für Sie wichtige Frage: **Ist das deutsche System auf andere Länder, und damit vielleicht auch auf Japan, übertragbar?** Diesen Punkt kann ich nur anreißen, da er sehr vielschichtig ist.

**II. Kommen wir also zu Teil 2: Warum gibt es in Deutschland ein Gesetz zur vertraulichen Geburt?**

### **Die Gründe für das Gesetz**

Frauen mit Anonymitätswunsch haben in Deutschland seit knapp viereinhalb Jahren die Möglichkeit, ihr Kind vertraulich und sicher zur Welt zu bringen.

その第一歩とは、特に、2016年に熊本で開催された内密出産についての第1回目の国際シンポジウムのことであり、また、昨年この研究グループがドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省を訪問したことです。

第1回目の国際シンポジウムで当時の私の同僚が内密出産の新しい規定について皆様に報告してから2年が経過した今、この制度を実施した上で得られたデータを皆様に紹介できることをとても嬉しく思っております。

我々のこの制度についての経験を通して、皆様に日本における母子救済の新たな可能性と道筋にヒントを与えることができれば幸いです。

まず、今日の私の発表の概要を簡潔に紹介させていただきます。今日は次の5つの点についてお話させていただきます。

「はじめに」の後、**第2部**では、**なぜドイツに内密出産の法律があるのか**について説明したいと思います。

**第3部**では、**この法律が何を規定するか**についてご紹介します。ここでは、内密出産の複雑な手続についても説明します。

**第4部**は、皆様にとって特に興味深いかと思えます。ここでは、**この法律の実施を通して得たドイツでの経験**についてお話します。

そして最後の**第5部**では、皆様にとって重要な問題についてお話したいと思います。**ドイツの制度は、他国に、もしかすると日本にも転用可能なのでしょうか。**この点は複雑なのでここでは提起するしかできません。

## II. それでは、第2部に入ります。なぜ、ドイツには内密出産法があるのでしょうか？

### 法律ができた理由

ドイツには4年半程前から、匿名を希望する女性には、子どもを内密に、そして安全に産むという選択肢があります。

Die sogenannte vertrauliche Geburt wurde in Deutschland am 1. Mai 2014 mit dem „Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt“ eingeführt.

Ziel des Gesetzes ist es, Frauen, die ihre Schwangerschaft aus einer Notsituation heraus verheimlichen, den Weg ins reguläre Hilfesystem zu ebnen und ihnen und ihrem Kind eine medizinisch begleitete Geburt zu ermöglichen. Zwischen Mai 2014 und Juli 2018 gab es insgesamt 467 vertrauliche Geburten in ganz Deutschland.<sup>1</sup>

Schaut man sich die Hintergründe und die Situation betroffener Frauen genauer an, wird schnell klar, weshalb der Deutsche Bundestag das Gesetz verabschiedet hat:

Immer wieder gibt es schwangere Frauen, die sich in einer für sie ausweglos empfundenen Situation befinden. Sie verheimlichen ihre Schwangerschaft selbst vor ihren engsten Familienangehörigen oder verdrängen diese.

Ein reguläres Adoptionsverfahren kommt für viele nicht in Frage. Aber auch ein gemeinsames Leben mit dem Kind scheint für manche unmöglich. In den Augen der Frauen bleibt dann oftmals nur noch eine Lösung: Das Kind wegzugeben.

Die Gründe sind vielfältig:

Stellen Sie sich vor, eine junge Frau, die gerade vor ihrem Schulabschluss steht, wird ungeplant schwanger und hat Angst, mit Kind keine Ausbildung und keinen Beruf mehr zu finden.

Oder es gibt keinen Partner, keine Eltern und kein sonstiges soziales Umfeld, die die Frau unterstützen könnten.

---

<sup>1</sup> BAFzA, Juli 2018.

ドイツのいわゆる内密出産制度は、2014年5月1日に「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」をもって導入されました。

この法律の目的は、困難な状況にいることから、妊娠していることを隠す女性に、正規の支援制度への道を開き、その女性と子どもに、医療的手当を受けながらの出産を可能とすることにあります。2014年5月から2018年7月までの間に、ドイツ全土では合計467件の内密出産が行われました。<sup>1</sup>

それらの女性の背景や置かれている状況を少し詳しく見ますと、なぜドイツ連邦議会がこの法律を議決したのかという理由がすぐに分かります。

自分が絶望的な状況にいると感じている妊婦は、絶えることなく存在するのです。彼女たちは、妊娠していることを、親密であるはずの家族に対してさえも隠したり、また、妊娠していることを抑圧したりします。

子どもを正規の養子縁組に出すことは、彼女たちには選択肢とはなり得ないケースが多いのです。また、子どもと一緒に生きていくことが不可能だと感じる妊婦もいます。そういった女性から見れば、一つの解決策しか残らないケースがたくさんあります。それは、子どもを手放すことです。

その理由は様々です。

若い女性を想像してみてください。彼女は学校を卒業する直前で、望まない妊娠をしてしまい、もし子どもがいれば、教育を受けることが続けられず、就職もできなくなるのではないかという不安を抱きます。

あるいは、女性を支えることができるパートナーや両親がおらず、その他のサポートできる人もいないケースです。

---

<sup>1</sup> 「家族と市民社会問題のための連邦局」(BAFzA)、2018年7月現在

Oder eine Frau kann sich ein Leben mit Kind schlichtweg nicht vorstellen, weil sie andere Pläne hat, die sich mit einem Kind ihrer Ansicht nach nicht vereinbaren lassen.

Womöglich ist der Vater des Kindes gewalttätig oder eine Schwangerschaft ist aus einer Gewalttat hervorgegangen und ist deshalb nur schwer für die Betroffene zu ertragen.

Das kann dazu führen, dass Frauen mit ihrer Schwangerschaft überfordert sind, sich verzweifelt und allein gelassen fühlen. Sie wissen einfach nicht, wie es weitergehen soll.

Einige fürchten sogar, von Freunden, Nachbarn oder Kollegen stigmatisiert zu werden, wenn sie ihr Kind zur Adoption freigeben. Andere verdrängen ihre Schwangerschaft – manchmal sogar noch bis kurz vor der Geburt.

Für manche Frauen gibt es im Affekt dann nur noch einen letzten Ausweg: Das Kind direkt nach der Geburt auszusetzen oder zu töten. Diese sehr tragischen Fälle sind in Deutschland zwar selten, aber dennoch sehr dramatisch.

### **Anonyme Formen der Kindsabgabe**

Um dem entgegen zu wirken, gibt es in Deutschland seit langem anonyme Formen der Kindesabgabe. Dazu gehören anonyme Geburten, Babyklappen und anonyme Arm-in-Arm-Übergaben.

Sie sollen schwangeren Frauen in Notsituationen und ihren Kindern Hilfe bieten. Allein zwischen 1999 und 2010 wurden etwa 1.000 Kinder anonym geboren, in eine Babyklappe gelegt oder anonym übergeben. Pro Jahr waren es im Durchschnitt fast 100 Mütter, die ihr Kind anonym abgegeben haben. Im Jahr 2016 gab es schätzungsweise 93 Babyklappen bundesweit. Die Mehrheit ist an Kliniken angebunden.

Zu diesem Ergebnis kam die Studie „Anonyme Geburt und Babyklappen in Deutschland“ aus dem Jahr 2012, die durch das Deutsche Jugendinstitut



あるいは、子どもがいれば実現できないと思っているライフプランがあるために、子どもと一緒に生きることを全く想像できない女性もいます。

子どもの父が暴力的であるかもしれません。あるいは、その妊娠が暴力行為の結果である場合、その女性にとってはその妊娠が耐えがたい場合もあります。

このような事情は、女性が妊娠していることを過度に負担と感じたり、絶望したり、孤独を感じたりすることにつながり得るのです。彼女たちは、これからどうしたらいいのか、全く分からないのです。

もし自分の子どもを養子に出せば、友人や隣人、あるいは同僚から、汚名を着せられることさえ恐れている女性もいます。また、妊娠していることを抑圧してしまう女性もいます。場合によっては、妊娠を抑圧することが出産直前まで続くこともあります。

その場合、そうした女性の中には、感情にかられて子どもを出産直後に遺棄するか殺すという方法しか見えないことがあるのです。このような悲劇的なケースはドイツでは稀ですが、極めて痛ましいケースです。

### **匿名による子どもの委託**

このようなことを防ぐために、以前からドイツでは匿名による子どもの委託の諸制度があります。それは、匿名出産と、赤ちゃんポストと、子どもを匿名で引き渡せる制度です。

これらの制度は、困難な状況にある妊婦とその子どもに支援の手を伸ばそうとしています。1999年から2010年の間に、およそ1,000人の子どもに対して、匿名出産や赤ちゃんポストや子どもを匿名で引き渡せる制度が利用されました。年間平均100人近くの母は、自分の子どもを匿名で委託しました。2016年時点で、ドイツ全土には93か所の赤ちゃんポストがあると推定されています。その大部分は病院に設置されています。

これは、2012年にドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省の委託を受けたドイツ青少年研究所の調査研究『ドイツにおける匿名出産と赤ちゃんポスト』によって示されました。

veröffentlicht und vom Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend gefördert wurde.

Wie die Studie zeigte, wurden in Deutschland jährlich etwa 20 bis 35 Kinder direkt nach der Geburt ausgesetzt oder getötet. Hinzu kam laut Studie eine erhebliche Dunkelziffer. Darüber hinaus hat die Studie gezeigt, dass die mangelnde Rechtssicherheit bei den Betroffenen, die anonyme Formen der Kindsabgabe nutzen oder anbieten, häufig zu einer großen Unsicherheit führt.

### **Nachteile anonymer Formen der Kindsabgabe**

Die Nachteile sind: Anonyme Formen der Kindsabgabe gewährleisten weder der werdenden Mutter noch dem Kind eine medizinische Betreuung während der Entbindung.

Rechtlich bewegen sich Babyklappen in einer Grauzone, da sie das Recht des Kindes auf Kenntnis der eigenen Abstammung nicht sichern. Ein Kind, das anonym abgegeben wurde, wird vermutlich niemals erfahren, wer seine leiblichen Eltern sind. Besonders in der Pubertät, wenn junge Menschen anfangen, nach ihrer eigenen Identität zu suchen, kann dies zu einer großen Belastung werden. Viele Menschen leiden ein Leben lang darunter, ihre Wurzeln nicht zu kennen.

Aus diesen Gründen kommt für den deutschen Gesetzgeber eine Legalisierung anonymer Formen der Kindsabgabe nicht in Frage.

### **Suche nach einer sicheren Alternative**

Gesucht wurde vielmehr nach einer Alternative, die in rechtlicher, aber auch in medizinischer Hinsicht der werdenden Mutter, dem Kind als auch den beteiligten Akteuren Sicherheit bietet.

Dabei waren die Ergebnisse der Studie des Deutschen Jugendinstituts zu berücksichtigen, aus der hervorging, dass die Zusicherung absoluter Anonymität für viele Frauen eine Grundvoraussetzung ist, sich überhaupt auf einen Beratungs- und Unterstützungsprozess einzulassen und Hilfen anzunehmen.

この研究によると、ドイツでは年間おおよそ 20 人～35 人の子どもが、出産直後に遺棄あるいは殺害されるということです。さらに、この研究によれば、把握されていないケースも相当数あるとされています。それに加えて、この研究では、匿名による子どもの委託の諸制度の当事者、つまりその利用者と提供者には、法的安定性が欠けているために、多くの場合大きな不安を感じていることが明らかになりました。

### **匿名による子どもの委託のデメリット**

次のようなデメリットがあります。匿名による子どもの委託の諸形態では、母にも子どもにも医療的な手当を伴う分娩（出産）が保障されません。

赤ちゃんポストは、子どもの出自を知る権利を保障しないので、法的にはグレーゾーンにあります。匿名で委託された子どもは、生物学上の親がだれであるのか、おそらく知り得ることができないでしょう。特に思春期の、若い人が自らのアイデンティティーを探りはじめる時期には、これが大きな負担となり得ます。多くの人は、自らのルーツが分からないことを一生苦しんでいます。

ドイツの立法者にとって、匿名による子どもの委託の諸形態を合法化することが論外なのは、そのことが理由です。

### **安全な代替策の追求**

匿名による子どもの委託の諸形態の代わりに、法的な面でも、医療的な面でも、妊婦と子と関連諸機関にとっても、安定性を保障する代替策が求められました。

そのため、[困難な状況にいる女性が] 相談に出向き、支援を受け入れられるためには、絶対的な匿名性が保障されていることが多くの女性にとって大前提となっていることを明らかにしたドイツ青少年研究所の研究結果を考慮しなければなりません。

Keine Frau sollte sich mehr gezwungen sehen, ihr Kind ohne medizinische Begleitung zu entbinden und damit ihr eigenes Leben und das ihres Kindes zu gefährden.

Hauptanliegen des deutschen Gesetzgebers war es deshalb, Frauen in ihrer Notlage in einem ersten Schritt zu erreichen, ihnen Vertraulichkeit zu garantieren, sie zu stabilisieren und ihnen in einem weiteren Schritt Wege und Alternativen aus der Krise aufzuzeigen.

### **Lösung durch das Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt**

Umgesetzt wurde dies mit dem „Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt“, mit dem nicht nur die vertrauliche Geburt eingeführt, sondern auch das bereits bestehende Beratungsangebot umfassend ausgebaut wurde.

Die vertrauliche Geburt, die Frauen seither nutzen können, unterstützt Frauen, die ihre Schwangerschaft und Mutterschaft – aus den unterschiedlichsten Beweggründen – geheim halten möchten.

Bis dahin war es auch in Deutschland ein langer Weg: Viele politische Debatten wurden geführt, lange wurde über ethische Fragen gestritten, unterschiedliche Lösungen wurden vorgeschlagen, diskutiert und wieder verworfen.

So befürchteten z.B. viele, dass die Interessen der Mutter (Schutz der Anonymität) zu stark im Vordergrund stünden und deshalb die kindlichen Rechte (Herkunftsinteresse) nicht ausreichend gewahrt seien. Andere wiederum kritisierten das zu komplizierte Verfahren oder die fehlende Berücksichtigung der Väterrechte.

Es war ein langer Prozess, bis mit dem Gesetz zur vertraulichen Geburt eine ausgewogene Lösung gefunden wurde, die den unterschiedlichen Seiten Rechnung trägt.

医療的な手当を受けずに出産し、それによって自らの命と子どもの命を危険にさらすような選択肢しか見えないような状況を無くすことが狙いでした。

つまり、ドイツの立法者は、困難な状況にいる女性に、はじめの一步目で近づき、内密性を約束し、彼女たちの状況を落ち着かせ、次の一步で危機からの救いの道と選択肢を紹介することを主に狙っていました。

### **「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」による解決**

そこで、「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」が施行されました。それによって、内密出産制度が導入されただけでなく、既存の相談システムも大きく拡充されました。

それ以降、（女性が利用できるようになった）内密出産制度は、妊娠していることと、母となったことを、さまざまな理由で秘密にしておきたい女性を支援することができます。

この制度の導入までの道のりは、ドイツにおいても、長いものでした。多くの政治的議論が重ねられ、倫理的問題についても長期にわたって討論され、さまざまな解決案が提案されたり、議論されたり、退けられたりしました。

その過程には、例えば、匿名性の保障という母の利益が重視されすぎており、そのため子どもの出自を知る権利の保障が不十分であるという批判がたくさんありました。また、手続が複雑すぎることや父の権利が配慮されていないという、別の批判もありました。

様々な立場を配慮しながら、バランスを整えた結論としての内密出産法ができるまでのプロセスは、とても長いものでした。

Seit Inkrafttreten des Gesetzes haben wir in Deutschland durchweg positive Erfahrungen mit dem Gesetz gemacht: Die Hilfen sind nicht nur bekannt, sie kommen auch gut an.

Dabei ist zu berücksichtigen, dass die vertrauliche Geburt in Deutschland eine zusätzliche Möglichkeit, also eine Alternative zu den anonymen Kindsabgaben darstellt. Sie sollte die Babyklappen nicht ersetzen, sondern das bestehende Hilfsangebot lediglich erweitern.

Denn: so viele Nachteile Babyklappen auch mit sich bringen – sie können verhindern, dass ein Kind ausgesetzt oder gar getötet wird. Sie bieten in der Krise einen letzten Ausweg für Frauen, für die eine vertrauliche Geburt nicht in Frage kommt oder die sie vielleicht nicht kennen. Deshalb gibt es in Deutschland auch noch heute Babyklappen.

Dennoch ist die vertrauliche Geburt stets die medizinisch und rechtlich sicherere Alternative und den anderen Formen der anonymen Kindsabgabe vorzuziehen. Ziel des deutschen Gesetzgebers war es, Babyklappen durch das neu geschaffene Angebot soweit wie möglich überflüssig zu machen.

### **III. Was regelt das Gesetz?**

Zum Kern des Gesetzes gehören:

- die Einrichtung einer niedrighschwelligen, bundesweiten Beratung durch Telefon und Internet,
- die Entwicklung von Standards für die Beratung von Frauen mit Anonymitätswunsch,
- eine neue Handlungsmöglichkeit für Frauen mit Anonymitätswunsch – die vertrauliche Geburt
- sowie die bundesweite Bekanntmachung der Hilfen inklusive dazugehöriger, dauerhafter Öffentlichkeitsarbeit des Bundes.

内密出産法の施行以降、ドイツではこの法律のもと、一貫してポジティブな経験を積んできました。[本法律によって提供されている] 支援は、広く知られているだけではなく、よく受け入れられています。

ここで忘れてはいけないのは、内密出産はドイツでは匿名による子どもの委託の諸形態に加えた、追加の選択肢であることです。内密出産は、赤ちゃんポストの代わりとしてではなく、既存の諸制度を拡充するものであるという考えでした。

なぜならば、赤ちゃんポストには多くのデメリットが孕んでいるといっても、子どもが遺棄されたり、最悪の場合に殺害されることを防ぐことができるからです。例えば、内密出産を選択肢とできない女性や、内密出産制度について知らない女性にとって、赤ちゃんポストは危機からの救いの道となり得るからです。そういった理由で、新しい法律ができた現在でも、ドイツにはまだ赤ちゃんポストがあります。

とはいえ、[赤ちゃんポストなどの]匿名による子どもの委託の諸形態より、医療上でも法的にも安全な代替策としての内密出産制度が優先されるべきです。ドイツの立法者の目的は、新たに構築したシステムの提供によって、できるかぎり赤ちゃんポストを不要なものとすることでした。

### **III.内密出産法は何を規定するのか？**

本法律の核心には、

- 敷居の低い、連邦全体を網羅する電話とインターネットによる相談システムの設置、
- 匿名を希望する女性の相談の基準の設定、
- 内密出産制度という匿名を希望する女性のための新たな選択肢の提供、
- また、連邦による持続的な広報活動を含む支援制度の連邦全体にわたる周知といったものがあります。

## **Niedrigschwellige bundesweiten Beratung durch das Hilfetelefon „Schwangere in Not“**

Die niedrigschwellige, bundesweite Beratung wurde durch Inbetriebnahme des Hilfetelefons „Schwangere in Not“ sichergestellt.

Das Hilfetelefon ist unter einer kostenfreien Rufnummer rund um die Uhr und an allen Tagen im Jahr erreichbar. Es bietet eine anonyme und vertrauliche Beratung, die auf Wunsch auch barrierefrei und in 17 Fremdsprachen erfolgt. Somit kann sich jede und jeder Hilfesuchende beraten lassen – egal, ob weiblich oder männlich, egal, ob deutschsprachig oder nicht.

Das Hilfetelefon steht sowohl telefonisch als auch per E-Mail und Chat zur Verfügung – je nachdem, welches Kommunikationsmittel bevorzugt wird. Die Beratung per E-Mail und Chat erfolgt über die Webseite [www.geburt-vertraulich.de](http://www.geburt-vertraulich.de). Ergänzend dazu finden Hilfesuchende auch auf der Webseite [www.schwanger-und-viele-fragen.de](http://www.schwanger-und-viele-fragen.de) zahlreiche Informationen zu den Hilfen für Schwangere.

Das Hilfetelefon hat eine wichtige Erstberatungs- und Informationsfunktion, indem es über die bestehenden Hilfen in Deutschland informiert. Die Beraterinnen des Hilfetelefons – die allesamt weiblich sind – vermitteln zu den Hilfestrukturen vor Ort weiter, also zu Einrichtungen und Anlaufstellen im Umkreis der Hilfesuchenden, insbesondere zu den Schwangerschaftsberatungsstellen.

### **Das Verfahren der vertraulichen Geburt**

Um ein Kind vertraulich zu entbinden, ist in Deutschland ein zweistufiges Verfahren vorgesehen:

Der erste Schritt ist die Beratung. Ohne diese kann eine Frau ihr Kind nicht vertraulich zur Welt bringen. Jede Schwangere, die anonym bleiben möchte, muss deshalb zunächst einmal eine der ca. 1.600 Schwangerschaftsberatungsstellen in Deutschland aufsuchen. Diese bieten umfassende Hilfen zur Lösung ihres Konflikts an.



## ホットライン「困難な状況にいる妊婦」による連邦全体にわたる敷居の低い相談

連邦全体にわたる、敷居の低い相談は、ホットライン「困難な状況にいる妊婦」の運営開始によって確保できました。

このホットラインは、24 時間で年中無休、フリーダイヤルで利用可能です。匿名と内密の相談を利用でき、希望に応じてバリアフリーと 17 カ国語での対応もできます。それを通して、助けを求める人は、男女どちらでも、またドイツ語ができるかどうかにかかわらず、だれでも相談を受けることができます。

ホットラインは、利用者の希望に応じて、電話の他にメールとチャットでの利用もできます。メールとチャットによる相談は、ウェブサイト [www.geburt-vertraulich.de](http://www.geburt-vertraulich.de) を通して行います。また、それに加えて、相談を求める人はウェブサイト [www.schwanger-und-viele-fragen.de](http://www.schwanger-und-viele-fragen.de) で妊婦支援についてのたくさんの情報を得ることもできます。

ドイツで利用可能な諸支援についての情報を提供する上で、ホットラインは相談の入り口と最初の情報提供の場としての重要な役割を果たしています。ホットラインの相談員は全員女性であり、助けを求める人の近くにある支援、つまり機関と関連施設、特に妊娠相談所を紹介します。

## 内密出産の手続

子どもを内密に出産するには、ドイツでは 2 段階に及ぶ手続が想定されています。

第 1 段階目は相談です。相談を受けること無しには、女性は子どもを内密に出産することはできません。したがって、匿名を希望する全ての妊婦は、まずドイツにおおよそ 1.600 か所もある妊娠相談所を訪れなければなりません。妊娠相談所は女性が抱えている葛藤の解決のために包括的な支援を提供します。

Bei den Beratungen wird die Entscheidungsfindung der Frau professionell begleitet. Außerdem werden Wege für ein Leben mit dem Kind ausgelotet. Die Beratungen erfolgen dabei stets ergebnisoffen, das heißt die Frau wird nicht zu einer Entscheidung gedrängt und kann frei entscheiden.

Erst wenn nach eingehender Beratung feststeht, dass die Frau weiterhin anonym bleiben möchte, wird sie in einem zweiten Schritt über das Angebot und das Verfahren der vertraulichen Geburt aufgeklärt.

Dazu muss die Frau ihre Identität offenlegen – allerdings nur einmalig und auch nur einer einzigen Person gegenüber: nämlich der Beraterin der Schwangerschaftsberatungsstelle. Diese ist zur Geheimhaltung der Daten verpflichtet, nimmt den Vor- und Familiennamen der Frau auf und verwahrt beide Daten sicher in einem Umschlag.

Anschließend gibt sich die Frau ein Pseudonym, also einen frei erfundenen, selbst gewählten Vor- und Familiennamen. Sie wählt einen oder mehrere Vornamen für ihr Kind aus und wird anschließend durch die Beraterin in einer Klinik bzw. bei einer Hebamme ihrer Wahl zur vertraulichen Geburt angemeldet.

Die Beraterin informiert dann das Jugendamt über die anstehende vertrauliche Geburt, da dies ab dem Zeitpunkt der vertraulichen Geburt zum vorübergehenden Vormund des Kindes bestellt wird.

Im Anschluss daran findet – bei einer geplanten vertraulichen Geburt – die geschützte und medizinisch begleitete Entbindung in einer Klinik oder bei der Hebamme statt.

Die Klinik bzw. die Hebamme hat nun die Pflicht, die Beraterin unverzüglich über die vertrauliche Geburt zu informieren. Geburtsdatum und -ort werden dann auf einem Umschlag vermerkt und zusammen mit einem sogenannten Herkunftsnachweis an eine nachgeordnete Behörde des Bundesministeriums für Familie, Senioren, Frauen und Jugend weitergeleitet. Der Umschlag ist

相談の際には、女性が決断に至るまでのプロセスに[相談員が]プロフェッショナルとして付き添います。また、子どもと一緒に生きる道も探っていきます。相談は、常に予め結論を限定しない形で行います。つまり、女性をある決断に誘導したり急かすことなく、女性が自由に結論を決めることができます。

十分な相談を受けたけれども、女性が変わらず匿名を希望すると決断した場合に、はじめて第2段階として、内密出産の制度とその手続についての説明を受けることになります。

そのためには、女性は自分の身元を明かさなければならないのですが、しかしそれは一回のみ、妊娠相談所の一人の相談員に対してのみのことです。相談員には、この個人情報に対する守秘義務がありますが、女性の氏名を記録し、そのデータを封筒に入れて安全に保管します。

それを終わると、女性は、内密出産を進めていくための仮名を自分で自由に考えて決めます。そして、生まれてくる子どものために、一つあるいは複数の名前を選び、その後相談員をと通して、女性が選んだ病院か助産師に、内密出産の申し込みが行われます。

その後、相談員は青少年局に、予定されている内密出産について報告します。なぜならば、内密出産を行った時点から、青少年局は子どもの一時的な後見人となるからです。

こうした一連の流れを経て女性は、守られている環境で医療的当てを受けながら、病院あるいは助産院での内密な出産を行います。

病院または助産師には、行われた内密出産のことを相談員に直ちに報告する義務があります。出生の日付と場所が封筒の上に記載され、いわゆる出自証明書と一緒に、連邦家族・高齢者・女性・青少年省に従属する役所に届けられます。封筒は確実に封印されて金庫に保管されます。中の情報はだれにも閲覧できない状態です。

sicher verschlossen und wird in einem Safe verwahrt. Die Daten sind damit für niemanden einsehbar.

Außerdem hat die Klinik bzw. die Hebamme die Aufgabe, spätestens eine Woche nach der Geburt des Kindes das Standesamt zu informieren, damit die Geburt dort offiziell registriert werden kann. Auch diese Information bezieht sich ausschließlich auf das Pseudonym der Mutter und den gewählten Namen des Kindes. Die wahren Daten der Mutter werden hierbei nicht bekannt gegeben.

Eine bereits erfolgte Geburt kann in Deutschland unter engen Voraussetzungen übrigens auch noch nachträglich als vertraulich behandelt werden. In diesem „spontanen Fall“ muss die Beratung spätestens innerhalb der ersten Woche nach der Geburt des Kindes nachgeholt werden.

### **Wie geht es nach der Geburt des Kindes weiter?**

Meist kann sich die Mutter auch nach der Geburt des Kindes ein Leben mit dem Kind nicht vorstellen. Deshalb wird ein Adoptionsverfahren eingeleitet, damit das Kind schnellstmöglich adoptiert werden kann.

Nach Ablauf von 16 Jahren erhält das Kind dann das Recht, Einsicht in den sicher verwahrten Herkunftsnachweis zu nehmen. Auf diese Weise kann es erfahren, wer seine leibliche Mutter ist.

Dem Einsichtsrecht des Kindes kann die leibliche Mutter übrigens widersprechen – allerdings nur bei sehr wichtigen Gründen. Beispielsweise, wenn das Kind aus einer Vergewaltigung hervorgegangen ist und die Mutter auch nach 16 Jahren noch ein berechtigtes Interesse an der Aufrechterhaltung ihrer Anonymität hat.

Die Entscheidung darüber, ob das Kind in diesem besonderen Fall nicht die Identität seiner leiblichen Mutter erfahren darf, trifft das zuständige Familiengericht nach eingehender Abwägung der mütterlichen und kindlichen Interessen.

さらに、病院あるいは助産師には、出生が正式に登録されるように、遅くとも出生一週間後までに身分登録所に連絡する義務があります。この際に必要な情報も、母の仮名と母が選んだ子どもの名前のみです。母の実際の情報は、ここでは一切明かされることはありません。

ところで、ドイツでは、すでに行われた出産も、厳密な条件を満たしていれば、事後であっても内密出産として取り扱うことができます。このような「とっさの決心」の場合、女性は、本来は事前に受けているべき相談を、子どもの出生から一週間以内に受けなければなりません。

### **子どもの出生後には、どのような流れがあるのでしょうか？**

多くの場合、女性は出産して母となった後でも、子どもと一緒に生きることを想像できません。そこで、できるだけ速やかに子どもの養子縁組の手続を開始します。

16年後、子どもには、確実に保管されている出自証明書を開覧する権利が与えられます。このようにして、自分の産みの母がだれであったのかを知ることができます。

ところで、子どものこの開覧権に対して、産みの母は異議を申し立てることができます。但し、それが認められるのは、極めて重要な事情がある場合のみです。例えば、子どもが強姦による結果で妊娠したような場合は、16年後であっても、母には自らの匿名性を保持する正当な理由があると想定できます。

このような特殊なケースでは、子どもが生みの母の身元を知ることができるかどうかについては、母子両方の利益を考量した後に、家庭裁判所によって判断されます。

Es gibt aber auch den umgekehrten Fall, wenn sich die leibliche Mutter nach der vertraulichen Geburt dafür entscheidet, ihr Kind zu behalten oder zumindest ihre Identität zu offenbaren, um mit dem Kind in Kontakt bleiben zu können. Dafür hat sie bis zum rechtskräftigen Adoptionsbeschluss Zeit, was in Deutschland in der Regel etwa ein Jahr lang dauert.

Sofern sich die leibliche Mutter für ein Leben mit ihrem Kind entscheidet, muss sie ihre Anonymität aufgeben, also ihre wahre Identität behördlich angeben. Zudem muss ihre Mutterschaft zweifelsfrei festgestellt werden und das Familiengericht muss einer Rücknahme des Kindes zustimmen. Das wiederum ist nur dann möglich, wenn das Kindeswohl nicht gefährdet ist. Nach Zustimmung durch das Familiengericht erhält die Mutter die elterliche Sorge zurück.

### **Wie wird das neue Angebot umgesetzt?**

Das Verfahren der vertraulichen Geburt fußt auf einer engen Zusammenarbeit vieler verschiedener Akteure. Schwangerschaftsberatungsstellen, Ärztinnen und Ärzte, Hebammen, Kliniken, Adoptionsvermittlungsstellen, Jugendämter, Standesämter und Familiengerichte: sie alle müssen gut über das Verfahren und ihre eigene Rolle informiert sein, um einen reibungslosen Ablauf sicherstellen zu können. Eine gute Vernetzung der Akteure ist also A und O.

### **Was ist mit den Kosten der Geburt?**

Die Kosten für die Geburt sowie für die Vor- und Nachsorge werden in Deutschland vom Bund übernommen, also vom Bundesfamilienministerium.

### **Wie werden die Hilfen bekannt gemacht?**

Der Bund wurde durch den Gesetzgeber per Gesetz nicht nur zur Kostentragung verpflichtet, sondern auch dazu, die Hilfen für Schwangere in Not, insbesondere das Hilfetelefon und die vertrauliche Geburt, dauerhaft und flächendeckend bekannt zu machen.

Das Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend betreibt daher seit Mai 2014 eine intensive und breit angelegte Öffentlichkeitskampagne.

しかし、それとは逆のケースもあります。産みの母が内密出産後に子どもと一緒に生きることを決断したケースや、あるいは、子どもとコンタクトをとりあえるように、少なくとも自らの身元を明かすことを決断したケースもあります。産みの母は、この決断を養子縁組の手続きが完了するまでに行うことができます。ドイツでは、それは通常一年かかります。

産みの母が子どもと一緒に生きることを決断した場合には、自らの匿名を放棄する、つまり本当の身元を、行政に対して明かさなければなりません。さらに、産みの母であることが疑いの余地なく確認され、家庭裁判所からも子どもの取り戻しへの承認を得なければなりません。この承認がおりるのは、子の福祉に危機をもたらさない場合のみになります。家庭裁判所の承認を得た後、産みの母の配慮権は復活します。

### **新しい制度はどのように実施されているのでしょうか？**

内密出産の手続は、さまざまな関係諸機関の密接な連携の上で行われています。円滑な流れを保障できるように、妊娠相談所、医師、助産師、病院、養子縁組斡旋機関、青少年局、身分登録所、家庭裁判所は、内密出産の手続と、それにおける自分の役割について、十分な情報を持たなければなりません。つまり、関係諸機関がよい連携を取っていることが、核心的な要素となります。

### **出産の費用はどうなるのでしょうか？**

出産および妊娠健診と出産後の診断にかかる費用は、ドイツでは連邦、つまり連邦家族省が負担します。

### **支援制度はどのように周知されるのでしょうか？**

連邦には、立法者によって、この法律で費用を負担する義務が定められているだけでなく、特に「困難な状況にいる妊婦」というホットラインと内密出産制度を持続的に連邦全体にわたって周知する義務も負わせられました。

それを受けて、連邦家族・高齢者・女性・青少年省は 2014 年 5 月から徹底的で広範囲にわたる広報キャンペーンを展開しています。

Die Erfahrungen in Deutschland haben gezeigt, dass möglichst viele verschiedene Kanäle genutzt werden sollten, um über die Hilfen zu informieren – also zum Beispiel über Internet, Printmedien, Rundfunk, Fernsehen und natürlich auch über Veranstaltungen wie diese.

In diesem Jahr hat das Bundesfamilienministerium erstmals Neuland betreten, indem es neben den bisherigen Onlineangeboten jetzt auch über Youtube und Instagram auf die Hilfen für Schwangere in Not aufmerksam macht.

Auf diese Weise haben wir eine ganz besonders junge Zielgruppe erreichen können, nämlich Mädchen, Jungen und Jugendliche, für die die sozialen Netzwerke ganz selbstverständlich zum Alltag gehören.

Aber auch Plakate in Raststätten, in Wartezimmern von Arztpraxen, Visitenkarten, Flyer oder Onlinebanner zum Thema haben sich in Deutschland sehr bewährt.

Zu guter Letzt kommt es natürlich auch darauf an, geeignete Kooperationspartner zu finden. So hat sich für die Bekanntmachung der Hilfen eine unter den deutschen Jugendlichen bekannte Bloggerin bereit erklärt, auf Youtube und Instagram Videos zum Hilfetelefon und den Schwangerschaftsberatungsstellen zu veröffentlichen. Die Klickzahlen waren bereits nach kurzer Zeit enorm hoch und machen deutlich, dass die Hilfen für Schwangere in Not über Social Media weit gestreut werden können.

Auch mehrere Hersteller von Schwangerschaftstests unterstützen die Bekanntmachung der Hilfen engagiert. So gibt es mittlerweile große namhafte Unternehmen<sup>2</sup>, die auf den Verpackungen oder den Beipackzetteln ihrer Schwangerschaftstests oder auf ihren Webseiten<sup>3</sup> auf das Hilfetelefon aufmerksam machen und den Weg in die Beratung aufzeigen.

---

<sup>2</sup> gabmed GmbH, LaVita GmbH, Rossmann AG, UEBE medical GmbH

<sup>3</sup> Procter & Gamble



ドイツでの経験から明らかになったのは、支援制度について情報を提供するには、できるだけ多くのメディアの利用が望ましいということです。例えば、インターネットやプリントメディア、ラジオ放送、テレビ、また、当然ながらこのシンポジウムのようなイベントも一つの手段です。

今年、連邦家族省は初めて未知の領域に足を踏み入れました。それは何かといいますと、これまでのオンライン情報の提供に加えて、ユーチューブとインスタグラムを通して困難な状況にいる妊婦のための支援の周知を行ったことです。

このような媒体を介する情報提供は、ソーシャルネットワークが日常のごくあたりまえの一部となっている、女子や男子、青少年という、とりわけ若いターゲットグループにとって効果的な方法です。

それだけではなく、レストハウスや病院の待合室、名刺、パンフレット、オンラインバナーもドイツではとても効果的だと見なされています。

当然ながら、最終的には、適切な連携パートナーを探ることが重要です。例えば、支援について周知するにあたって、ドイツの若者の間でよく知られているブロガーが、ユーチューブとインスタグラムで、ホットラインと妊娠相談所についてのビデオを公開することに協力してくれました。これにアクセスした件数は開始直後にすでにとても多かったことから、ソーシャルメディアが困難な状況にいる妊婦のための支援のことを広く広報する手段として効果的であることが明らかになりました。

また、妊娠テストのメーカー企業のいくつかも、支援制度を周知することに積極的に協力しています。例えば、妊娠テストのパッケージや説明書、またはホームページ上<sup>2</sup>の記載でホットラインのことを周知して、相談への道しるべ役を買って出る有名な大企業<sup>3</sup>もすでいくつかあります。

---

<sup>2</sup> Procter & Gamble

<sup>3</sup> gabmed GmbH, LaVita GmbH, Rossmann AG, UEBE medical GmbH

#### **IV. Welche Erfahrungen hat Deutschland mit dem Gesetz gemacht?**

Seit Inkrafttreten des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt im Mai 2014 haben wir uns viele Fragen gestellt, vor allem:

- Können wir Frauen, die sich in einer Notsituation befinden, tatsächlich erreichen?
- Lässt sich das nicht ganz einfache Verfahren der vertraulichen Geburt in der Praxis ohne Probleme umsetzen?
- Wie verhält sich das neue Angebot zu anderen bestehenden anonymen Angeboten, also zu Babyklappen, anonymen Geburten und zu anonymen Arm-in-Arm-Übergaben?
- Hat sich das Modell der vertraulichen Geburt bewährt?
- Und wie häufig wird es in Anspruch genommen?

#### **Evaluation des Gesetzes**

Zur Beantwortung dieser und noch vieler weiterer wichtiger Fragen wurde das Gesetz im Auftrag des Bundesministeriums drei Jahre lang evaluiert.

Die Evaluation zum Gesetz zur vertraulichen Geburt wurde letztes Jahr im Juli veröffentlicht. Parallel dazu legte die Bundesregierung dem Deutschen Bundestag einen Bericht vor, der auf den Ergebnissen der Evaluation basiert.

#### **Wesentliche Ergebnisse der Evaluation**

Erfreulicherweise zeigt sich, dass das Gesetz wirkt und die Hilfen für Schwangere in Not ankommen.

Die unterschiedlichen Maßnahmen des Hilfesystems sind so gestaltet, dass sie dem Ziel, Schwangere in Notlagen an geeignete Lösungen heranzuführen, gerecht werden. Zu ihren wesentlichen Merkmalen gehören ein niedrighschwelliger Zugang, eine durchgängige Erreichbarkeit, eine flächendeckende und dauerhafte Verfügbarkeit sowie Verlässlichkeit.

Der vom Bundesfamilienministerium stark forcierte Ausbau der Hilfen für Schwangere hat nicht nur dazu geführt, dass das Hilfesystem mittlerweile gut

#### IV. ドイツでは内密出産法でどのような経験を積んできたのか？

「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」が 2014 年 5 月に施行されてから、私たちには気になった点がたくさんありました。それは、特に次の点です。

- 困難な状況におかれた女性に、この制度は本当に届いているのでしょうか。
- 決して簡単ではない内密出産の手続は、実践において問題なく導入され得るのでしょうか？
- [内密出産という]新しいシステムは、既存の匿名による子どもの委託の諸形態、つまり赤ちゃんポスト、匿名出産、匿名での子どもの引き渡しとどのように関わってくるのでしょうか？
- 内密出産制度は成功したのでしょうか？
- どのぐらい利用されるのでしょうか？

#### 法律の評価調査

このような、またその他のたくさんの重要な点を明らかにするために、連邦省の委託によって、本法律は 3 年間にわたって評価されました。

内密出産法に関する評価調査報告書が昨年 7 月に公開されました。それと平行して、連邦政府はこの評価調査の結果に基づく報告書を、ドイツ連邦議会に提示しました。

#### 評価調査の主な結果

幸いなことに、本法律は効果的であることと、困難な状況にいる妊婦のための支援が [必要とされる女性たちに]届いているということが明らかになりました。

支援システムのさまざまな取り組みは、困難な状況におかれた妊婦に適した解決策となり得る支援を提供するという目的に適っているのです。その主な特徴とは、敷居が低いこと、24 時間対応可能であること、連邦全体にわたって持続的に利用可能なことと信頼性があることです。

連邦家族省が妊婦支援の拡大に力を入れた結果として、支援制度がよく知られるようになっただけでなく、とてもよく受け入れられているという結果にも結びつきました。この取り組みがなければ相談に至ることがなかったとされる数多くの女性にも、この支援を届けること

bekannt ist, sondern auch, dass es sehr gut angenommen wird. Nur so können wir viele Frauen erreichen, die sonst den Weg in die Beratungsstellen vielleicht nicht gefunden hätten.

### **Ergebnisse in Zahlen**

So war beispielsweise das Hilfetelefon „Schwangere in Not“ vor zwei Jahren in Deutschland bereits ein Drittel der befragten Frauen im Alter von 15 und 45 Jahren bekannt.

Mehr als 80 Prozent der Frauen wussten zudem, dass es Beratungsstellen zu Fragen rund um die Themen Schwangerschaft und Schwangerschaftskonflikt gibt. Viele Frauen wussten auch, wo oder wie sie diese Beratungsstellen finden können.

Fast die Hälfte der befragten Frauen kannte das Gesetz zur vertraulichen Geburt.

Zwischen Anfang Mai 2014 und Ende September 2016 wurden knapp 1.300 schwangere Frauen in Not in einer Schwangerschaftsberatungsstellen beraten. Viele der beratenen Frauen litten schwere persönliche Not, zum Beispiel verursacht durch Gewalterfahrungen oder durch Angst vor Gewalt.

Oftmals ist es durch die Beratung gelungen, dass sich Frauen für ein Leben mit dem Kind oder für eine reguläre Adoptionsfreigabe entschieden haben, statt eine vertrauliche Geburt oder eine anonyme Form der Kindsabgabe zu wählen:

- In rund 15 Prozent der Fälle entschieden sich Frauen für eine reguläre Adoption.
- In rund 26 Prozent der Fälle wollten die Frauen ihr Kind behalten.

Etwa 20 Prozent wählten eine vertrauliche Geburt.

Knapp 40 Prozent der Frauen bevorzugten andere Lösungen, also anonyme Geburten, Babyklappen oder einen Schwangerschaftsabbruch. Zum einem Teil hatten sich Frauen zum Zeitpunkt der Befragung noch nicht für eine Lösung

に成功しました。

## データにみる結果

例えば、ホットライン「困難な状況にいる妊婦」は、すでに 2 年前にはドイツの 15 歳～45 歳の女性の 3 分の 1 に知られていました。

さらに、女性の 80%以上は、妊娠や妊娠葛藤をめぐるテーマのための相談所があることを知っていました。多くの女性は、どこで、あるいはどのように、このような相談所を見つけることができるかも知っていました。

調査対象の女性の半分弱は、内密出産法のことを知っていました。

2014 年 5 月の初めから 2016 年 9 月末までの間に、困難な状況にいる 1.300 人弱の妊婦が妊娠相談所で相談を受けました。相談を受けた女性の多くは、例えば暴力を受けたの経験や、暴力への恐怖から生じた個人的な困難に苦しんでいました。

多くのケースでは、女性たちは相談を通すことによって内密出産や匿名による子どもの委託の道を選ぶことなく、子どもと一緒に生きること、あるいは正規の養子縁組に出すことを決断しました。

- ケースのおおよそ 15%では、女性は子どもを正規の養子縁組に出すことを決断しました。
- ケースのおおよそ 26%では、女性は子どもと一緒に生きていくことを選びました。

おおよそ 20%の女性が内密出産を選びました。

女性の 40%弱は、その他の道、つまり匿名出産、赤ちゃんポスト、あるいは妊娠人工中絶を選びました。一部の女性は、調査の時点では、どの解決方法にするかまだ決めていなかったか、その決断を妊娠相談所にまだ伝えていませんでした。

entschieden oder der Schwangerschaftsberatungsstelle ihre Entscheidung noch nicht mitgeteilt.

Im Ergebnis haben sich damit fast zwei Drittel der Frauen für eine Lösung im Sinne des Kindes entschieden

### **Weitere Ergebnisse**

Die professionellen Akteure sind mittlerweile gut über das Gesetz zur vertraulichen Geburt und den Ablauf informiert und bewerten die Möglichkeit der vertraulichen Geburt positiv.

Auch in der Bevölkerung wird das Angebot der vertraulichen Geburt positiv bewertet, insbesondere der im Gesetz verankerte Interessenausgleich zwischen Mutter und Kind.

Das Hilfetelefon wurde ebenfalls gut angenommen. Es leistet damit einen sehr wichtigen Beitrag zur Erst- und Krisenberatung und ist Türöffner in die Schwangerschaftsberatung

### **Kann die vertrauliche Geburt andere Formen anonymer Kindsabgabe zurückdrängen?**

Das alles sind positive Ergebnisse. Eine Kernfrage aber ist noch offen: Trägt die vertrauliche Geburt wie erhofft dazu bei, andere Formen der anonymen Kindsabgabe zurückzudrängen?

Hochrechnungen zufolge haben sich über 40 Prozent der Frauen nach eingehender Beratung für eine vertrauliche Geburt anstelle einer anonymen Form der Kindsabgabe entschieden.

Die Zahlen steigen kontinuierlich. Im Durchschnitt wurden seit Mai 2014 pro Monat neun Kinder vertraulich geboren.

Auch wenn die Inanspruchnahme von Babyklappen in Deutschland statistisch nicht erfasst wird und damit keine validen Zahlen vorliegen, so geht aus der

結果として、ほぼ 3 分の 2 の女性は、子どもの利益を配慮した道を選びました。

## その他の結果

関連する専門諸機関は内密出産法についても、その手続についても、すでに十分な情報を持っており、内密出産という選択肢があることをポジティブに評価しています。

国民からも、内密出産制度、とりわけ内密出産法によって保障されている母と子どもの間の利益調整がポジティブに評価されています。

ホットラインも同様に、ポジティブに受け入れられています。ホットラインは、相談への足がかりとして、また危機的状況の相談において、特に重要な役割を果たしており、妊娠相談への道を開くことに貢献しています。

## 内密出産制度は匿名による子どもの委託の諸形態を押し戻すことができるのでしょうか？

これまでに述べたのは、全てポジティブな結果です。しかし、一つの核心的な問題にはまだ触れていません。当初の期待の通り、内密出産制度は匿名による子どもの委託の諸形態を減らすことにつながるのでしょうか？

推定では、女性の 40%以上は徹底的な相談を受けた結果、匿名で子どもを手放す代わりに内密出産を決断しました。

そしてこの割合は、絶えず増えてきています。

2014 年 5 月以降、月平均 9 人の子どもが内密に生まれています。

ドイツでは赤ちゃんポストの利用に関する統計がなく、信頼できるデータがないにもかかわらず、内密出産制度の利用件数から、医療的な手当てのない出産の数が減ったことを明確に読みとることができます。

Inanspruchnahme der vertraulichen Geburt deutlich hervor, dass sie die Zahl medizinisch unbegleiteter Geburten reduziert hat.

Das zeigt: Der zweistufige Beratungsansatz des Gesetzes funktioniert!

### **Wie geht es weiter?**

So erfreulich die Ergebnisse aus der Evaluation und dem Bericht der Bundesregierung auch sind: Die Bundesregierung wird sich auf den positiven Zahlen nicht ausruhen. Der Bericht und die Evaluation sind vielmehr wichtige Quellen, aus denen wir schöpfen und unsere nächsten Aufgaben ableiten. Wir werden weiter an Verbesserungen arbeiten.

So bestehen bei einzelnen Aspekten wie dem Transport des Kindes nach einer erfolgten vertraulichen Hausgeburt, der Einsichtnahme des Kindes in den Herkunftsnachweis oder der Suche des Kindes nach seiner leiblichen Mutter noch Fragen zur Umsetzung.

Hier empfiehlt der Bericht der Bundesregierung zum Beispiel zusätzliche Informationsmaterialien oder frühzeitig zu klären, wie Adoptionsvermittlungsstellen in das Verfahren der Einsichtnahme in den Herkunftsnachweis eingebunden werden können, damit sie ihre fachlichen Kompetenzen und Erfahrungen effektiv mit einbringen können.

Es liegt also noch Arbeit vor uns und wir müssen gut überlegen, wie wir das Gesetz in diesen Punkten am besten umsetzen können.

Die Bundesregierung will auch die Netzwerkarbeit der Akteure weiter stärken und unterstützen. Dazu sollen Erfahrungsberichte von professionellen Akteuren sowie gute Praxisbeispiele veröffentlicht werden. Den verschiedenen Berufsgruppen können so wertvolle Hinweise gegeben werden, wie die Zusammenarbeit untereinander noch besser gelingen kann.

Zudem hat sich die Bundesregierung zum Ziel gesetzt, das Verständnis in der Bevölkerung für Eltern zu stärken, die ihr Kind zur Adoption freigeben.



つまり、内密出産法の 2 段階に及ぶ相談コンセプトは効果的ということです！

### **これからの展望はなんですか？**

評価調査および連邦政府の報告の結果は喜ばしいものですが、連邦政府はこのポジティブなデータに甘んじて怠けてはいけません。我々は、報告書と評価調査報告書を重要な情報源として、そこから今後の課題を導き出していきます。そして今後も改善に努めて参ります。

例えば、内密出産の流れの中に各々の課題が残っており、例えば内密に行われた自宅出産の子どもの運搬方法や、子どもの出自証明書の閲覧について、あるいは子どもが産みの母を探す場合などについて、実践面の課題が残っています。

これに関して、連邦政府の報告書が提案しているように、例えば、追加の情報資料の作成や、養子縁組斡旋機関が専門的な技能と経験を効率よく役立てるために、出自証明書の閲覧における手続に関与させられるかということについて、早い段階で確認することが必要です。

つまり、我々にはまだ課題が残っていて、これらの点において、どのようにすれば最も効果的に法律を実施できるかということを我々はよく考えなければなりません。

さらに、連邦政府は関係諸機関同士のネットワークをさらに強化させ、支援していくつもりです。そのために、専門の関係諸機関からの経験の報告および優れた取り組みの実例についても公開していく予定です。こうすることによって、それぞれの職業の間の協力をさらにどのように改善できるかについて、貴重な指摘ができるからです。

さらに、連邦政府は、自らの子どもを養子に出す親に対して、国民の理解を促進することを目的として設定しています。子どもを養子に出すことに対して、汚名を着せることがないようにすべきです。これに関しても適切な措置をとって参ります。

Adoptionen sollen nicht mehr länger mit einem Stigma verbunden sein. Auch hier werden entsprechende Maßnahmen ergriffen.

Schwangerschaftsberatungsstellen müssen weiter als Begleiter und Unterstützer von Frauen und Männern zu allen Themen rund um Schwangerschaft und Geburt bekannt gemacht werden. Frauen wie Männer sollen auf diese Weise möglichst früh erreicht werden.

Dabei wollen wir vor allem auch Gruppen in den Blick nehmen, die unsere besondere Unterstützung benötigen: Geflüchtete Menschen und Menschen mit Beeinträchtigungen.

Aber auch eine besonders junge Zielgruppe – nämlich Mädchen, Jungen und Jugendliche – soll noch besser über die Hilfen informiert sein. Deshalb wollen wir Jugendliche im Rahmen der Sexualaufklärung noch besser über die bestehenden Unterstützungs- und Hilfeangebote informieren. Um auch bei der Jugend am Ball zu bleiben, wollen wir den beschriebenen Weg über die sozialen Medien weitergehen.

Denn unser Ziel ist es, dass jedes Mädchen, jede Frau, jeder Junge und jeder Mann in Deutschland die Hilfen für Schwangere kennt und weiß, wohin man sich vertrauensvoll wenden kann.

Wie Sie sehen, ist Deutschland auf dem richtigen Weg.

## **V. Ist das deutsche System auf andere Länder übertragbar?**

Meine sehr verehrten Damen und Herren,

wir beobachten schon seit einiger Zeit mit großer Freude, dass auch andere Länder sich für das Modell der vertraulichen Geburt und die Erfahrungen, die in Deutschland gemacht wurden, interessieren. Hierzu gehören neben Japan zum Beispiel auch Dänemark und die Niederlande.

In Dänemark wurde in diesem Jahr beispielsweise eine Studie zu anonymen Formen der Kindsabgabe entwickelt, die sich intensiv auch mit dem Angebot

妊娠と出産に関わるすべてのテーマに関して、付き添い支援する者としての妊娠相談所の存在を今後も広く周知していかなければなりません。女性にも男性にも、このようにしてできるだけ早い段階で情報を届けたいと思っています。

その際、とりわけ我々の特別な支えを必要としているグループも視野に入れる予定です。そのグループとは、難民と障害をもつ人です。

また、とりわけ若いターゲットグループ、つまり女子、男子と青少年にも、さらに力を入れて支援制度についての情報を提供して行く予定です。若い彼らには、性教育の枠内で、提供されている支援制度についての情報をよりよく届けるつもりです。青少年にも情報が届くように、先ほど紹介したソーシャルメディアを通しての宣伝を今後も続けていきたいと思えます。

なぜならば、ドイツにいる全ての女子、女性、男子、男性が妊婦のための支援のことであり、信頼できる相談がどこで受けられるかをみんなが知っている状態にすることが我々の目的です。

皆様に見えるように、ドイツは正しい道を、踏み込んで進んでいきます。

## **V.ドイツの制度は他国に転用可能なのか？**

会場の皆様、

大変喜ばしいことに、他国もドイツが内密出産制度とその制度で積み重ねてきた経験に興味を示していることに気がつきました。それは、日本の他に、例えばデンマークとオランダです。

デンマークでは、今年、匿名による子どもの委託の諸形態についての調査研究がなされました。その中で、ドイツの内密出産制度も徹底的に取り扱われています。その結果はまだ出ていませんが、楽しみに待っています。

der vertraulichen Geburt in Deutschland befasst. Die Ergebnisse liegen noch nicht vor, aber ich warte mit Spannung darauf.

Inwieweit sich ein gutes System auf ein anderes Land übertragen lässt, hängt von vielen Faktoren ab. Unter anderem spielen dafür die tatsächlichen und rechtlichen Vorgaben des jeweiligen Landes eine entscheidende Rolle. Gerade das sensible Thema „Umgang mit Kindsabgaben“ birgt eine Vielzahl ethischer Fragen und wird häufig sehr kontrovers beurteilt. Das macht es nicht gerade leicht.

Trotzdem lohnt es sich, seine Kraft zu investieren und für neue Möglichkeiten und Verbesserungen der Hilfe für Mutter und Kind zu kämpfen. Dafür braucht es einen langen Atem, aber auch eine gewisse Hartnäckigkeit.

Die Universität Kumamoto leistet hierbei einen wichtigen Beitrag, indem sie weiterhin mit Nachdruck auf das Thema aufmerksam macht. Mit dem heutigen zweiten Symposium ist bereits ein weiterer Schritt gelungen, der uns näher ans Ziel führt.

## **Schluss**

Sehr geehrte Damen und Herren,

es war mir eine große Ehre, heute zu Ihnen zu sprechen.

Natürlich könnte ich Ihnen an dieser Stelle noch viel mehr über die vertrauliche Geburt in Deutschland erzählen. Aber dafür reicht die Zeit leider nicht.

Ich hoffe jedoch, dass meine Botschaft angekommen ist, welche Vorteile die vertrauliche Geburt im Vergleich zu anonymen Formen der Kindsabgabe bietet.

Ich bin sehr gespannt, ob Japan sich für die Einführung der vertraulichen Geburt entscheiden wird – ob nach deutschem Modell oder in ähnlicher Weise. Für Schwangere in Not wäre damit viel erreicht.

よいシステムを他国に転用できるかどうかは、たくさんの要因によるものでしょう。転用が可能かどうかを決定づける要因は、とりわけそれぞれの国の現状と法律上の事情でしょう。「子どもの委託の取り扱い」はとりわけデリケートなテーマであり、また、数多くの倫理的な問題をはらんでいるため、多くの場合その評価についての意見も激しく分かれます。それは、ことを難しくしてしまいます。

しかしながら、母子支援の新たな可能性と改善のために力を注いで戦うことは、実を結ぶために必要なことです。また、長期的な視野と頑固さも必要です。

熊本大学は、このテーマを継続的に取り上げて注目させることで、それに重要な貢献を果たしています。本日開催されている、二回目のシンポジウムでは、目的に向ってもう一歩進むことにつながるのではないかと思います。

## 終わりに

会場の皆様、

今日皆様の前でお話しすることができて大変光栄でした。

もちろん、ドイツでの内密出産について、まだたくさん話すことがあります。しかし残念ながら、そのための時間が足りません。

しかし、匿名による子どもの委託の諸形態と比べれば、内密出産制度にどのようなメリットがあるかという私のメッセージを皆様に届けられたらと期待しています。

日本がドイツの制度をモデルとして、あるいは似た形で内密出産制度の導入を決めるかどうか、私は楽しみにしています。困難な状況にある妊婦には大きなメリットがあると思います。

母子の新しい救済支援の可能性を探る今後の旅路でのご多幸をお祈りします。今日と明日のこのシンポジウムが、実りの多い興味深い意見交換の場となることを願っています。

ご清聴ありがとうございました。

Bei der weiteren Reise zu neuen Möglichkeiten der Hilfe für Mutter und Kind wünsche ich Ihnen viel Erfolg. In diesem Sinne danke ich für Ihre Aufmerksamkeit und wünsche uns heute und auch noch morgen einen spannenden und vor allem ergebnisreichen Austausch!

Vielen Dank



# Implementierung und Umsetzung der vertraulichen Geburt

## Praxiserfahrungen und Reflexionen aus Sicht der Schwangerschaftsberatung

Heike Pinne  
pro familia Offenbach

1

### Heike Pinne

- Dipl.-Sozialpädagogin
- Systemische Therapeutin und Sexualtherapeutin
- Seit 19 Jahren Schwangerschaftsberaterin, Leiterin der Beratungsstelle in Offenbach
- Seit 10 Jahren Ausbildung von zukünftigen Schwangerschaftsberater\*innen
- Beteiligt am Konsultationsprozess zur Entwicklung von Beratungs- und Qualifizierungsstandards zur *Vertraulichen Geburt*
- Zahlreiche Fortbildungen zum Thema *Vertrauliche Geburt* durchgeführt
- Regelmäßige Schulung der Beraterinnen des „Hilfetelefon Schwangere in Not“

2



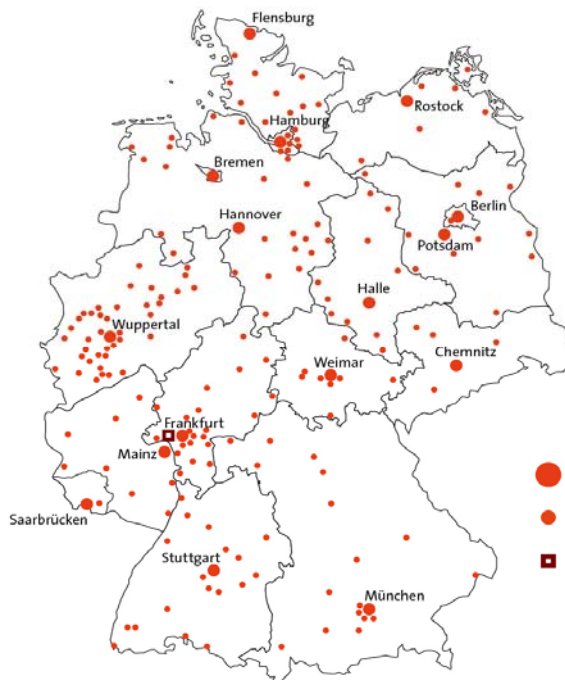
## 内密出産制度の導入および実施の現状 妊娠相談員の経験と一考察

ハイケ・ピンネ  
プロファミリア オフエンバッハ

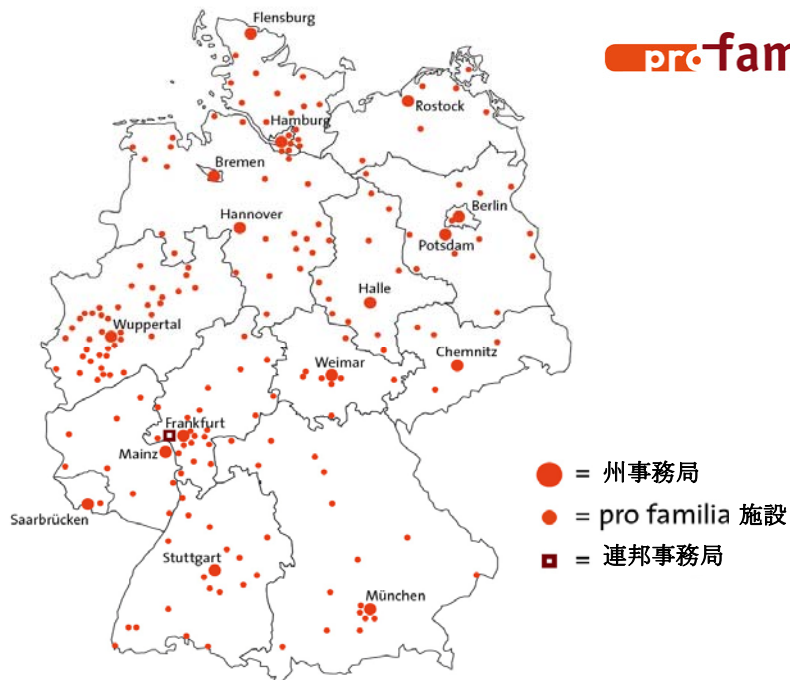
### ハイケ・ピンネ

- 社会教育学士
- システミック療法士、セックス療法士
- 19年前から妊娠相談員、オフエンバッハ相談所支部長
- 10年前から妊娠相談員の育成に携わる
- 内密出産の相談基準および相談員資格基準の考案に関わる
- 内密出産について数多くの研修を実施
- ホットライン「困難な状況にいる妊婦」の相談員の定期研修を担当

- größte nichtstaatliche Organisation in Deutschland für Sexual-, Schwangerschafts- und Partnerschaftsberatung in Deutschland
- Gründungsmitglied der International Planned Parenthood Federation (IPPF)
- Lobbyarbeit (national und international) für sexuelle und reproduktive Gesundheit und Rechte (SRGR)
- Ca. 180 Beratungsstellen, alle arbeiten in der Beratung Schwangerer auf gesetzlicher Grundlage



- セックス、妊娠、パートナーシップに関わる相談のためのドイツで最大のNGO組織
- 国際家族計画連盟 (IPPF) の創立メンバー
- 性と生殖に関わる健康と権利のための(国内外の)ロビーイング活動
- おおよそ180か所の相談所を運営、その全ては法的根拠に基づいて妊婦の相談を行っている



## Gliederung

- Schwangerschaftsberatungsstellen: gesetzliche Aufgaben und Tätigkeitsprofil
- Einführung der Vertraulichen Geburt: Qualifizierung der Berater\*innen, Netzwerke installieren
- Erfahrungen aus vier Jahren Praxisarbeit und sechs begleiteten Fällen
- Fazit

## Gesetzlicher Auftrag

### Schwangerschaftskonfliktgesetz

- Pflichtberatung vor einem Schwangerschaftsabbruch
- Allgemeine Schwangerschaftsberatung

*„Jede Frau und jeder Mann hat das Recht, sich (...) in allen eine Schwangerschaft unmittelbar oder mittelbar berührenden Fragen von einer hierfür vorgesehenen Beratungsstelle auf Wunsch anonym informieren und beraten zu lassen.“ § 2 SchKG*

## 目次

- 妊娠相談所: 法律に定められている役割と活動の特徴
- 内密出産制度の導入: 相談員の資格認定、ネットワークの創設
- 4年間(うち内密出産は6件)の実践からの経験
- 結論

## 法律に定められた役割

### 妊娠葛藤法 (SchKG)

- 妊娠人工中絶前に義務付けられている相談
- 一般の妊娠相談

「すべての女性及び男性は、(…)妊娠に直接または間接的に関連するあらゆる問題について、これらの問題のために定められた相談所から希望に基づき匿名で情報提供を受け、かつ相談をしてもらう権利を有する。」  
妊娠葛藤法第2条

## Gesetzlicher Auftrag

### Schwangerschaftskonfliktgesetz

- Pflichtberatung vor einem Schwangerschaftsabbruch
- Allgemeine Schwangerschaftsberatung

#### Außerdem ...

- Familienplanungsberatung
- Beratung Einzelner und Paare zu Partnerschaft und Sexualität
- Medizinische Beratung zu Familienplanungsthemen
- Sexualpädagogik
- Gruppenveranstaltungen für Schulklassen und außerschulische Gruppen zu Körper, Sexualität, Geschlechtsrollen, Partnerschaft, sexuelle Orientierung und Geschlechtsidentität usw.
- Einzelberatungen, Jugendsprechstunden

## Gesetzlicher Auftrag

### Allgemeine Schwangerschaftsberatung

- **Finanzielle Fragen:** staatliche familienfördernde Leistungen, Überschuldung ...
- **Juristische Fragen:** Mutterschutz (Gesetzlicher Schutz Schwangerer am Arbeitsplatz), Unterhaltsfragen bei Trennung/Scheidung, Abstammungsrechtliche Fragen ...
- **Psychosoziale Fragen:** Ängste, Gefühle von Überforderung, Partnerschaftskonflikte, Suchtproblematiken ...

## 法律に定められた役割

### 妊娠葛藤法 (SchKG)

- 妊娠人工中絶前に義務付けられている相談
- 一般の妊娠相談

### さらに...

- 家族計画に関する相談
- パートナーシップとセックスに関する個人およびカップルの相談
- 家族計画に関わる医学的相談
- 性教育
- 学校のクラスや学校外の団体を対象とした、体、性、男女のそれぞれのアイデンティティ、パートナーシップ、性的指向、性的アイデンティティ等に関する団体向けのイベント
- 個別相談、青少年向けの相談

## 法律に定められた役割

### 一般の妊娠相談

- **財政についての質問:** 国からの家族支援金の給付、莫大な借金等
- **法律についての質問:** 妊産婦の保護(職場での妊婦の法的な保護)、パートナーと離別した・離婚した場合の扶養、出自に関する法的質問等
- **心理社会的な質問:** 恐怖、荷が重すぎると感じる事、パートナー間の問題、依存症から生じる問題等

## Gesetzlicher Auftrag

### Allgemeine Schwangerschaftsberatung

- Schon immer auch Frauen, die ihre Schwangerschaft verbergen (müssen)
- Schon immer sind das Beratungen mit stark krisenhaftem Charakter, bei denen viel Aufmerksamkeit und gute Kooperation mit anderen Institutionen nötig ist

## Vertrauliche Geburt

### Implementierung

#### Konsultationsprozess

- Standards zur Qualifizierung
- Durchführung von Fortbildungen

#### Umsetzung vor Ort

- Qualifizierung
- Netzwerke
- Vorbereitungen in den Beratungsstellen



## 法律に定められた役割

### 一般の妊娠相談

- 妊娠を隠す(隠さざるを得ない)女性は従来から存在する
- この場合の相談は以前から危機的性質を持つ相談と捉えており、注意深さと他の機関とのよい連携が必要となる

## 内密出産

### 導入

#### 準備のプロセス

- 資格認定の基準
- 研修の実施

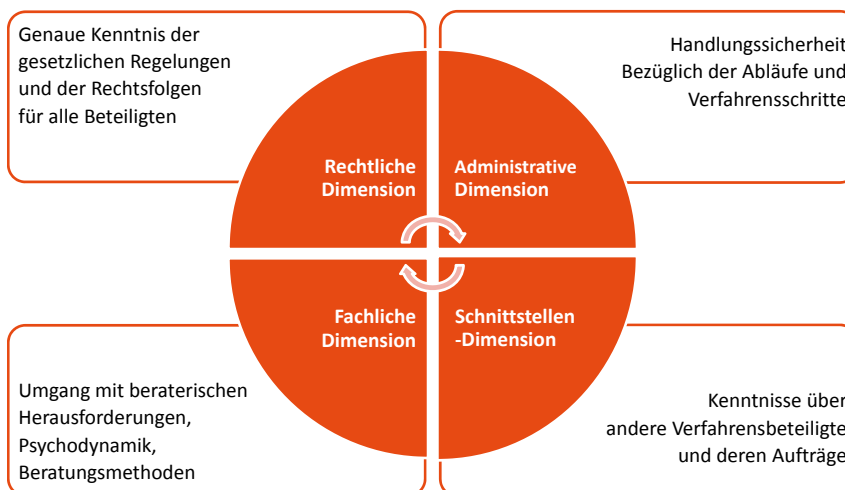
#### 現場での実施

- 資格認定
- ネットワークの構築
- 相談所における準備

## Qualifizierung

- 3 Pilotfortbildungen à 1,5 Tage mit dem Ziel, in allen Bundesländern qualifizierte Ansprechpersonen zu gewährleisten.
- Konzept „Flying Experts“ → Beratungsstelle zieht qualifizierte Fachkraft hinzu.
- Nur vorübergehende Lösung, dauerhaft nicht praktikabel.

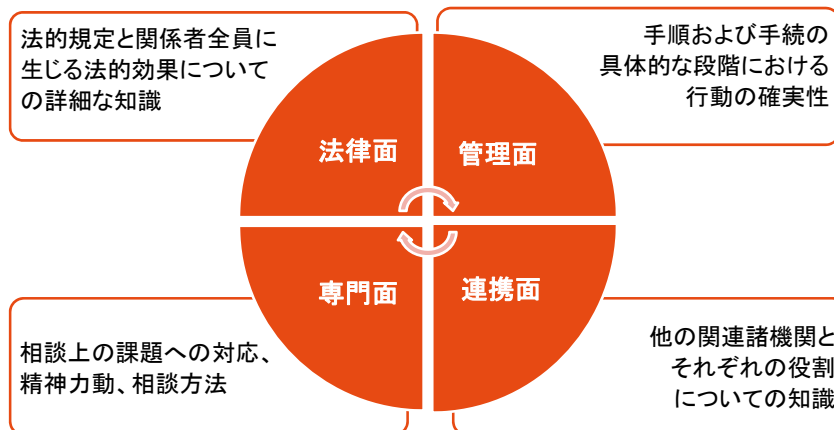
## Qualifizierung



## 資格認定

- 全ての州において、資格のある担当者を確保する目的で、モデル研修を3回実施(1回につき1日半)
- 「飛び込んでいくエキスパート」(flying experts)というコンセプト → 相談所は資格のある専門員を相談に巻き込んでいく
- 当面の措置であり、長期的にみると実践的ではない

## 資格認定



## Qualifizierung

### Voraussetzungen

- Erfahrene Beraterinnen mit eingehenden Kenntnissen der Themen in der Schwangerschaftsberatung.

### Herausforderungen

- Komplexes Verfahren mit vielen Randthemen
- Hoher „gefühlter“ Druck bei den Beraterinnen, keinen Fehler zu machen
- Noch keine Informationen über das Netzwerk

## Implementierung

### Umsetzung in den Beratungsstellen

- Verfügbarkeit der qualifizierten Fachkraft sicherstellen
- **Netzwerke** installieren:
  - Wer sind die beteiligten Institutionen?
  - Wer ist dort Ansprechpartner?
  - Liegen dort alle Informationen vor?
  - Verabredungen für den konkreten Fall treffen

## 資格認定

### 条件

- 妊娠相談の諸テーマについて詳細な知識を持つ、経験のある相談員

### 課題

- 付随するテーマが数多くあり、手続が複雑
- 過ちを犯さないよう、主観的に重圧と感じる相談員がいる
- ネットワークではまだ情報の流れができていない

## 導入

### 相談所における実施

- 資格のある専門員が対応できるよう保障する
- ネットワークを構築する
  - 関連諸機関はどこ？
  - その担当者はだれ？
  - そこに全ての情報が揃っているか？
  - 具体的なケースについて話し合いをしておくこと

## Implementierung

### Konkret am Beispiel Darmstadt

- Arbeitskreis der örtlichen Schwangerschaftsberatungsstellen initiiert ein Informations- und Vernetzungstreffen
- Gastgeberin: Frauenbeauftragte
- Eingeladen sind Krankenhäuser, Hebammen, Adoptionsvermittlungsstellen, Jugendämter, Standesämter, Familiengerichte
- Referat über die Entstehung des Gesetzes, das beabsichtigte Ziel und den Verfahrensablauf
- Fragerunde
- Verabredungen, wie möglichst schnell ein verbindliches und funktionierendes Netzwerk geschaffen werden kann → lokaler Koordinationskreis mit je 1 Vertreter\*in aller Verfahrensbeteiligten

## Implementierung

### Konkret am Beispiel Darmstadt

Heute: Treffen 1 x im Jahr

- Besprechen der stattgefundenen Fälle (Best Practice und Verbesserungsvorschläge)
- Aktualisierung der Kontaktliste
- Überprüfung und evtl. Modifizieren der Schnittstellen

**Wichtig: Gute und praxisnahe Materialien für alle beteiligten Institutionen!**

## 導入

### 具体的な一例:ダルムシュタット市

- 市内の妊娠相談所のワーキンググループが情報交換とネットワーク形成のための集まりを発足させる
- 主催者:女性問題担当者
- 病院、助産師、養子縁組斡旋機関、青少年局、身分登録所、家庭裁判所が招待される
- 法律の策定、目的、手続に関する発表
- 質疑応答
- 信頼性があり、機能するネットワークをできるだけ早く形成するための話し合い → 各関係機関の代表者1名が出席する地域のコーディネート委員会

## 導入

### 具体的な一例:ダルムシュタット市

現在:年に1回の開催

- 取り扱った事例についての話し合い(ベスト・プラクティスおよび改善の検討)
- 連絡先一覧の更新
- 機関間の連携の確認と必要に応じて改善

**全ての関係諸機関に良い実践的な資料があることが重要!**

## Implementierung

### Fazit

- Erheblicher personeller und zeitlicher Aufwand in den Beratungsstellen ohne Finanzierung --> auf Kosten der regulären Beratungsaufgaben in dieser Zeit
- Minimaler Standard: Mindestens eine qualifizierte Person pro Beratungsstelle. Häufig haben Trägerverbände oder Beratungsstellen selbst Qualifizierungsfortbildungen durchgeführt und finanziert
- Durchgängige Verfügbarkeit mind. einer qualifizierten Fachkraft in ländlichen Gebieten nicht zu realisieren

## Erfahrungen

### aus den konkreten Fällen

- Sechs Frauen im Verfahren begleitet
- ca. 25 Fortbildung von Schwangerschaftsberater\*innen und ebenso viele für das „Hilfetelefon Schwangere in Not“



**Praxiserfahrungen** – Erfolge und Stolpersteine



## 導入

### 結論

- 予算配分がないまま、相談所における人員の面でも時間の面でも極めて大きな負担 → その分、通常の相談任務時間を削って補填する
- 最低限の基準: 相談所に有資格者が1人いること。多くの場合、福祉団体や妊娠相談所は資格認定のための研修を自ら実施し、それを負担した。
- 地方の地域では、少なくとも1人の有資格の専門員が常に対応可能な状態にすることは実現不可能

## 経験

### 具体的なケースより

- 6人の女性の手続きに付き添った
- おおよそ25回の妊娠相談員の研修および25回のホットライン「困難な状況にいる妊婦」のための研修を実施



**実践からの経験** — 成功と落とし穴

## Erfahrungen

aus den konkreten Fällen

### Stufe 1-Beratung

- Zentraler Baustein
- Heranführen an das Hilfesystem
- Entspricht dem Kompetenz-Profil der Beratungsstellen und stärkt die Rolle der Schwangerschaftsberatungsstellen im sozialen Hilfesystem

## Erfahrungen

aus den konkreten Fällen

### Stufe 2-Beratung

- Jeder Fall ist ein Einzelfall!
- Fast immer entstehen unvorhergesehene Sonderfragen juristischer oder administrativer Art
- Sehr komplexe Fälle, die ein hohes Maß an Professionalität und Erfahrung verlangen ...
- ... und gleichzeitig sind die Fälle selten. Routine und Handlungssicherheit kann kaum entwickelt werden.

## 経験

### 具体的なケースより

#### 第1段階における相談

- 中核的な部分
- 支援制度への道を開く
- 相談所の専門性に適しており、妊娠相談所の社会的支援制度の中の役割を強化している

Heike Pinne | Kumamoto/Japan | August 2018

## 経験

### 具体的なケースより

#### 第2段階における相談

- いずれのケースも特殊なケースである！
- ほぼ全ての場合に、予測できなかった法律上あるいは管理上の特殊な問題が生じる
- ケースは極めて複雑で、プロフェッショナルとしての高いレベルの専門性と経験を必要とする…
- …と同時に、内密出産のケースは稀にしかないので、ルーチンをほとんど積むことができず、行動の自信につながらない

Heike Pinne | Kumamoto/Japan | August 2018

## Erfahrungen

### aus den konkreten Fällen

#### Stufe 2-Beratung

- Zusammenarbeit im **Netzwerk** essentiell wichtig!

**Kenntnis** der verschiedenen Aufträge,  
**Wertschätzung** für die Rolle und den Auftrag der anderen Institutionen,  
sowie **Kontakt** zu den zuständigen konkreten Personen  
erhöhen die Qualität der Zusammenarbeit.

## Erfahrungen

### aus den konkreten Fällen

#### Stufe 2-Beratung

- Schwierigkeiten im Ablauf sind die Regel!

Es ist nicht umsetzbar,  
dass **alle** Personen  
in **allen** am Verfahren beteiligten Institutionen  
**immer** informiert sind.

- Spezialisierung im Sinne von Kompetenz-Zentren,  
Mentorinnen als hilfreiche Unterstützung im Hintergrund

## 経験

### 具体的なケースより

#### 第2段階における相談

- ネットワークでの協力が本質的に不可欠！

それぞれの任務を**知る**こと、  
他の関連諸機関の役割と任務を**評価**すること、  
担当者と具体的な**コンタクト**をとることが  
協力の質を高めていく。

## 経験

### 具体的なケースより

#### 第2段階における相談

- 流れに問題が生じることは通例である！

**全ての**関連諸機関の  
手続に関わる**全ての**担当者が  
**常に**情報を有するのは  
実現不可能。

- コンピテンス・センターのような特殊化、  
背後から支えて立つ支援としての指導者

## Erfahrungen

aus den konkreten Fällen

### Stufe 2-Beratung - Psychodynamik

- Existentielle Themen des menschlichen Daseins (Schutz, behütet sein ...) wirken auf das Helfersystem
- Starke emotionales Betroffenheit erfordert ein entsprechend hohes Maß an Professionalität
- IMMER Bedarf an kollegialer Unterstützung, ständigem Austausch und Supervision

## Fazit

- Kaum Routine, aber sehr hohe fachliche Anforderungen im konkreten Fall
- Hoher Zeitbedarf, problematisch in kleinen Beratungsstellen
- Rechtliche Absicherung: Beraterinnen sind fast immer mit Sondersituationen konfrontiert und brauchen rechtliche Absicherung
- Aktive Steuerung durch die Beratungsstellen ist hilfreich. Setzt Handlungssicherheit und vertiefte Sachkenntnis voraus.
- Netzwerk muss funktionieren! Die Vorbereitung und Pflege des Netzwerkes ist zeitintensiv.

## 経験

### 具体的なケースより

#### 第2段階における相談 — 精神力動

- 人間の存在上の重要なテーマ(守ること、守られていること、…)は支援者にも影響を及ぼす
- 感情的な強い困惑に対応するためにプロフェッショナルとしての高いレベルの専門性を必要とする
- 同僚同士の支え合い、情報交換とスーパービジョンが常に必要である

Heike Pinne | Kumamoto/Japan | August 2018

## 結論

- ルーチンがほとんどなく、具体的なケースにおいて高いレベルの専門的知識が求められる
- かなりの時間を要し、小さい相談所では問題となる
- 法的安定性: 相談員はほとんど全ての場合において特殊なケースに直面しているため、法的な安定性が必要
- 相談所による積極的な指導は有意義である。それは、安定性と深い専門知識を前提としている
- ネットワークが機能しなければならない! ネットワーク構築の準備と維持には時間を有する

Heike Pinne | Kumamoto/Japan | August 2018

## Fazit

Vertrauliche Geburt braucht die Infrastruktur der Schwangerschaftsberatung

- Hohe fachliche Kompetenz im Feld Schwangerschaft und Konfliktbewältigung
- Niedrigschwelliger Zugang:
  - Dichtes Netz an Beratungsstellen
  - Keine staatliche Institution
  - Vertraulichkeit, Schweigepflicht, bei Bedarf Anonymität
  - Öffentlich bekannt
- Gute Vernetzung zu anderen soziale Institutionen



**Vielen Dank für Ihr Interesse.**



## 結論

内密出産は、基盤として妊娠相談を必要としている

- 妊娠と葛藤の解決という分野における高い専門的能力
- 敷居が低い:
  - 細かく目の張り巡らされた相談所
  - 国の機関ではない
  - 内密性、守秘義務、必要に応じて匿名性を保障する
  - 一般に知られている
- 他の社会的機関との強いネットワーク



ご清聴ありがとうございました。

# **„Implementierung und Umsetzung der vertraulichen Geburt: Praxiserfahrungen und Reflexionen aus Sicht der Schwangerschaftsberatung“**

**Heike Pinne**

Sehr verehrte Damen und Herren,

zunächst möchte ich mich ausdrücklich bedanken für die Einladung zu diesem Symposium. Ich fühle mich sehr geehrt, Ihnen von unseren Praxiserfahrungen mit der vertraulichen Geburt berichten zu dürfen. Ich habe die Gelegenheit genutzt und bin schon seit einigen Tagen in Ihrem schönen Land unterwegs. Es ist mein erster Besuch in Japan und ich habe schon jetzt viel gelernt über Ihr Land und Ihre Kultur.

Ich freue mich sehr auf den fachlichen Austausch mit Ihnen allen und darauf, von Ihren Erfahrungen zu lernen.

## **Vorstellung**

Ich möchte Ihnen meine Person und die Organisation, bei der ich arbeite, kurz vorstellen. Ich bin Sozialpädagogin mit verschiedenen Zusatzausbildungen und arbeite seit 20 Jahren als Schwangerschaftsberaterin. Inzwischen leite ich die Beratungsstelle in Offenbach. Darüber hinaus bin ich Fortbildnerin und bilde seit über 10 Jahren Schwangerschaftsberaterinnen aus.

Die Organisation, für die ich arbeite, ist der Verband pro familia – die größte nichtstaatliche Institution in Deutschland, die zu sexuellen und reproduktiven Rechten berät. Wir bieten Beratung, pädagogische Gruppenarbeit und Multiplikatorenfortbildungen zu den Themen Sexualität, Familienplanung, Schwangerschaft und Partnerschaft an. Ca. 180 Beratungsstellen haben wir über ganz Deutschland verteilt. Wir sind Gründungsmitglied der International Planned Parenthood Federation IPPF, der weltweiten Organisation für Familienplanung. Soweit ich weiß ist die lokale Mitgliedsorganisation in Japan *JFPA - Japan Family Planning Association*.

## 「内密出産制度の導入および実施の現状 — 妊娠相談員の経験と一考察」

ハイケ・ピンネ

会場の皆様、

まず、このシンポジウムにご招待を頂き、心よりお礼申し上げたいと思います。皆様に、内密出産制度について私たちが積んできた実践の経験を紹介できることを大変光栄に思います。今回のシンポジウムをきっかけにして、私はすでに数日の間、この美しい日本を旅して参りました。私にとって、今回が初めての日本ですが、すでに日本という国とその文化についてたくさん学ぶことができました。

皆様とこのテーマについての情報を交換できることをとても楽しみにしております。また、日本での経験について知ることも期待しています。

### 自己紹介

まず、自分のことと、私が所属している組織を簡潔に紹介させて頂きたいと思います。私は社会教育学士でさまざまな資格も取得しており、20年間妊娠相談員として勤めています。現在は、オフエンバッハ市にある相談所の支部長を務めています。さらに、研修の講師としても活躍しており、10年前から妊娠相談員の育成に関わっています。

私が所属している組織はプロファミリアという団体です。これは、ドイツ国内で最大のNGO組織であり、性と生殖の諸権利に関する相談を専門としています。私たちが提供しているのは、性、家族計画、妊娠、パートナーシップといったテーマで、相談や団体向けのイベントや専門家を対象とした研修などを行っています。プロファミリアの相談所はドイツ全土でおおよそ180か所あります。全世界の家族計画に関する組織である国際家族計画連盟（IPPF）の創立メンバーでもあります。私が知っている限り、その組織に日本で加盟している団体は「日本家族計画協会」です。

Nun möchte ich einen kurzen Überblick geben, wie ich diesen Vortrag gegliedert habe: Zunächst möchte ich Ihnen die Arbeit der Schwangerschaftsberatungsstellen grundsätzlich näherbringen – den gesetzlichen Auftrag, die Inhalte und die Arbeitsweise. Dann komme ich zum Thema vertrauliche Geburt und möchte zunächst vom Prozess der Implementierung des neuen Gesetzes berichten: Der Erarbeitung von Beratungs- und Qualifizierungsstandards, der Qualifizierung der Berater\*innen und der Installierung von Netzwerken vor Ort. Und schließlich berichte ich von den Erfahrungen aus vier Jahren Beratungs-, Netzwerk- und Fortbildungsarbeit zum Thema vertrauliche Geburt. Ich schließe mit einem vorläufigen Fazit.

### **Gesetzlicher Auftrag**

Die gesetzliche Grundlage für den größten Teil unserer Arbeit ist das seit 1995 in dieser Form bestehende Schwangerschaftskonfliktgesetz. Es entspringt einer Regelung zum Schwangerschaftsabbruch und diese Regelung verlangt in Deutschland vor einem Schwangerschaftsabbruch eine Pflichtberatung. Der Rahmen und Inhalt dieser Pflichtberatung ist im Schwangerschaftskonfliktgesetz genau geregelt. Darüber hinaus ist in diesem Gesetz auch ein Anspruch für alle Menschen in Deutschland auf Beratung zu den Themen Familienplanung und alle eine Schwangerschaft unmittelbar oder mittelbar berührenden Fragen festgelegt. Sie sehen an diesem Zitat aus § 2 [Folie 6], dass die Möglichkeit auf anonyme Beratung hier explizit genannt ist. Die Aufgaben der Schwangerschaftsberatungsstellen sind insgesamt sehr breit angelegt, hier [Folie 7] sehen Sie die weiteren Aufgabengebiete rund um Familienplanung, sexuelle und reproduktive Gesundheit und Rechte.

Ich möchte mich hier auf die allgemeine Schwangerschaftsberatung konzentrieren, denn innerhalb dieses Aufgabenbereiches ist das Thema vertrauliche Geburt angesiedelt. Sie haben es im Referat von Frau Krieger schon gehört: Es handelt sich um Frauen, die ihre Schwangerschaft vor dem sozialen Umfeld verbergen und auch nach der Geburt verheimlichen möchten oder müssen, dass sie ein Kind geboren haben.

次に、私のこの発表の構成について紹介したいと思います。最初に、皆様に妊娠相談所の業務内容、そして法律で定められている役割、相談の範囲、やり方等を紹介したいと思います。次に内密出産制度について触れますが、まず内密出産法の導入について報告させて頂きたいと思います。具体的には、相談員の資格認定の考案、資格取得のための相談員の研修、地域でのネットワークの創設について報告します。その後、この4年間私が内密出産というテーマで、相談やネットワーク構築や研修の実施で積んできた経験について紹介します。最後に、当面の結論で終わります。

### **法律で定められた役割**

我々の大半の仕事の法的根拠は1995年の妊娠葛藤法です。この法律のルーツは妊娠人工中絶に関する規制にあります。その規制では、ドイツでは妊娠人工中絶の前に相談を受けることが義務付けられています。この義務相談の枠と内容が、妊娠葛藤法では細かく規定されています。さらにこの法律では、ドイツにいる全ての人々が、家族計画と妊娠に直接または間接的に関連する諸問題について相談を受けることのできる権利が定められています。このスライド [6] にある妊娠葛藤法の第2条からの引用には、匿名で相談を受けることができると明確に触れていることが分かります。妊娠相談所の業務は全体的にとっても広いもので、このスライド [7] では家族計画と、性と生殖に関わる健康と権利という担当領域を示しています。

今日の発表では、一般の妊娠相談についてお話をしたいと思います。といいますのも、この中に内密出産というテーマが位置付けられているからです。クリーガー課長の発表です。に触れていましたが、内密出産の対象となるのは妊娠していることを周囲の社会から隠す女性であり、子どもを産んだことを出産後にも隠したい、あるいは隠さなければならない女性です。

Sie sehen hier [Folie 8], welche Themen die allgemeine Schwangerschaftsberatung umfasst – ein sehr breites Feld. Und wir nehmen den soeben zitierten § 2 sehr ernst: Schwangere und ihre Angehörigen können mit ALLEN Themen zu uns kommen, vor und nach der Geburt. Oftmals sind die Problematiken vielfältig – und so ist es auch bei Frauen, die ihre Schwangerschaft verbergen: Sie haben meistens ein ganzes Bündel an Problemen und wenden sich entweder ganz unspezifisch an uns („Ich weiß nicht mehr weiter und brauche Hilfe. Ich bin schwanger, das darf aber niemand erfahren.“) oder sie kommen gut informiert mit dem ganz konkreten Wunsch nach einer vertraulichen Geburt. Das Verbergen einer Schwangerschaft vor dem sozialen Umfeld und auch das Thema Adoptionsfreigabe ist bei uns schon immer vorgekommen. Vor der Einführung der vertraulichen Geburt gab es nur den Weg der regulären Adoptionsfreigabe mit Angabe der Identität der Mutter, was für manche Frauen ein großes Risiko darstellte. Und auch schon immer waren diese Beratungen sehr komplex und erforderten viel Zeit.

### **Implementierung**

Ich berichte Ihnen nun vom Prozess der Implementierung des Gesetzes in die Praxis im Jahr 2014 auf zwei Ebenen: Der Qualifizierung von Fachkräften und der konkreten Umsetzung in den Beratungsstellen vor Ort.

### **Qualifizierung**

Nachdem klar war, dass die Durchführung des Verfahrens eine zusätzliche Qualifikation der Schwangerschaftsberaterinnen erfordert, hat das Bundesfamilienministerium einen Konsultationsprozess gestartet. Ein Gremium, zusammengesetzt aus Fortbildungsfachleuten der verschiedenen Trägerverbände, die Schwangerschaftsberatungsstellen unterhalten, hat in einem Workshop erarbeitet, welche Fähigkeiten und Kompetenzen in diesem Verfahren notwendig sind und welche Inhalte somit eine Fortbildung enthalten muss, um diese Kompetenzen zu vermitteln. In drei Pilotfortbildungen wurden diese Inhalte erprobt. Mit diesen drei Pilotfortbildung wurden für jeden Regierungsbezirk in Deutschland einzelne Beraterinnen für das Verfahren geschult, so dass zum Start am 1.4.2014 so viele qualifizierte Fachkräfte zur Verfügung standen, dass es für jede Beratungsstelle möglich sein sollte, im

このスライド [8] では、一般の妊娠相談に、どのようなテーマが含まれているかをご覧ください。それはかなり幅が広いです。そして、先ほど引用した妊娠葛藤法の第 2 条を、私たちはとても真剣に受け止めています。妊婦とその家族は出産前後を問わず、全てのテーマに関する相談を受けることができます。多くの場合、彼女らが抱えている問題は多種多様であり、妊娠していることを隠す女性も同様です。こういった女性は、多くの場合複数の問題を抱えており、「もうどうしたらいいかわからない、助けが必要だ、妊娠しているが誰にも知られたくない」などの漠然とした相談でやってきます。あるいは、すでにかんりの情報をもって、内密出産をしたいという具体的な希望をもって、相談所に来るというケースもあります。妊娠していることを周囲の社会に隠すこと、また、子どもを養子に出したいという相談内容も、以前から取り扱っています。内密出産が導入される前には、母の身元を明かした上で正規の養子縁組という道しかありませんでした。そして、それが大きなリスクとなる女性もいました。また、このような相談は、以前から極めて複雑で、多くの時間を要するものでした。

## 導入

次に、2014 年におきた、内密出産法が導入された時の現場の様子について報告します。ここでは、2 つのテーマに触れます。一つ目は相談専門員の資格の認定で、二つ目は現場の相談所での [内密出産制度の] 具体的な導入についてです。

## 資格認定

内密出産の手続を担当するには、妊娠相談員に追加での資格が必要だということが明らかになってきた後、連邦家族省はそれにあたっての協議プロセスを開始しました。妊娠相談所を運営している様々な団体の研修担当者からなるワーキンググループが作られ、そこで、内密出産の流れで必要となるのはどのようなスキルや技能なのか、そのためにはどのような内容を研修に含める必要があるかについて検討をしました。3 回に渡るモデル研修では、この内容を試してみました。この 3 回のモデル研修では、ドイツの全ての行政区域からの個々の相談員を対象に、内密出産の手続について研修を行いました。このようにして、2014 年 4 月 1 日の [内密出産制度の] スタートの時には、全ての相談所で内密出産の具体的なケースに対応できるよう、資格のある専門員の確保を図りました。

konkreten Fall einer vertraulichen Geburt eine qualifizierte Fachkraft hinzuzuziehen.

Hier [Folie 12] sehen Sie die vier Dimensionen mit den Fortbildungszielen, die im Konsultationsprozess entwickelt und in den Pilotfortbildungen erprobt wurden.

Ich beginne mit der rechtlichen Dimension. Es hat sich auch später in den vielen folgenden Fortbildungen gezeigt, dass eine genaue Kenntnis des neuen Gesetzes und der angrenzenden Rechtsfragen ein Kernstück der Qualifizierung darstellt. Allen Beraterinnen und auch den Kooperationspartnern ist sehr bewusst, dass es hier um schwerwiegende Themen und Werte geht: Um das Recht des Kindes auf Kenntnis der eigenen Herkunft - bei gleichzeitigem Schutz der Vertraulichkeit der Frau. Um diesem Anspruch möglichst gerecht zu werden, dürfen der Beraterin keine rechtlichen oder Verfahrensfehler unterlaufen. Dieser Verantwortung sind sich die Beraterinnen sehr bewusst und möchten sicher sein, dass sie zumindest in der Schulung alles genau verstanden haben, den Ablauf nachvollziehen können und alle eventuell auftretenden Sonderfälle bedacht haben. Sie merken an dieser Stelle schon: Das ist so umfassend im Grunde gar nicht möglich. Frau Krieger hat bei der Vorstellung der Ergebnisse der Evaluation schon gesagt, dass die Fälle sehr divers und unterschiedlich sind. Meine persönliche Erfahrung bestätigt dies. Im konkreten Fall müssen eigentlich immer Sonderfälle bewältigt werden und das Vorgehen muss häufig mitten im Fall erst abgesprochen und entwickelt werden. Erfahrene Schwangerschaftsberaterinnen sind mit solchen Situationen eigentlich vertraut, denn auch jenseits von vertraulicher Geburt sind komplexe und manchmal dramatische Sonderfälle Teil der Arbeit. Dennoch ist hier allen Beteiligten sehr bewusst, dass rechtssicheres Handeln die Grundlage bildet, um die oben genannten Rechte von Mutter und Kind (und indirekt auch die Rechte des Vaters) zu gewähren. Und es handelt sich um existentielle Anliegen – die Vertraulichkeit ist für die Schwangere in dieser Situation existentiell (manchmal überlebenswichtig) und das Ziel, dem Kind wirklich Informationen über seine Herkunft zu sichern ist für die spätere Identitätsbildung dieses Menschen von entscheidender Bedeutung. Das Risiko, hier etwas unwiderruflich zu verlieren, wollen die Beraterinnen nicht eingehen.



このスライド [12] では、この研修の目的の 4 つの分野をご覧頂けます。これらの目的は、先ほど紹介した協議の過程で考案し、モデル研修で試してきたものです。

まず法律面について紹介します。モデル研修に続くたくさんの方の研修では、新しい法律とそれに関連する法的な問題についての詳細な知識を得ることが、資格認定の中核となることが明らかになりました。全員の相談員も連携機関も、内密出産は重大なテーマと価値を扱っていることを十分認識しています。それは、子どもの出自を知る権利であり、それと同時に女性の内密性を守ることです。これらの利益をできるだけ適切に扱うために、相談員は、法的あるいは手続上のミスをしてはなりません。相談員はこの責任を十分理解しています。少なくとも、研修において全てを正しく理解して、流れを把握し、あり得る特殊な全てのケースも把握できているかどうかを気にしています。皆様も感じておられるかと思いますが、これらを完璧に把握することは基本的には不可能です。クリーガー課長は、内密出産制度の評価調査の紹介の際に、ケースがそれぞれ多様で異なっていることを説明しました。私の個人的な経験からも同じことが言えます。具体的なケースにおいて、特殊なケースとなるのはほぼ全ての場合にあてはまり、どの方向に進んでいくかは、途中で話し合いながら決めていくことがほとんどです。しかし、経験のある妊娠相談員は、このような事態には慣れているはずです。なぜならば、内密出産以外でも、複雑な、あるいは劇的な特殊なケースも仕事の一部として経験しているからです。しかし内密出産の場合、関係者全員が意識しているのは、母子両方の権利を（そして間接的に父の権利も）保障するために、法的な安定性のある行動をとることが基盤となることです。また、内密性は妊婦にとって死活に関わることであり、後の子どものアイデンティティ形成のために重要なファクターとなる出自に関する情報を確保することも不可欠です。ここで相談員は、取り返しのつかないような失敗のリスクを負いたくありません。

Unmittelbar verbunden mit der rechtlichen Dimension ist die administrative Dimension. Hier geht es um die konkreten Abläufe. Angesichts der Tatsache, dass hier nach der Geburt ein neugeborenes Kind zu versorgen ist und die Mutter diese Aufgabe nicht wahrnimmt oder wahrnehmen kann, gibt es auch diesbezüglich einen hohen „Perfektionsdruck“ bei den handelnden Institutionen.

Die Schnittstellen-Dimension ist wiederum eng mit dem administrativen Teil verbunden. Aus meiner Erfahrung und der Erfahrung all derer, die ich fortgebildet habe (und auch bestätigt in der Evaluation) kann ich sagen, dass eine gute und vertrauensvolle Hand-in-Hand Arbeit sozusagen das Rückgrat des Verfahrens bildet. Die Frauen sind in der Regel (offen oder verdeckt) ambivalent und nicht stringent in Ihrem Handeln und ihren Entscheidungen. Rund um die Geburt ist viel Adrenalin bei allen Beteiligten im Spiel – im Grunde wie bei jeder Geburt! Da ist es unerlässlich, dass sich die handelnden Profis aufeinander verlassen können, die Schnittstellen definiert und abgesprochen sind und jeder seine/ihre Rolle einnehmen kann.

Zuletzt die fachlich-beraterische Dimension. Bei all dem, was Sie jetzt gehört haben, können Sie sich sicher vorstellen, dass hier ein professioneller Umgang mit Dynamiken gefordert ist, ich gehe darauf später noch ein. Sicherheit in Beratungsmethoden und Krisenintervention sollten hier selbstverständlich sein.

Hier [Folie 13] noch einmal zusammengefasst die Herausforderungen bei der Qualifizierung zum Zeitpunkt der Pilotphase. Wir haben als Voraussetzung für diese zusätzliche Qualifikation formuliert, dass Erfahrung in der Arbeit als Schwangerschaftsberaterin vorhanden sein sollte. Es handelt sich um ein Verfahren mit hoher Komplexität, die Dynamik ist ausgesprochen druckvoll und dazu kommt, dass zum Zeitpunkt der Pilotfortbildungen ja noch keine Netzwerke installiert waren, auf keinerlei Erfahrung zurückgegriffen werden konnte. Da die Netzwerke - wenn sie gut installiert sind, die konkreten Ansprechpersonen sich kennen und sich aufeinander verlassen können – sehr zur Beruhigung der Dynamik beitragen können, mussten wir auf diesen Teil an Sicherheit zu diesem Zeitpunkt noch verzichten.

次に、法律面と密接に結びついているのが管理面です。ここでは、具体的な手順がテーマとなります。内密出産の場合、母が世話しない、あるいは、世話できない新生児がいるということは、関係者全員に「失敗が許されない」という大きなプレッシャーを与えています。

また、連携面も管理面と密接に関わっています。私の経験によれば、そして私の研修を受けた相談員の経験によれば、（そして評価調査によって裏づけられたように）、手順の基盤となるのは、効率的で互いに信頼のおける連携であると断言できます。当該女性は通常（オープンあるいは隠密に）、彼女らの行動と決断において首尾一貫していません。内密出産の場合も、通常の出産と同様に、出産の前後には関係者全員にたくさんのアドレナリンが出ます。関わっている専門家が相互に信頼関係を築き、連携についての話し合いが済んでおり、それぞれの関係者が自らの役割を演じられることが、[内密出産を支える上で] 不可欠です。

最後に専門面、つまり相談の面についてお話します。皆様は、今までの話を聞いて、さまざまな事態への対応が必要だと想像できるかと思います。それについては後ほど述べます。相談員が相談方法と危機介入についての自信をもっているべきことは当然のことでしょう。

ここでもう一度 [スライド 13]、モデル研修の時点での資格の基準における課題を纏めます。この資格の前提として、妊娠相談員としての経験が必要であると決めました。内密出産の手続は極めて複雑で、ケースにおいて予想外の展開もあり、関係者にプレッシャーがかけられ、それに加えて、モデル研修の時点ではネットワークがまだ十分に構築されておらず、参考になり得る経験もありませんでした。適切に構築されているネットワークがすでにある、担当者が互いのことを知っていて信頼し合っていれば予想外の展開にも対応しやすいが、この時点ではこれはまだできていませんでした。

Das Fortbildungskonzept der Pilotfortbildungen hat sich in der Praxis bewährt – noch heute schule ich Beraterinnen und orientiere mich an diesem Konzept – auch wenn es mittlerweile weiterentwickelt wurde. Das System zu Beginn der „Flying Experts“ hat sich nicht durchgesetzt. Dazu komme ich noch.

### **Umsetzung in den Beratungsstellen**

Ich komme jetzt zum konkreten Arbeitsalltag der Beratungsstellen, wo man nun vor der Aufgabe stand, alle Mitarbeitenden mit der neuen, recht komplexen Regelung vertraut zu machen. Die Beratung nach Stufe 1 ist Aufgabe aller Berater\*innen, deshalb genügte es nicht, nur einzelne qualifizierte Beraterinnen zu haben. Vermutlich haben im ganzen Land unzählige Schulungen vor Ort in den Beratungsstellen stattgefunden und ich kann von mir sagen, dass ich im Jahr 2014 wirklich sehr viel in Deutschland unterwegs war, um zu diesem Thema fortzubilden. Zum einen wollten einige Trägerverbände eigene Schulungen oder auch nur Informationsveranstaltungen durchführen. Zum anderen stellte sich recht schnell heraus, dass das System der „Flying Experts“ in der Realität nicht praktikabel war. Im konkreten Fall ist es zu umständlich, wenn die nächste qualifizierte Fachkraft nicht vor Ort ist. Viele organisatorische Fragen die Ressourcen betreffend müssten dann geregelt werden. Darüber hinaus zeigt sich, dass die Frauen, die ihre Schwangerschaft verheimlichen und damit automatisch sozial weitgehend isoliert sind, sich sehr an die Beraterin als einzige Vertraute binden. Dann für die Beratung nach § 26 SchKG eine andere Beraterin hinzuzuziehen (die allen fremd ist, auch der Beraterin der Frau) würde dem Anspruch an diese Beratung nicht gerecht werden. So haben sich nach und nach die Verbände und manche Bundesländer entschieden, so breit zu qualifizieren, dass mindestens in jeder Beratungsstelle eine Fachkraft zur Verfügung steht. Auch das birgt noch Schwierigkeiten – ich gehe später darauf noch ein.

Eine der wichtigsten Aufgaben der Beratungsstellen in der Implementierungsphase war der Aufbau der notwendigen Netzwerke vor Ort. Ich möchte Ihnen am Beispiel der Stadt Darmstadt (in der ich 2014 noch gearbeitet habe) darstellen, wie wir dort vorgegangen sind.

モデル研修のコンセプトは、実践で成功しました。このコンセプトがその後さらに発展させられましたが、今でも、私は研修を担当する際に、このコンセプトを方針としています。当初の「飛び込んでいくエキスパート」というコンセプトは結局採用されませんでした。それについては後で説明します。

## 相談所における実施

次に相談所における具体的な流れについて話します。まず、全てのスタッフにこの新しくてかなり複雑な規定に慣れさせる必要がありました。第1段階における相談は、[資格の有無に関わらず] 全ての相談員が担当しますので、有資格者が数人いるだけでは不十分でした。全国的に、数えられないほどたくさんの研修が相談所の現場で行われたかと思いますが、2014年には私自身も研修をするためにドイツ全土を旅しました。妊娠相談所を運営しているいくつかの団体は、独自の研修や情報提供のためのイベントを実施しようとしていました。また、「飛び込んでいくエキスパート」というコンセプトが現実的ではなかったことは、早くに明らかになりました。なぜならば、個々のケースに具体的に対応する上で、有資格の専門員が現場にいないと、とても手間がかかるからです。また、その場合、資源に関わる管理上の問題は、早急に解決しておかなければならなかったからです。さらに、妊娠していることを隠す女性は、そのことによって必然的に社会からほぼ孤立した状況におかれているため、相談員を唯一の信頼できる人として、絆を築くことが明らかになりました。そういった状況におかれた女性に対して、妊娠葛藤法第26条による相談のために、最初の相談員とはまた別の相談員（最初の相談員も当該女性も知らない人）に担当させることは、この相談の本質にそぐわないと言えます。このことから、相談所を運営するいくつかの団体といくつかの州は、次第に全ての相談所に少なくとも一人の有資格者がいるようにするために、幅広く研修を行うことを決めました。それはそれでまた問題もありますが、それは後ほど触れます。

内密出産の導入の段階にあたって、相談所の最も重要な仕事は、地域において必要なネットワークを構築することでした。（私が2014年まで働いていた）ダールムシュタット市を例に、その際のやり方を紹介して行きたいと思います。

Da wir die Institution sind, die das Verfahren steuern soll und über vertiefte Sachkenntnis verfügt, haben wir es als passend empfunden, die Vernetzung zu initiieren. Es bestand zwar keine gesetzliche Pflicht dazu, aber im konkreten Fall ist die Schwangerschaftsberaterin am meisten von allen auf ein funktionierendes Netzwerk angewiesen. Wir haben also im Arbeitskreis aller Schwangerschaftsberatungsstellen beschlossen, zu einem Informations- und Vernetzungstreffen einzuladen. Wir haben die lokale Frauenbeauftragte gebeten, als Gastgeberin und Moderatorin zu fungieren. Eingeladen haben wir sehr breit alle Institutionen, die unmittelbar oder mittelbar mit dem Verfahren der vertraulichen Geburt in Berührung kommen könnten. Dort habe ich das neue Gesetz zunächst in einem Referat ausführlich vorgestellt. Eigentlich sind alle am Verfahren beteiligten Institutionen zentral über die Abläufe informiert worden. Wir haben jedoch gemerkt, dass der Wissensstand sehr unterschiedlich war und wollten zunächst alle auf einen gemeinsamen Stand der Informationen bringen. Wir haben die Rollen der Verfahrensbeteiligten diskutiert und festgestellt, dass wir die Schnittstellen genauer definieren und Handlungsschritte absprechen müssen. Es wurde ein Koordinationskreis gegründet, der mit je 1 Vertreterin aller Beteiligten besetzt war. In diesem Kreis haben wir bei den ersten Treffen definiert und festgeschrieben, wer bei der Durchführung einer vertraulichen Geburt was wann und in welcher Weise zu tun hat. Die mittlerweile stattgefundenen Fälle wurden als Beispiele genommen und diskutiert. Inzwischen trifft sich dieser Koordinationskreis nur noch 1x im Jahr und die Abläufe sind ziemlich gut geklärt. Wir überprüfen das jährlich, diskutieren die stattgefundenen Fälle und aktualisieren die Kontaktliste.

Die Arbeit in den Fortbildungen und in den Netzwerken hat gezeigt, dass es unerlässlich ist, ausführliche Materialien zu erarbeiten, mit denen sich im konkreten Fall schnell und sicher arbeiten lässt. Da zwischen den Fällen oft viel Zeit vergeht, brauchen im Grunde alle Institutionen Unterlagen, in denen die verabredeten Abläufe klar dargestellt sind, die Kooperationspartner mit Kontaktdaten benannt sind, Formulare für bestimmte Handlungsschritte vorliegen – und Telefonnummern zu Personen, mit denen man Unsicherheiten besprechen kann.

相談所は、内密出産についての専門的な情報を詳しく把握して、その手続をコーディネートすべき機関ですので、私たちは妊娠相談所として、ネットワークの構築を発案しました。ネットワークの構築には法的な義務はありませんが、しかし、全ての関係者のうち、具体的なケースを扱う際に、機能しているネットワークを一番必要とするのは妊娠相談員なのです。そのために、全ての妊娠相談所のワーキンググループの中で、情報交換とネットワーク構築のための集まりを開催することを決めました。地域の女性問題担当者には、主催と司会をお願いしました。その集まりには、内密出産の手続に直接あるいは間接的に関わる可能性がある全ての機関に幅広く声をかけました。この集まりで、私はまず、発表形式で新法律を詳細に紹介しました。本来であれば、手続に関わる全ての諸機関にはすでに情報が届いていたはずですが、しかし、知識の水準にはとてもばらつきがあることに気づき、まず参加者全員の情報基準を揃える必要がありました。また、手続に関わる諸機関のそれぞれの役割について話し合った結果、連携の仕方と行動の順番を、より詳細に定義し、話し合う必要性も明らかになりました。そのため、各関係機関の代表者 1 名が出席するコーディネート委員会が設置されました。この委員会の最初の集まりでは、内密出産の手続にあたって、だれが何をいつどのようにすべきかを決めました。その時までにはすでに行われたケースは事例として扱い、検討しました。現在では、このコーディネート委員会は年に 1 回しか開催していませんが、手順の流れはすでに決めてあります。現在は、年に 1 回、内密出産の流れを検討して、扱った事例について議論をして、諸機関での担当者連絡先一覧を更新しています。

研修とネットワーク構築での経験から明らかになったのは、具体的なケースにおいて、速やかに確実に行動できるような詳細な資料を作成することが不可欠だということです。内密出産のケースの間に長い時間が経つ場合が多くあるため、基本的には、全ての関係諸機関に必要となるのは、話し合った手順が明確に記載されている資料と、連絡先が明記されている連携機関についての情報、具体的な行動のための様式、不安があった場合に相談できる人の電話番号です。

## **Fazit zur Implementierung**

Die beschriebenen Schritte, um insgesamt und konkret vor Ort bereit zu sein für vertrauliche Geburten, bedeuteten insgesamt einen erheblichen personellen und zeitlichen Aufwand. Die finanzielle und personelle Ausstattung der Beratungsstellen ist gesetzlich festgelegt und aus unserer Sicht ausgesprochen knapp. Dementsprechend war ein zusätzlicher Aufwand in diesem Umfang nicht zu realisieren, ohne dass andere Aufgaben in dieser Zeit massiv reduziert wurden. Problematisch erwies sich der Umgang damit, dass für die Durchführung des Verfahrens eine zusätzliche Qualifikation notwendig ist. Es bedeutet einen erheblichen Aufwand, sicherzustellen, dass immer eine qualifizierte Fachkraft erreichbar ist. Die Fachkraft von einer anderen Beratungsstelle eines anderen Trägers hinzuzuziehen vervielfacht diesen Aufwand, zumal ja eine Beratungsorganisation nicht über personelle Ressourcen einer anderen Organisation verfügen kann. Die vielerorts praktizierte Lösung, in jeder Beratungsstelle mindestens eine Fachkraft zu qualifizieren hilft nur begrenzt weiter. Jede Fachkraft ist regulär mehrere Wochen im Jahr nicht anwesend, zuzüglich unvorhergesehener Abwesenheit wie z.B. Krankheit oder gar der Weggang der Fachkraft. Eine befriedigende Lösung wäre nur erreicht, wenn grundsätzlich alle Schwangerschaftsberaterinnen auch qualifiziert wären. Wir im Verband pro familia bemühen uns daher, die Qualifizierung in die Grundausbildung der Schwangerschaftsberater\*innen einzupflegen. Aber auch das bringt viele Schwierigkeiten mit sich, angesichts des Umfangs der insgesamt zu vermittelnden Inhalte.

## **Erfahrungen aus den konkreten Fällen**

Nun möchte ich Ihnen aus der konkreten Fallarbeit berichten. Ich selbst kann Ihnen von sechs begleiteten Verfahren zur vertraulichen Geburt berichten. In den insgesamt ca. 25 Fortbildungsveranstaltungen und zusätzlich in den von mir fachlich begleiteten oder supervidierten Fällen haben mir Kolleg\*innen von vielen weiteren Fällen berichtet.



## 導入に関する結論

現場で具体的に内密出産を取り扱えるようにするためのこうした取り組みは、全体として、かなりの人員と時間を必要としていました。相談所の予算とスタッフについては法的に決められており、私たちの視点から言わせれば、極めて余裕のない状況です。したがって、内密出産の導入にあたっては、別の任務を大幅に削らなければ、この追加の仕事を実現できませんでした。そこで問題となったのは、内密出産の手続を行うためには追加の資格が必要だということでした。資格を有した専門員との連絡が常に可能な状況を確保することは、かなり大きな負担となります。よその団体の相談所から専門員の応援を要請する場合には、負担がさらに大きくなります。なぜなら、よその組織の人員を自由に使うわけにはいかないからです。各相談所で、少なくとも一人の専門員に資格を取らせるという、多くの相談所でのやり方も、完璧な解決手段ではありません。各専門員は通常年に数週間不在になることが多く、また病欠や異動という予測できない不在もあります。納得のいく解決策は、基本的に全ての妊娠相談員が資格をもっている状況にすることです。したがって、プロファミリアでは、妊娠相談員の基本訓練の一環として、内密出産の資格を取り入れようとしています。しかし、そのやり方も、全体に伝えなくてはならない莫大な内容を鑑みて、たくさんの問題を孕んでいます。

## 具体的なケースでの経験

次に皆様に具体的なケースについてお話したいと思います。私は 6 件の内密出産に携わりましたので、それについて報告することができます。そして、私が担当した 25 回の研修を通して、また私が専門員として、あるいは上司として関わっていた、さらに多くのケースについて同僚からの報告を受けました。

## **Stufe 1-Beratung**

Frau Krieger hat Ihnen den Aufbau und Ablauf der vertraulichen Geburt vorgestellt. Der Zugang zu den Beratungsstellen und die zuerst erfolgende Stufe 1-Beratung ist aus meiner Sicht das Herzstück des Konzeptes der vertraulichen Geburt. Ein wesentliches Ziel ist es ja, die Frauen an das Hilfesystem heranzuführen. Es wenden sich schwangere Frauen in allen denkbaren Notsituationen an uns. Manche ganz unspezifisch, manche mit sehr konkreten Anliegen. So ist es bei der vertraulichen Geburt auch. In der Stufe 1 geht es primär darum, Kontakt zur hilfeschuchenden Frau aufzunehmen, ihr ausreichend Gelegenheit zu geben, ihre Situation und ihre Nöte zu schildern, sich zu entlasten und ihr zu vermitteln, dass sie jetzt einer Gesprächspartnerin gegenüber sitzt, die sich mit allen möglichen Notsituationen auskennt, die mit ihr sortiert und Schritt für Schritt einen für sie gangbaren Weg entwickelt. Ob dieser Weg vertrauliche Geburt heißt, steht zu diesem Zeitpunkt noch nicht fest. Auch Frauen, die sich explizit mit diesem Anliegen an uns wenden, haben manchmal eine falsche Vorstellung davon, was die vertrauliche Geburt eigentlich ist. Im Laufe dieser Stufe 1 Beratung stellt kann sich herausstellen, dass es zum Beispiel zwar um den Wunsch der Adoptionsfreigabe geht, aber Vertraulichkeit gar nicht notwendig ist, sondern eine reguläre Adoptionsfreigabe möglich ist. Dann beraten wir und vermitteln an die zuständigen Stellen. Oder es stellt sich im Laufe der Beratung heraus, dass die Ängste der Frau und die Gründe für den Wunsch nach Anonymität bearbeitet werden können. Vielleicht entscheidet sie sich, das Kind zu behalten, braucht aber z.B. Unterstützung durch die Jugendhilfe. Hier können die Schwangerschaftsberatungsstellen ihre ganze Stärke und Kompetenz einsetzen. Die hervorragende Vernetzung ist dabei der wichtigste Baustein.

## **Stufe 2-Beratung**

Stellt sich nach dieser Phase heraus, dass der Weg der vertraulichen Geburt wirklich von der Frau gewählt wird, erst dann beginnt die spezifische Beratungsarbeit, die Vorbereitung und Durchführung des Verfahrens und die Kontaktaufnahme mit allen Kooperationspartnern.

Wie schon beschrieben handelt es sich bei diesen Fällen um Frauen, die ihre Schwangerschaft vor ihrem Umfeld konsequent verbergen, manche haben

## 第 1 段階における相談

クリーガー課長は、先ほど皆様に内密出産のコンセプトと流れを紹介しました。私の立場からすると、内密出産のコンセプトの最も中核になる部分は、女性が相談所に辿り着くこととそこで行う第 1 段階における相談です。なぜならば、女性の支援制度への道を開くことが、基本的な目的だからです。想像し得るさまざまな困難な状況にある妊婦が相談所を訪れてきます。その中には、漠然とした相談で来所する女性もいれば、とても具体的な要求を持って訪れてくる女性もいます。内密出産の場合も同様です。第 1 段階での主な目的は、助けを求めてくる女性と接触し、彼女が抱えている問題と置かれている状況をしっかりと語らせることによって、背負っていた荷を軽くさせて、そしてあらゆる困難な状況での対応の仕方を分かって、一緒に一歩ずつ可能な解決策を考えていく相談員がいることを伝えることにあります。解決策は内密出産になるかどうかは、この時点ではまだ確定していません。内密出産を最初から明確に希望して相談所にやってくる女性であっても、内密出産について時々誤ったイメージを持っていることもあります。この第 1 段階での相談の過程では、例えば、女性が子どもを養子に出すことを希望しているが、内密性はそもそも必要なく、正規の養子縁組が可能であるということが判明することもあります。その時は相談を通して、担当の機関に斡旋します。あるいは、相談の過程で、女性が抱えている不安や匿名を希望している理由が解決可能なものと明らかになることもあります。その女性は、子どもと一緒に生きることを決断するかもしれませんが、例えば青少年保護の支援が必要というケースもあり得ます。ここで、妊娠相談所が持っている全ての力とスキルを発揮できます。その際には、優れたネットワークがあることが、最も重要な要素となります。

## 第 2 段階における相談

第 1 段階における相談後、女性が確実に内密出産の道を選んだことが明らかになってから初めて、内密出産に向けた相談が始まります。また、内密出産の手の準備と全ての協力機関への連絡も始まることとなります。

先ほどお伝えしたように、これらのケースは、周囲に対して妊娠していることを徹底的に隠す女性ですが、まれに、妊娠のことを誰かに明かすこともあります。そうした女性の多くは、妊娠に気付いたのが遅いか極めて遅い段階であり、つまり長期間にわたって、妊娠していることを抑圧していたか、あるいは精神的に分離してきました。こうしたケースでは、一度妊娠を自覚することを許しても、多くの場合、再び抑圧する期間と自覚する期間が交互に繰り返されます。いずれにしても、この場合の女性は、感情的にも身体的にも非常事態におかれ

jedoch einzelne Personen ins Vertrauen gezogen. Viele von ihnen haben die Schwangerschaft spät oder sehr spät bemerkt, also über einen längeren Zeitraum verleugnet oder psychisch abgespalten. Die jetzt zugelassene Wahrnehmung der Schwangerschaft wechselt sich in vielen Fällen immer wieder ab mit Phasen des erneuten Verdrängens. Insgesamt handelt es sich aber immer um Frauen in einer emotionalen und körperlichen Ausnahmesituation. Immer sind es Fälle mit sehr komplexen Problemlagen, die in der Beratung sehr herausfordernd sind. Es gibt im Feld vertrauliche Geburt einen geflügelten Satz: Jeder Fall ist ein Einzelfall. Gemeint ist, dass alle Fälle speziell sind, kaum Gemeinsamkeiten auszumachen sind und immer Situationen auftreten, die es vorher so noch nicht gegeben hat. Es ist also kaum möglich, sich auf die Fälle vorzubereiten. Hinzu kommt, dass die Fälle sehr selten auftreten. Manche Beraterinnen erleben in ihrem ganzen Berufsleben keinen einzigen Fall. Wenn doch, liegen meistens Jahre zwischen den Fällen (oder auch zwischen der Fortbildung und dem ersten Fall). Es kann also keine Routine entstehen. Handlungssicherheit durch Übung, wie in anderen Beratungsfeldern, kann hier in dieser Weise nicht entwickelt werden. Und so werden die Fälle von den Beraterinnen meistens als plötzlich und unerwartet auftretend, dramatisch und existenziell empfunden. Alle Handlungsschritte müssen noch einmal nachgelesen, überprüft und immer wieder neu erarbeitet werden. Der zeitliche Aufwand ist hoch (insbesondere um den Geburtstermin herum), andere Termine müssen abgesagt, Aufgaben verschoben werden, Überstunden in hoher Zahl fallen an. In unserer Beratungsstelle haben wir zum Beispiel zur Regel gemacht, dass in solchen Fällen zu zweit gearbeitet wird: Eine Kollegin arbeitet direkt mit der Frau, eine weitere im Hintergrund. Beide sind mit dem Fall vertraut, sprechen die nächsten Schritte untereinander ab, reflektieren auftretende Dynamiken und Gefühle, nehmen Kontakt zum Netzwerk auf. Das ist allerdings nur deshalb möglich, weil es sich um eine große Beratungsstelle mit fast 20 Personen handelt. In ländlichen Gegenden sind die Beratungsstellen klein - manchmal arbeitet nur eine Beraterin dort alleine. Dort ist diese Form der Arbeit nicht möglich. Im Gegenteil: Ein Fall vertrauliche Geburt kann den restlichen Betrieb der Beratungsstelle zum Erliegen bringen.

ています。全てのケースにはとても複雑な問題状況があり、相談を受ける側にとって、とてもチャレンジングなものです。内密出産に関して、次のことわざがあります。「いずれのケースも特殊なケースである」。それは、各々のケースはそれぞれが特殊なものであり、共通点はほとんど見られず、以前に相談員が経験したことのないような状況も必ずあるという意味です。したがって、事前の準備はほとんどできません。それに加えて、内密出産のケースは極めて稀にしかありません。相談員としてのキャリアにおいて、一度も内密出産の対応を経験しない相談員もいるでしょう。仮に内密出産のケースがあったとしても、ケースとケースの間、或いは研修と初めて受け持つケースの間には、数年の月日を挟みます。これでは、ルーチンを積むことができません。他の相談分野のように、繰り返しを通して行動の安定性を得ることが、ここではできません。このような状況のため、内密出産がある場合、相談員はそれを突然で意外で、劇的で死活に関わっているものと感じます。手続の全ての行動について、もう一度マニュアルを改めて読み直して確認し、改めて情報を取得する必要があります。（特に出産の前後には）時間的な負担が大きく、他のアポイントを延長したり他の仕事を保留したり、かなりの残業をしたりする必要も生じます。そこで、私たちの相談所では、こういった場合には二人体制で対応することを通例にしました。一人の相談員が女性に対応し、もう一人がその後ろでサポートとして働きます。二人ともケースのことを把握しているので、次のステップについて相談し合うことができ、ケースの動きや感情について反省したり、ネットワークと連絡を取り合ったりします。このような体制を取ることができるのは、20人のスタッフを抱える規模の大きな相談所だからです。しかし、地方の相談所は規模が小さく、場合によっては相談員が一人しかいないところもあります。そこでは、このようなやり方は不可能です。それどころか、内密出産のケースがあれば、相談所の他の運営を全て中断させる可能性があります。

## **Netzwerk**

Absolut wichtig und notwendig in diesen Situationen ist ein funktionierendes Netzwerk! Ein Netzwerk, in dem alle Beteiligten ihre Aufgaben kennen und wahrnehmen. In dem alle zuständigen Personen bekannt sind und – ganz wichtig – in dem mit Respekt und Wertschätzung gegenüber der Aufgabe der anderen Partner gehandelt wird. Die Perspektiven und Anliegen sind unterschiedlich und widersprechen sich manchmal. Ein Beispiel: Die Adoptionsvermittlungsstelle hat mit Blick auf das Kind das starke Anliegen, so viele Informationen wie möglich von der Mutter zu erhalten. Die Schwangerschaftsberatungsstelle hat den Auftrag und das Anliegen, die Vertraulichkeit der Mutter weitestgehend zu schützen. Ob die Zusammenarbeit gut gelingt hängt von verschiedenen Faktoren ab: Die Institutionen sollten sich der unterschiedlichen Aufträge bewusst sein und offen damit umgehen. Es kann und sollte einander zugearbeitet werden. Am Beispiel Adoptionsvermittlung/Schwangerschaftsberatungsstelle: Ich habe den Frauen immer vorgeschlagen, die Kollegin der Adoptionsvermittlungsstelle zu einem gemeinsamen Gespräch einzuladen. Es muss dann transparent sein, dass alles, was die Frauen sagen, auch in die Adoptionsakte aufgenommen wird. Das ist aus Sicht der Adoptionsvermittlung immer der Idealfall. Und auch für die Frauen, die dem zugestimmt haben, hat es sich häufig als hilfreicher und heilsamer Schritt herausgestellt, Wünsche für die Auswahl der Adoptiveltern äußern zu dürfen und etwas darüber zu erfahren, wie ausgewählt wird. Stimmen die Frauen dem Gespräch mit der Kollegin nicht zu, wird genau vereinbart, welche Informationen die Beraterin weitergeben darf. Meine Erfahrung ist, dass viele Frauen dann sagen, Sie dürfen alles erzählen, ich möchte nur keinen persönlichen Kontakt.

## **Administrativer Ablauf**

Der administrative Teil des Verfahrens nimmt einen sehr großen Raum ein. Selbst wenn das Netzwerk vorhanden ist, die Personen bekannt sind, alle ihre Aufgaben kennen – es handelt sich um große Institutionen mit vielen verschiedenen Personen und Professionen, die bei dieser Komplexität und der Seltenheit der Fälle gar nicht alle immer kenntnisreich handeln können. In den Kliniken ist es am schwierigsten, das Wissen über die vertrauliche Geburt an den wichtigsten Schnittstellen zu verankern und auch immer wieder zu pflegen.

## ネットワーク

この状況でとても重要で必要になるのは、ネットワークが機能していることです。ネットワークの中で、関係諸機関の全てがそれぞれの任務を把握して、その役割を果たしていることが大切です。また、全ての担当者を互いに知っていることは大事ですが、他の関係諸機関の役割と任務が尊敬され、評価されていることもとても大事です。関係諸機関のそれぞれの視点と目的は異なっており、場合によっては食い違うこともあります。例えば、養子縁組斡旋機関は、子どもの観点から母についてできるだけ多くの情報を把握したい立場に立っています。しかし、妊娠相談所は母の内密性をできる限り保障する任務と責任があります。養子縁組斡旋機関と妊娠相談所との連携がうまくいかどうかはいくつかの要素によるものです。関係諸機関はそれぞれの異なる任務を相互に理解し、それについてオープンに行動すべきです。お互いの任務を手伝うことが可能であり、また、そうすべきです。例えば、養子縁組斡旋機関と妊娠相談所の連携の場合、私が女性に毎回提案したのは、養子縁組斡旋機関の担当者を話し合いの場に一緒に招待することです。その際には、女性が話すこと全部が、養子縁組の資料に記録されることも明らかに伝えなければなりません。それは、養子縁組斡旋の立場からすると理想的です。また、それに同意した女性にとっても、養親の選択について希望を言うことができ、また、どのようにして養親が選ばれるかという情報を得ることができるのは、多くの場合有益で負担が軽くなることにもつながりました。養子縁組斡旋機関の担当者との話し合いに女性の承認が得られない場合は、相談員がどのような情報を養子縁組斡旋機関に提供してよいかを詳細に話し合います。私の経験では、多くの女性は、[養子縁組斡旋機関に] 全てを話してよいが、個人的なコンタクトだけはとって欲しくないと答えます。

## 管理上の手続

手続の管理面は極めて大きなウェイトを占めています。ネットワークが構築されていて、担当者が明確で、関係者全員がそれぞれの役割を把握しているとしても、関係諸機関は大きな機関であり、多くの人間と多くの職業の人がいるため、ケースの複雑さと珍しさに対して、全員が正しく行動できるとは限りません。内密出産についての知識を定着させ、定期的に整備していくのがもっとも難しいのは、病院です。

Ein Beispiel: Die Frau ist in der Klinik zu vertraulichen Geburt angemeldet. Im Kreissaal wissen mehrere Hebammen und Ärzte Bescheid, die Station wurde informiert. Die Wehen setzen ein, sie kommt nachts in die besagte Klinik. Am Empfang sitzt eine Aushilfe, die zuerst den Namen und das Krankenkassenkärtchen der Frau verlangt. Von vertraulicher Geburt hat sie noch nie gehört. Im Kreissaal hat eine Hebamme Dienst, die gerade aus dem Urlaub kommt und noch nicht informiert wurde. Vertrauliche Geburt hat sie schon mal gehört, kennt aber die genauen Abläufe nicht. Sie wird im Laufe der Nacht alle Informationen schriftlich hinterlegt finden. Für die Frau bedeutet das aber, in dieser Situation (unter Wehen mit Angst vor Entdeckung, mit bevorstehender Trennung vom Kind, nach hoch krisenhafter Schwangerschaft usw.) immer wieder auf Personen zu treffen, die nichts von dem wissen, was ihr vorher versprochen wurde und angeblich vorbereitet sein soll. Sie muss aufpassen und sich immer wieder rechtfertigen (wenn sie dazu in der Lage ist) und gerät in Konfliktsituationen mit den Personen, denen sie sich für die Geburt anvertrauen soll. Ohne Frage wäre es sehr wünschenswert, alles würde reibungslos klappen. Und manchmal - ganz ganz selten - ist das auch so. In der Regel sind solche Stolperstellen aber die Realität – und zwar mit allen Verfahrensbeteiligten. Dies war nur das Beispiel Klinik, das geht nach der Geburt weiter mit Jugendamt, Familiengericht, Entbindungsstation usw. Die Beratungsstellen steuern das Verfahren. Und es hat sich als hilfreich erwiesen, dann auch sehr entschieden zu steuern. Aber um diese Rolle einzunehmen, muss Erfahrung und Handlungssicherheit da sein. Wir und auch andere Verbände sind jetzt dazu über gegangen, zu spezialisieren. Einzelne Beraterinnen mit viel Erfahrung tauschen sich aus, lernen gemeinsam an den stattgefundenen Fällen und stehen als Mentorinnen im Hintergrund den Kollginnen in den aktuellen Fällen zur Verfügung.

### **Psychodynamik**

Über die rechtliche und administrative Komplexität hinaus handelt es sich um Fälle, in denen ein neugeborenes Kind von seiner Mutter zurückgelassen wird. Existenzielle menschliche Themen von Schutz, Nähe, Verlassenheit, Liebe, Familie, Bindung und viele Themen mehr wirken dabei auf alle Personen, die mit dem Fall in Berührung sind. Und die Fälle berühren die professionellen Helfer sehr. Man merkt das an einer allgemein hohen Emotionalität in der



例えば、女性は内密出産のために病院で申し込みをしました。分娩室では数人の助産師と医師に情報が伝えられていて、病棟にも情報が伝えられています。陣痛が始まり、女性は夜中にその病院に向かいます。受付には臨時の人がいて、女性の名前と保険証を求めます。内密出産のことは知りません。分娩室に待機しているのは、休暇から戻って来たばかりで、このケースの情報を得ていない助産師です。内密出産という言葉聞いたことはありますが、具体的な流れについては知りません。助産師は夜中であっても内密出産についての情報をマニュアルで確認できます。しかし、当該女性にとっては、この状況（つまり、陣痛中で、ばれることに対する恐怖を抱え、子どもとの別れに直面し、危機的妊娠を経た状況）の中で、以前約束されたことや準備されたはずのことについて何も知らない人と繰り返し出会うこととなります。女性は（それができる状況ならば）常に気を張りながら、自分の状況をできる限り再び説明しなければならず、しかも出産のために信頼すべきはずの人々との葛藤状況に陥ります。当然ながら、このような問題が生じないことが望ましいです。稀な場合ですが、場合によってはそれでもうまくいきます。しかし、このようなつまずきが起こるのは珍しいことではなく、また、[病院に限らず] 全ての関係諸機関において起こり得るのです。今取り上げたのは病院という例でしたが、出産後には青少年局、家庭裁判、分娩病棟などが関わってきます。相談所は手続をコーディネートします。相談所が積極的に[手続を]コーディネートしていくことが効果的であるという経験があります。しかし、相談所がこの役割を果たすには、経験と行動に対して自信を持つことが必要です。私たちは、そして他の団体も、業務分担化・専門化を進めることにしました。多くの経験を積んできた相談員は互いに情報を交換し、具体的なケースを通して一緒に学び、現在取り扱い中のケースの担当者を背後から指導者として支えています。

## 精神力動

内密出産は、法律上と管理上の複雑さに加えて、新生児が母から手放されることです。このようなケースでは、守られること、親しさ、離れること、愛、家族、きずな等々といった重要なテーマが関係者全員に影響を及ぼします。これらのケースは専門家でも感動させられます。これは、連携していく上で常に感情が高ぶった状態におかれていることから分かります。これは同時に、感情的に行動してしまう恐れも孕んでいます。全ての手続を、人間的な共感を挟むよりも、専門的な基準と判断に基づいて行うためには、支援に関わる全員に、高いレベルの反省やプロフェッショナルとしての自覚が必要とされます。しかし、相談員の共感のはけ口も絶対に必要です。例えば、同僚や指導者との話し合い、あるいは研修といった形です。

Kooperation. Impulshaftes Handeln ist die Gefahr, die darin wohnt. Ein hohes Maß an Reflexion und Professionalität ist gefordert von allen Helfenden, um alle Schritte aufgrund professioneller Grundsätze und fachlicher Einschätzungen zu treffen - und erst in zweiter Linie aus menschlichem Mitgefühl. Dieses Mitgefühl braucht jedoch unbedingt Raum - in Form von Austausch mit Kolleginnen, in Rahmen von Supervision oder Fortbildungen.

Sie sehen, die Fälle sind umfangreich, fordernd und füllen eine Beraterin voll aus - fachlich, emotional, administrativ, zeitlich. Aus fachlicher Sicht wäre es angemessen, als Standard zu formulieren, dass eine Beraterin, die mit einem Fall vertraulicher Geburt befasst ist, zumindest rund um den Geburtstermin keine anderen Aufgaben wahrnehmen kann. Aber ich erinnere an die kleinen Beratungsstellen im ländlichen Raum - es ist kaum möglich, dort einen Fall vertrauliche Geburt durchzuführen und den Betrieb einer Beratungsstelle aufrecht zu erhalten.

## **Fazit**

Ich komme zum Schluss und möchte noch einmal als Fazit zusammenfassen:

Die Fälle sind selten. In den meisten Beratungsstellen liegen Jahre zwischen zwei Fällen. Wenn sie aber auftreten sind sie hoch komplex und sehr fordernd. Sie sind für kurze Zeit sehr ressourcenintensiv und verlangen ein hohes Maß an Wissen, Professionalität und Reflexionsfähigkeit.

Der Zeitbedarf ist besonders in kleinen Beratungsstellen problematisch.

Die fast immer auftretenden Sondersituationen bringen die Berater\*innen unter Druck. Die Recherche, um unklare Rechtsfragen zu klären, benötigt oft sehr viel Zeit, weil es wenig Fachleute gibt, die sich mit der vertraulichen Geburt gut auskennen und sich eine verbindliche Auskunft zutrauen. Eine echte Verbesserung wäre eine zentrale Stelle, an der sich alle Beteiligten und auch die Schwangerschaftsberatungsstellen rechtlich absichern könnten.

Die Beratungsstellen steuern das Verfahren - es ist gut für den Verlauf, wenn diese auch aktiv die steuernde Rolle einnehmen. Dafür ist aber ein Gefühl von

内密出産のケースは周りを巻き込んで大規模になりますので、相談員は専門的にも、感情的にも、管理上でも、時間的にもそのケースのために明け暮れることになります。内密出産のケースを担当している相談員に、少なくとも出産予定日の前後に他の任務を免除することを基準とするのは、専門的な立場から妥当だと思います。先ほど触れた地方の小さい相談所では、内密出産のケースを取り扱いながら、相談所の通常の運営を行うことはほぼ不可能でしょう。

## 結論

最後になりますが、結論として次のことを纏めたいと思います。

内密出産のケースは稀にしかありません。多くの相談所では、内密出産のケースに直面するのは数年に一度程度です。しかし、一つケースがあれば、それは極めて複雑で、相談員にとってかなりの負担となります。短い期間に多くの資源を必要とするので、高いレベルの知識と専門性、そして反省力が必要となります。

たくさんの時間を費やすことになるので、特に小さい相談所では問題となります。

内密出産のケースで生じる特殊な状況は、相談員にプレッシャーをかけます。内密出産について詳しく、拘束力のある判断に自信がある専門家が少ないため、分からない法的な問題を調べるためには、とても時間がかかります。全ての関係者にとっても、妊娠相談所にとっても、法的な安定性を得られる中央機関があれば、大きな改善となります。

相談所は手続をコーディネートします。そのコーディネートの役割を積極的に演じることによって、一連の流れがスムーズになります。しかし、そのためには、行動に対して自信を持ち、手続について深い知識を備えていることが前提となります。しかし、ごく稀なケースのため、これが実現できるとは限りません。

Handlungssicherheit und vertieftes Wissen zum Verfahren Voraussetzung. Bei so seltenen Fällen kann das nicht immer aufrechterhalten werden.

Die Fälle verlaufen dann gut, wenn das Netzwerk funktioniert – alle kennen ihre Aufgaben, die Ansprechpersonen sind bekannt.

Insgesamt ist das Verfahren bei den Schwangerschaftsberatungsstellen jedoch sehr gut aufgehoben. Den Frauen, die sich in ihrer Notsituation an uns wenden, kann zunächst sehr viel Wissen, hohe Beratungskompetenz und gute Vernetzung geboten werden und nicht selten kann dadurch eine andere Lösung als die vertrauliche Geburt gefunden werden.

Wie zu Beginn erwähnt, haben wir diese Zielgruppe in den Beratungsstellen schon immer beraten. Seit Einführung der vertraulichen Geburt ist die Zahl jedoch angestiegen. Es sind mit Sicherheit Frauen darunter, die ohne das neue Gesetz den Weg der regulären Adoption gewählt hätten. Gut ist, dass die Möglichkeit für das Kind, die Identität der Mutter zu erfahren, auch bei der vertraulichen Geburt gesichert ist.

Verhindern wir damit Kindsaussetzungen und Kindstötungen? Ich glaube nicht. Die Frauen, die zu uns kamen, waren sich ihrer Schwangerschaft bewusst und hatten alle ein Mindestmaß an Kontakt zum Ungeborenen. Viele haben formuliert, dass es ihnen am wichtigsten ist, dass es dem Kind gut geht. Ich bin davon überzeugt, dass die Frauen, die ihre Kinder alleine zur Welt bringen und dann aussetzen durch keinerlei Angebot zu erreichen sind.

Haben wir Frauen betreut, die ohne die vertrauliche Geburt ihr Kind in eine Babyklappe gelegt hätten? Sobald die Frauen mit uns in Kontakt sind, gelingt es meiner Einschätzung nach fast immer, eine andere Lösung als Babyklappe oder anonyme Geburt zu finden. Sollte die vertrauliche Geburt in einer ganz besonders kritischen Situation der Frau subjektiv nicht ausreichend Schutz bieten, wäre die komplett anonyme Geburt in einem Krankenhaus das Mittel der Wahl.

ネットワークが機能していると、ケースの流れもよくなります。全ての関係者は自らの役割を把握し、担当者は知られています。

全体的にみれば、妊娠相談所が内密出産の手続を担当するのはとても適切だと思います。相談にやってくる困難な状況にいる女性に対して、たくさんの知識と高いレベルの相談スキル、そしてよいネットワークを提供できます。少なくない割合で、それを通して、内密出産に至らない解決策を見出すことが可能となります。

冒頭でも申し上げましたが、こういったターゲットグループは、従来から相談所で取り扱ってきました。しかし内密出産が導入されてから、その数が増えてきました。その中には、新しい法律がなければ、子どもを正規の養子縁組に出すことを決断したであろうという女性も確実にいます。内密出産のよいところは、子どもが母の身元を知る可能性が保障されていることです。

しかし、内密出産で子どもの遺棄と殺害を防げますか？と問われるならば、私はそう思いません。私たちのところに相談に来た女性は、妊娠していることを自覚して、産まれていない子どもと最低限の関わりを持っていました。多くの女性は、子どもが元気であることが一番大事だと言っていました。子どもを一人で産んでから遺棄する女性には、どんな支援制度があっても届けることはできないと私は確信しています。

内密出産制度がなければ、赤ちゃんポストを利用したであろうという女性もいたでしょうか？私の経験では、女性が私たちとコンタクトを取ってくれている以上、ほとんどの場合では、赤ちゃんポストと匿名出産以外の解決の道を探し出すことに成功しています。とりわけ危機的な状況にいる女性で、内密出産では主観的に十分な保護を得られないとなった場合には、病院での完全な匿名出産が次の選択肢となるでしょう。

Insgesamt haben die Schwangerschaftsberatungsstellen, aus Anlass der Regelung der vertraulichen Geburt, neue Netzwerke geknüpft und ich möchte sagen, dass wir insbesondere vom Kontakt zu den Adoptionsvermittlungsstellen sehr profitieren. Wir lernen mit jedem neuen Fall dazu und manchmal entstehen sehr lange Beratungsprozesse in der Nachbetreuung. Ich betreue einen Fall, in dem das Kind jetzt 1,5 Jahre alt ist und es nach wie vor Briefkontakt zwischen Mutter und Adoptiveltern gibt. Es hat sogar eine persönliche Begegnung gegeben, die für alle Beteiligten sehr berührend war. Insgesamt ist es eine sehr fordernde und gelegentlich sehr berührende Arbeit.

Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit!

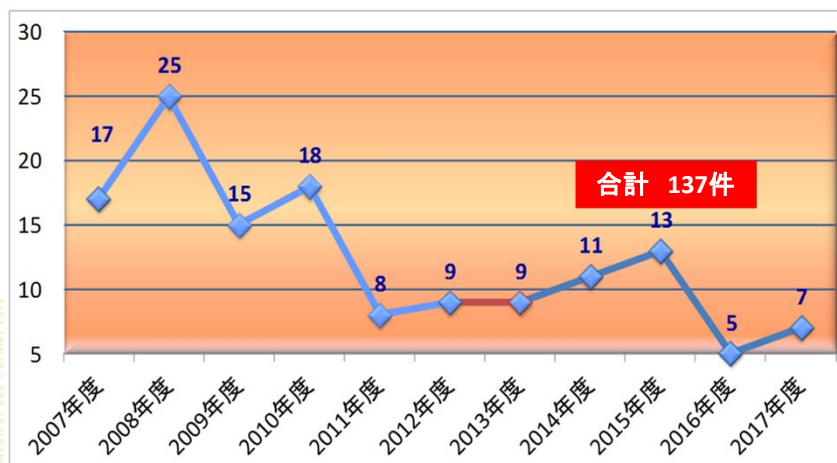
全体的には、内密出産の規定をきっかけに、妊娠相談所は新たなネットワークを構築し、特に養子縁組斡旋機関との連携をとれたことは、私たちにとって大きなメリットであることを強調したいと思います。全てのケースを通して私たちはたくさんの新しいことを学び、場合によっては、事後の相談が長く続いていきます。私が担当しているケースでは、子どもが1歳半になった今でも、未だ母と養親の間での文通が続いています。彼らは直接対面したこともあり、それは全員にとってとても感動的でした。全体的には、これはとてもチャレンジングではありますが、時々感動のある仕事でもあります。

ご清聴ありがとうございました。

# 日本で内密出産は実現可能か？ ～似て非なる日独社会？～

慈恵病院 蓮田 健

## 赤ちゃんの預け入れ件数



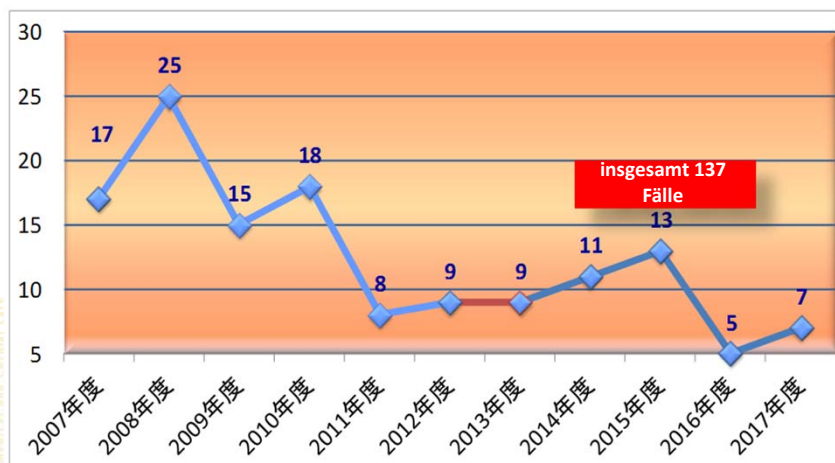


## Ist die vertrauliche Geburt in Japan realisierbar?

### Die Gesellschaft in Japan und Deutschland – ähnlich aber doch anders? –

Jikei-Krankenhaus Takeshi Hasuda

## Fallzahlen abgegebener Babys



## 「こうのとりのゆりかご」第4期検証報告書 (2017年9月)

第3者検証委員会から以下の提言がなされた。

- ① 医師や助産師が不在の**孤立出産**の割合が高く、  
母児の生命・健康が脅かされる。
- ② 子の**出自を知る権利**を損なう。

## 「こうのとりのゆりかご」第4期検証報告書より (2017年9月)

専門部会からの要望

「わが国でも**内密出産制度**を早急に検討していただきたい。」

**Bericht der Prüfungskommission zur  
,Storchenwiege' (4. Periode)  
September 2017**

Von der externen Prüfungskommission wurden folgende  
Vorschläge gemacht:

- ① Der Anteil **medizinisch unbegleiteter Hausgeburten** unter  
Abwesenheit eines Arztes oder einer Hebamme ist hoch; Leben und  
Gesundheit von Mutter und Kind werden gefährdet.
- ② Das **Recht** des Kindes **auf Kenntnis der eigenen Abstammung**  
wird verletzt.

**aus dem Bericht der Prüfungskommission zur  
,Storchenwiege' (4. Periode)  
September 2017**

Forderung der Expertenkommission:

„Auch in Japan sollte das **System der vertraulichen Geburt**  
rasch geprüft werden.“



## 慈恵病院

### SOS赤ちゃんとお母さんの相談窓口

	相談受付件数
2007年度	501件
2008年度	472件
2009年度	513件
2010年度	591件
2011年度	690件
2012年度	1000件
2013年度	1445件
2014年度	4036件
2015年度	5466件
2016年度	6565件
2017年度	7444件
計	28723件

慈恵病院 現場の声

**内密出産のシステムがあればと思うのは・・・**

「お腹の赤ちゃんを育てられない、誰にも知られずに産みたい」

⇒ **このままでは孤立出産になってしまう**



## Jikei-Krankenhaus Beratungsanlaufstelle SOS Baby und Mutter

	Zahl der Beratungen
Fiskaljahr 2007	501 Fälle
Fiskaljahr 2008	472 Fälle
Fiskaljahr 2009	513 Fälle
Fiskaljahr 2010	591 Fälle
Fiskaljahr 2011	690 Fälle
Fiskaljahr 2012	1000 Fälle
Fiskaljahr 2013	1445 Fälle
Fiskaljahr 2014	4036 Fälle
Fiskaljahr 2015	5466 Fälle
Fiskaljahr 2016	6565 Fälle
Fiskaljahr 2017	7444 Fälle
gesamt	28723 Fälle

Jikei-Krankenhaus Stimmen aus der Praxis

**Wenn es doch ein System der vertraulichen Geburt gäbe ...**

„Ich kann das Kind in meinem Bauch nicht aufziehen; ich möchte es gebären, ohne dass jemand davon erfährt“

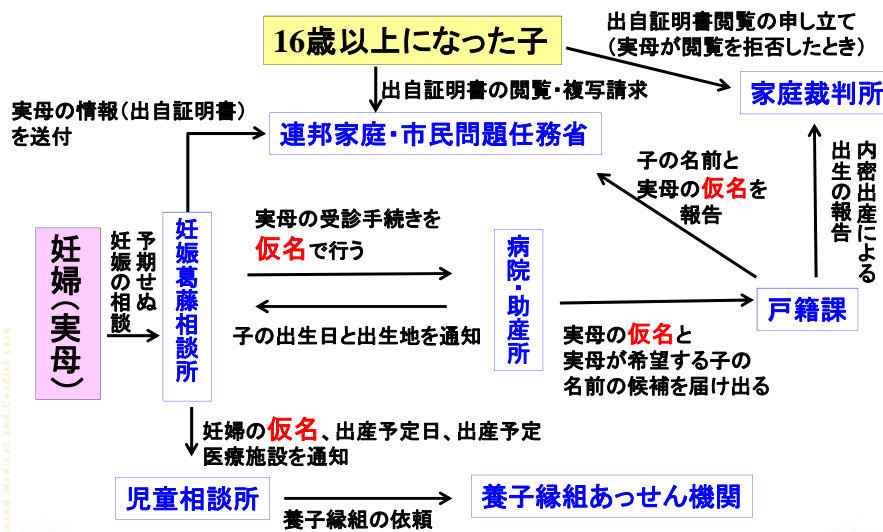
⇒ **Gefahr einer medizinisch unbegleiteten Hausgeburt**

慈恵病院 現場の声  
**内密出産のシステムがあればと思うのは・・・**

「慈恵病院で産んで、赤ちゃんポストに預けたい」

⇒ 孤立出産を避けるために、  
 「身元を明かさなくてもいいから、慈恵病院で産んで」と言えないものか？

**ドイツにおける内密出産の流れ**

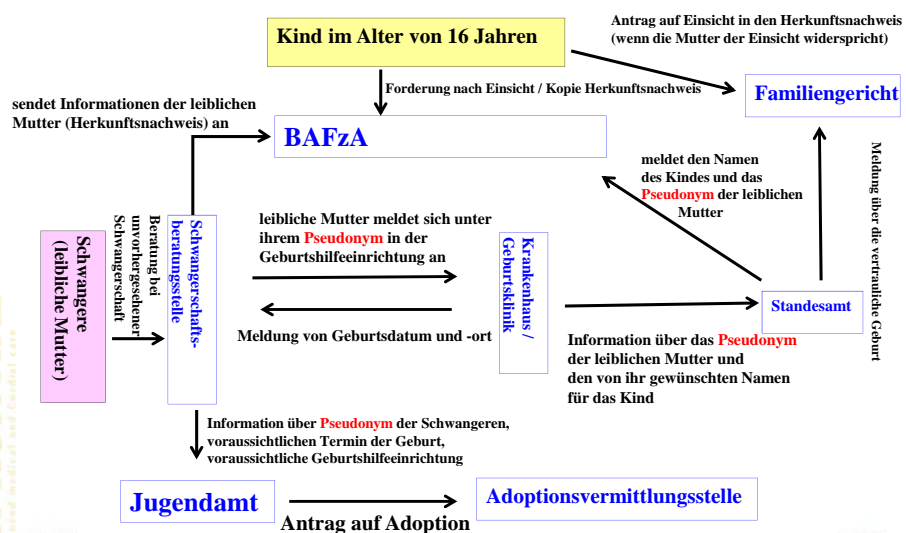


Jikei-Krankenhaus Stimmen aus der Praxis  
**Wenn es doch ein System der vertraulichen Geburt gäbe ...**

„Ich möchte das Kind im Jikei-Krankenhaus zur Welt bringen und dann in die Babyklappe legen.“

⇒ Kann man nicht sagen, „du musst deine Identität nicht preisgeben, bring dein Kind im Jikei-Krankenhaus zur Welt“, um eine unbegleitete Hausgeburt zu vermeiden?

## Ablauf der vertraulichen Geburt in Deutschland







## Ein System, das es in Deutschland, aber nicht in Japan gibt

BAFzA

staatliche Behörde, die den Herkunftsnachweis aufbewahrt

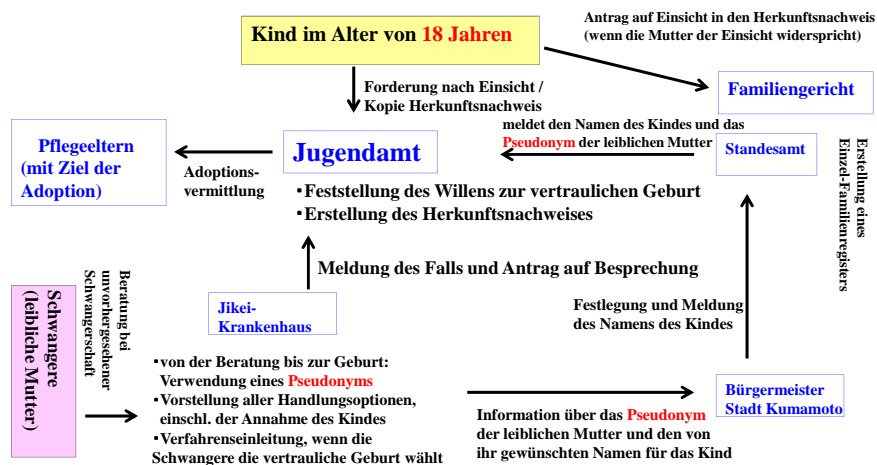
⇒ Könnte dies nicht auch das zuständige Jugendamt übernehmen?

Schwangerschafts-  
beratungsstelle

eine von allen anderen Institutionen unabhängige Beratungsstelle

⇒ Könnte dies nicht das Jugendamt oder ein Krankenhaus übernehmen, solange die Schweigepflicht erfüllt wird?

## vom Jikei-Krankenhaus angestrebte vertrauliche Geburt



## 慈恵病院にとっての内密出産は・・・

「通常の特別養子縁組を前提とした出産」  
「こうのとりのゆりかご」

の間にある

両方のシステムを経験している慈恵病院にとって、  
内密出産は来月にでも実施可能

ただ、最大の問題は戸籍



「こうのとりのゆりかご」の場合は、  
親の情報がなければ、  
熊本市長が名付け親になり、  
一人戸籍が作られる。

## Bedeutung der vertraulichen Geburt für das Jikei-Krankenhaus

Mittelweg zwischen  
„Geburt unter der Voraussetzung einer regulären speziellen Adoption“  
und  
„Storchenwiege“

Für das Jikei-Krankenhaus, das mit beiden obigen Systemen Erfahrung hat, wäre die vertrauliche Geburt schon im nächsten Monat durchführbar.

aber: das Familienregister ist das größte Hindernis



Im Fall der „Storchenwiege“ wird der Bürgermeister der Stadt Kumamoto zum Namensgeber des Kindes und ein Einzel-Familienregister wird angelegt, wenn keine Informationen über die Eltern vorliegen.

### 戸籍法第57条

「棄児を発見したものは24時間以内にその旨を市町村長に申し出なければならない」

「申出があったときは、市町村長は、氏名をつけ、本籍を定めなければならない」

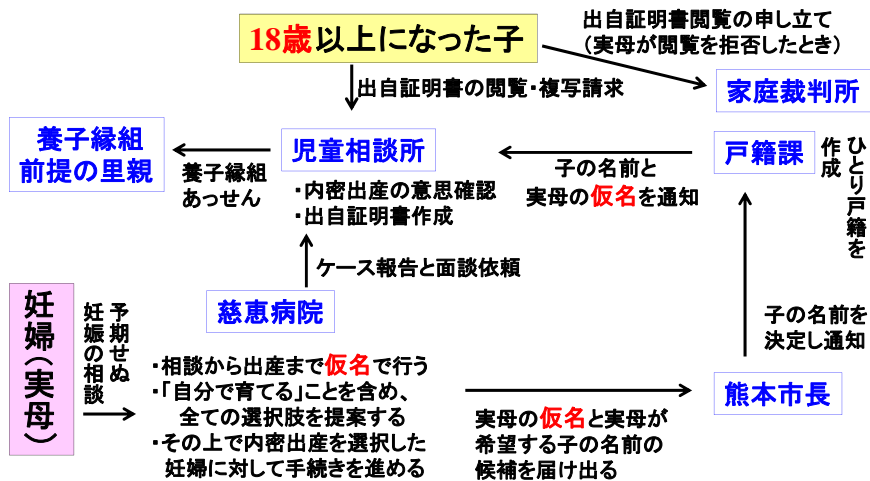
棄児とは？「遺棄され保護されたときに親がわからない児童」

- ・実母は目の前で出産し入院している。
  - ・自らの身元情報を明かすことを拒否。
- この場合、赤ちゃんを棄児とみなすことができるか？



熊本法務局「棄児とみなすことはできない」

### 慈恵病院が目指す内密出産



## Familienregistergesetz § 57

„Wer ein **Findelkind** entdeckt, muss dies innerhalb von 24 Stunden dem Bürgermeister der Kommune melden.“

„Wenn eine Meldung vorliegt, muss der Bürgermeister Vor- und Familienname sowie den Ort des Familienregisters bestimmen.“

Was ist ein **Findelkind**? „Ein Kind, das ausgesetzt wurde und dessen Eltern bei der Inobhutnahme unbekannt sind.“

- Die leibliche Mutter befindet sich offensichtlich im Krankenhaus und entbindet.
- Sie weigert sich, ihre Identität offenzulegen.

**Kann in diesem Fall das Kind als Findelkind angesehen werden?**



Rechtsamt Kumamoto: „eine **Behandlung als Findelkind ist nicht möglich**“

## vom Jikei-Krankenhaus angestrebte vertrauliche Geburt



**第52条**

「出生の届出を父または母ができない場合には、  
出産に立ち会った医師、助産師又は届出を  
しなければならない」

**第49条**

「出生の届書には父母の氏名及び本籍を記載  
しなければならない」

**父母の氏名がない出生届書を行政は受理してくれるのか？**

戸籍課

作成  
ひとり戸籍を

子の名前を  
決定し通知

慈恵病院

実母が出産したら

熊本市長

実母の**仮名**と実母が  
希望する子の名前の  
候補を届け出る

## 熊本法務局戸籍課の見解

一般論として、出生届書には親の氏名を記載しなければならない。

しかし、分娩に立ち会った医師からの届け出の受理を市役所が断った  
場合、**職権記載(24条2項、44条3項)**で何らかの対応はできる。

一部不備があったからと入って、無戸籍の子を作ることはしない。  
つまり**現行の戸籍法の範囲内で対応できる。**

**24条**

戸籍の記載が法律上許されないものであること又はその記載に錯誤若しくは遺漏がある場合、  
市町村長は、遅滞なく届出人又は届出事件の本人にその旨を通知しなければならない。  
通知をすることができないとき、又は通知をしても戸籍訂正の申請をする者がいないときは、  
市町村長は、管轄法務局又は地方法務局の長の許可を得て、戸籍の訂正をすることができる。

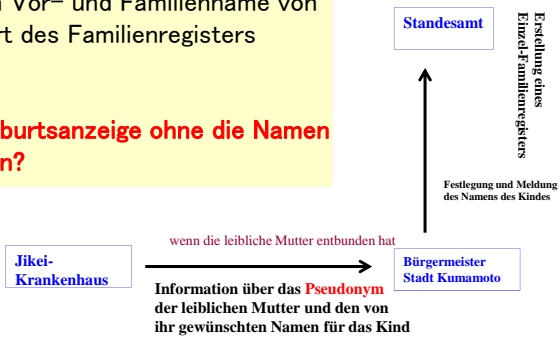
### § 52

„Können der Vater oder die Mutter die Geburt nicht anzeigen, so muss der bei der Geburt anwesende Arzt oder die Hebamme die Geburt anzeigen.“

### § 49

„In die Geburtsanzeige müssen Vor- und Familienname von Vater und Mutter sowie der Ort des Familienregisters eingetragen werden.“

**Nimmt die Verwaltung eine Geburtsanzeige ohne die Namen von Vater und Mutter entgegen?**



## Stellungnahme des Rechtsamtes Kumamoto, Abteilung Familienregister

Grundsätzlich müssen in die Geburtsanzeige Vor- und Familiennamen der Eltern eingetragen werden.

Wenn jedoch die Anzeige durch den bei der Entbindung anwesenden Arzt vom Rathaus nicht entgegengenommen wird, kann eine Eintragung **von Amts wegen** (§ 24 Abs. 2, § 44 Abs. 3) möglich sein.

Lediglich aufgrund einer Unvollständigkeit soll kein Kind ohne Familienregister sein. D.h. **im Rahmen des bestehenden Familienregisterrechts ist eine Lösung möglich.**

### § 24

Wenn die Eintragung im Familienregister rechtlich nicht zulässig ist oder ein Irrtum oder eine Auslassung vorliegt, muss der Bürgermeister dies unverzüglich dem Antragsteller oder der von dem Antrag betroffenen Person mitteilen. Ist dies nicht möglich oder gibt es keine Person, die aufgrund dieser Mitteilung eine Korrektur des Familienregisters beantragt, kann der Bürgermeister mit der Erlaubnis des Leiters des zuständigen Rechtsamtes oder des regionalen Rechtsamtes das Familienregister korrigieren.

## 内密出産と「出自を知る権利」について

## 内密出産は「出自を知る権利」の問題を解決できるのか？

1. 子のアイデンティティ形成のために必要な出自情報なら、16歳よりも早い時期に知らせなくて良いのか？
2. 子が16歳になった時点で出自情報の開示が実現できると良いが、実母が開示を拒否した時の子のダメージは？



## Über die vertrauliche Geburt und das „Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung“

### Kann die vertrauliche Geburt das Problem um das „Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung“ lösen?

1. Sollten die Informationen über die eigene Abstammung dem Kind nicht früher als mit 16 Jahren mitgeteilt werden, wenn diese für die Ausbildung der Identität als notwendig erachtet werden?
2. Wenn eine Offenlegung der Informationen über die eigene Abstammung im Alter von 16 Jahren realisiert werden kann ist dies gut; wie groß ist aber der Schaden, wenn die leibliche Mutter der Einsicht widerspricht?

## 内密出産についての疑問

ドイツ人に聞いてみました

1. 今は自分の身元情報を明かせないが、16年後なら明かしても良いという、その事情とは、どのような事情なのか？
2. 16年後、実母が身元情報の開示を拒否した時、裁判所はどのような事情なら実母の開示拒否を認めるのか？

ドイツ視察の際に質問したが、ドイツ人も考え込んでいた。

ドイツでは内密出産にあたって厳密な制度設計を行っているわけではない。  
ドイツ人は走りながら考えている。  
ドイツの真似でなく日本に合った内密出産を。

ドイツでは、長距離列車の定時運行率は80%を割り込んでいる。  
6分以下の遅れは「遅れ」と見なされていない。

東海道新幹線の平均遅延時間は24秒  
「定刻より1分遅れて申し訳ありません」と車内放送で謝る



## Fragen zur vertraulichen Geburt

Ich habe Deutsche befragt:

1. Welcher Natur sind die Umstände, die es mir momentan nicht erlauben, meine Identität offenzulegen, aber nach 16 Jahren?
2. Welche Umstände erkennt das Gericht an, wenn die leibliche Mutter nach 16 Jahren der Offenlegung der Informationen zu Ihrer Identität widerspricht?

Bei meiner Besichtigung in Deutschland habe ich dies gefragt, aber auch die Deutschen sind daraufhin in Gedanken versunken.

**Es ist nicht so, dass für die vertrauliche Geburt in Deutschland ein strenges System errichtet worden wäre.**

**Die Deutschen denken während des Laufens.**

**Es ist ein System der vertraulichen Geburt notwendig, das das deutsche System nicht nachahmt, sondern den japanischen Umständen gerecht wird.**

In Deutschland liegt der fahrplanmäßige Verkehr im Zugfernverkehr bei unter 80%. Eine Verspätung von unter 6 Minuten wird nicht als Verspätung angesehen.

Die durchschnittliche Verspätung des Tōkaidō-Shinkansen liegt bei 24 Sekunden; per Durchsage kommt die Entschuldigung „Wir bitten Sie um Entschuldigung für die einminütige Verspätung.“



## 内密出産の問題点(出自証明書の記載事項)



- ドイツでは・・・
- ・実母の名前
  - ・実母の生年月日
  - ・実母の住所

### これだけ？

妊娠の経緯は？  
我が子の養育を断念した理由は？  
父親の情報は？

## 内密出産の問題点(病院の責任)



## Problempunkte der vertraulichen Geburt (Eintragungen im Herkunftsnachweis)



- In Deutschland wird eingetragen:
- Name der leiblichen Mutter
  - Geburtsdatum der leiblichen Mutter
  - Adresse der leiblichen Mutter

### Ist das alles?

Verlauf der Schwangerschaft?

Grund für den Verzicht auf die Erziehung des eigenen Kindes?

Informationen zum Vater?

## Problempunkte der vertraulichen Geburt (Verantwortung des Krankenhauses)



## 内密出産の問題点(病院の責任)

1. 分娩では、大出血や脳出血など死亡や後遺症につながるアクシデントが発生することがある。  
その意味では、手術に匹敵するほどの医療行為である。
2. 手術においては、本人・家族連名の承諾書が必要。
3. 家族に知らせないまま出産した婦が、分娩中に死亡したり重大な後遺症を残したとき、分娩を家族に知らせなかった病院が訴えられないか？

## 帝王切開術の同意書 日本では家族の同意が必要

以上帝王切開術に関して説明しました。  
不明な点は納得されるまで主治医にお尋ねください。

平成29年8月15日

慈恵病院 産婦人科 蓮田 健

上記手術に関する説明につき起こりうる合併症とそれに必要な処置も併せて承諾し、手術を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者氏名 \_\_\_\_\_ 印

親族氏名 \_\_\_\_\_ 印 続柄( )

## Problempunkte der vertraulichen Geburt (Verantwortung des Krankenhauses)

1. Bei einer Entbindung kann es zu Zwischenfällen kommen, etwa zu großem Blutverlust oder zu einer Gehirnblutung, was zum Tod oder zu Folgeschäden führen kann. In diesem Sinne ist die Entbindung ein mit einer Operation vergleichbarer medizinischer Eingriff.
2. Bei einer Operation ist die schriftliche Einwilligung der betroffenen Person und seiner Familie notwendig.
3. **Kann nicht das Krankenhaus** (das die Familie nicht über die Entbindung informiert hat) **verklagt werden**, wenn eine Frau ohne Wissen der Familie entbindet, sie dabei verstirbt oder schwere Folgeschäden davonträgt?

## Einverständniserklärung zum Kaiserschnitt In Japan ist die Zustimmung der Familie notwendig

Die Erklärung zum Kaiserschnitt wurde durchgeführt.  
Bei Unklarheiten fragen Sie Ihren behandelnden Arzt, bis alle Fragen geklärt sind.

15. August 2017

Jikei-Krankenhaus, Abteilung für Gynäkologie Takeshi Hasuda

Ich stimme der Durchführung der Operation zu, bin mir der möglichen  
Komplikationen gemäß der Erklärung zur obigen Operation bewusst und willige in die  
in diesem Fall nötigen medizinischen Maßnahmen ein.

Datum:

Name der Patientin: \_\_\_\_\_ Siegel

**Name des/der Angehörigen** \_\_\_\_\_ **Siegel**  
**Verwandtschaftsverhältnis** \_\_\_\_\_

## ドイツでは

- ・手術など医療行為の同意は本人のみで良い。
- ・本人の同意がなければ、家族にさえ個人情報を流してはいけない。



## 内密出産:その他の課題

1. 内密出産の費用を誰が負担するのか？  
今のところ、特別養子縁組の養親にお願いする予定だが、内密出産後に実母が「自分で育てる」と翻意したら、慈恵病院の負担になる。
2. 社会の理解  
「安易な育児放棄の助長」という批判の再燃がないか？



## In Deutschland

- Zur Einwilligung in medizinische Maßnahmen wie eine Operation genügt die der betreffenden Person.
- Ohne die Zustimmung der betreffenden Person dürfen nicht einmal der Familie persönliche Informationen mitgeteilt werden.



## Die vertrauliche Geburt: weitere Probleme

### 1. Wer übernimmt die Kosten der vertraulichen Geburt?

Zum gegenwärtigen Zeitpunkt ist geplant, die Adoptiveltern der speziellen Adoption darum zu bitten. Falls jedoch nach der vertraulichen Geburt die leibliche Mutter ihre Entscheidung ändert und das Kind selbst aufziehen möchte, übernimmt das Jikei-Krankenhaus die Kosten.

### 2. gesellschaftliches Verständnis

Flammt die Kritik „Förderung leichtfertiger Kindesabgaben“ nicht wieder auf?

## 日本社会にはBaby Boxや内密出産が広まりにくい

背景にあるのは…日本では**母性神話**が信じられている

「女性は出産すれば、自然とわが子を育て愛することが喜びになるようにできている」

という母性神話が邪魔をする。

裏のメッセージは、  
「母親が育児をするのが自然であり、当然であり、最善」  
「母親のくせに」  
「ダメな母親だ…」

しかし、現実には我が子を愛せない母親からの相談が少なからずある

## 法の整備か？ 現行法の解釈か？

法整備によって内密出産制度の利用者・提供者の双方が支援を受け、守られる。

全国に同様のシステムを提供できる。  
「こうのとりのゆりかご」は天然記念物のようにってしまったが

しかし**実現のハードルが極めて高い！**

## In der japanischen Gesellschaft lassen sich Babyklappen und vertrauliche Geburt nur schwer verbreiten

Im Hintergrund steht: In Japan glaubt man an  
den **Mythos der Mutterschaft**

„Wenn eine Frau ein Kind gebärt, so wird es ganz natürlich zu  
ihrer Freude, ihr Kind aufzuziehen und zu lieben.“

... dieser Mythos der Mutterschaft wird zum Hindernis.

Die Botschaft im Hintergrund lautet:

„Die Erziehung des Kindes durch die Mutter ist natürlich,  
selbstverständlich und am Besten“

Redensarten wie „Obwohl du die Mutter bist...“,

„eine schlechte Mutter“

In der Realität jedoch kommen nicht wenige Mütter zur  
Beratung, die ihr Kind nicht lieben können.

## Schaffung eines Gesetzes oder Auslegung der bestehenden Gesetze?

Durch die Schaffung einer gesetzlichen Grundlage können sowohl  
Nutzerinnen als auch Anbieter des Systems der vertraulichen Geburt  
Unterstützung erhalten und geschützt werden.

Ähnliche Systeme können landesweit zur Verfügung gestellt werden.  
Die „Storchenwiege“ ist zu einer Art Naturdenkmal geworden...

aber

**die Hürden der Realisierung sind äußerst hoch!**

## 法律を成立させるには・・・

総議員の三分の一以上の出席のもとに、  
出席議員の過半数の賛成が必要

	衆議院	参議院
自由民主党・無所属の会 自由民主党・こころ	283	125
総数	465	242

自民党の理解と支持を得なければならない

## 「伝統的家族」を重んじる自民党

### 憲法24条

婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、  
夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、  
維持されなければならない。

**配偶者の選択**、財産権、相続、**住居の選定**、離婚並びに婚姻  
及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と  
両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

## Um ein Gesetz zustande zu bringen...

ist die Anwesenheit von mehr als einem Drittel aller Parlamentarier und die Zustimmung der Mehrheit der Anwesenden nötig.

	Unterhaus	Oberhaus
LDP, Mushozoku no Kai		
LDP, Kokoro	283	125
Gesamtzahl	465	242

Das Verständnis und die Zustimmung der LDP müssen gewonnen werden.

## LDP legt Wert auf die „traditionelle Familie“

### Verfassung Artikel 24

Die Ehe basiert **nur** auf dem gegenseitigen Einverständnis beider Geschlechter und soll durch gegenseitige Unterstützung, basierend auf den gleichen Rechten von Ehemann und Ehefrau aufrecht erhalten werden.

Bezüglich der **Wahl des Ehepartners**, Vermögensrecht, Erbfolge, der **Wahl des Wohnorts**, Scheidung und anderer Angelegenheiten von Ehe und Familie sollen Gesetze erlassen werden, basierend auf der Würde des Individuums und der wesentlichen Gleichberechtigung beider Geschlechter.

## 「伝統的家族」を重んじる自民党

自民党が提出した**憲法24条**の改正草案によれば

- ・個人ではなく**家族が尊重**される
- ・家族は、**互いに助け合わなければならない**。
- ・家族の問題は家族で解決を。**国は保護しない**。
- ・「婚姻には両性の合意だけでなく**家長の合意が必要**」  
と匂わせているような・

党内議論では、「**親子の扶養義務についても明文の規定**を置くべきである」  
との意見もあったが、それは基本的に法律事項であることや、  
「家族は互いに助け合わなければならない」という規定を置いたから、  
採用しなかった。

## 11年前の安倍総理のコメントを思い出してください

「子どもを産むからには親として**責任を持ってもらう**ことが大切で、  
そういうお子さんに対応する施設もあるし、  
**匿名**で子どもを置いていけるものを作るのには大変抵抗を感じる」

## LDP legt Wert auf die „traditionelle Familie“

von der LDP vorgelegter Reformvorschlag zum **Artikel 24 der Verfassung**

- Nicht das Individuum, sondern die **Familie** soll **hoch geachtet** werden.
- Die Familie **soll sich untereinander unterstützen**.
- Probleme der Familie werden in der Familie gelöst. **Der Staat gewährt keinen Schutz**.
- Es klingt nach „Für die Ehe ist nicht das gegenseitige Einverständnis beider Geschlechter, sondern das **Einverständnis der Familienoberhäupter notwendig**“.

In der innerparteilichen Debatte gab es auch den Standpunkt „es sollte **auch eine klare Regelung zur Unterhaltspflicht von Eltern und Kindern** festgelegt werden“. Dieser wurde aber nicht übernommen, da dies grundsätzlich ein gesetzlicher Regelungsinhalt sei und da die Regelung „die Familie soll sich untereinander unterstützen“ angenommen wurde.

## Erinnern Sie sich bitte an den Kommentar Premierminister Abes vor 11 Jahren

„Es ist wichtig, als Eltern die **Verantwortung zu übernehmen**, wenn das Kind nun einmal geboren ist. Für solche Kinder gibt es auch entsprechende Einrichtungen und es widerstrebt mir stark, einen Ort zu schaffen, an dem Kinder **anonym** abgegeben werden können.“

批判者にとって、  
ベビー・クラッペも内密出産も本質は同じ

「安易な育児放棄を助長する」  
「18歳まで出自がわからないのは可哀そう」

ただ・・  
ベビー・クラッペ、匿名出産、内密出産は  
赤ちゃんの遺棄・殺人の対策として生みだされたもの  
葛藤と妥協の産物  
100%の幸福を提供できない

批判をするのは良いが、**対案はあるのか？**  
臭いものに蓋をしているのでは？  
自分が見たくないだけでは？

日本で内密出産法を成立させるということは

「18年間は母親の匿名が許される出産」  
に対して**政府・与党がお墨付きを与える**

ということではないでしょうか？

現状の自民党では、あり得ないと思うのですが・・



## Für die Kritiker sind Babyklappe und vertrauliche Geburt letztendlich gleich

„Leichtfertige Kindesabgaben werden gefördert“  
„Die Kinder sind bedauernswert,  
da sie erst mit 18 Jahren ihre Herkunft erfahren“

### aber...

Babyklappe, anonyme Geburt und vertrauliche Geburt sind als **Maßnahmen gegen Kindesaussetzung und -tötung** entstanden, sind ein Produkt von Konflikt und Kompromiss  
100%iges Glück kann nicht gegeben werden

Zu kritisieren ist gut, aber **hat man auch einen Gegenvorschlag?**  
Wird hier nicht etwas unter den Teppich gekehrt?  
Will man hier etwas nur nicht sehen?

In Japan ein Gesetz zur vertraulichen Geburt zu schaffen bedeutet, ...

dass **die Regierung, die Regierungspartei**, „eine Geburt, bei der eine 18 Jahre lange Anonymität der Mutter toleriert wird“ **absegnet**

oder etwa nicht?

Ich glaube, mit der gegenwärtigen LDP ist dies ausgeschlossen...

## 法律を成立させるには・・

誰かが内閣を動かさなければいけない  
誰かが国会議員を動かさなければいけない

誰かが情熱を持って取り組む必要がある

大西市長？ 山縣教授？

「政府は2022年度までに児童福祉司を約2千人増員する方針も決めた」

## Um ein Gesetz zustande zu bringen...

muss jemand das Kabinett bewegen  
muss jemand die Parlamentarier auf Landesebene bewegen

Es ist notwendig, dass sich jemand mit Leidenschaft der Aufgabe annimmt.

Bürgermeister Ōnishi? Professor Yamagata?

**"Die Regierung hat beschlossen, bis 2022 ungefähr 2.000 zusätzliche  
Kinder- und Jugendsozialarbeiter einzustellen."**

特別養子縁組の法制度化も菊田医師事件がなければ実現しなかった

法の解釈が現実的な対応になることもあるのでは？

例えば、憲法9条  
「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」

明らかに現実と矛盾するが、逆に戦力を明記すれば、  
周辺国との緊張が高まり軍拡競争になるかもしれない

Hätte es die Aktivitäten des Arztes Kikuta nicht gegeben, wäre die gesetzliche Regelung der speziellen Adoption nicht verwirklicht worden.

**Könnte nicht auch eine Interpretation der bestehenden Gesetze eine realistische Möglichkeit sein?**

z.B., Verfassung Artikel 9

„Es werden keine Land-, See- und Luftstreitkräfte oder sonstige Kriegsmittel unterhalten“

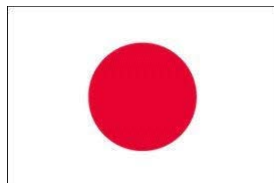
Dies ist ein offenkundiger Widerspruch zur realen Situation. Wenn man aber umgekehrt die Kriegsmittel klar darlegen würde, könnte dies zu einer Verstärkung der Spannungen mit den umliegenden Ländern und zu einem Rüstungswettlauf führen.

## 内密出産法の実現が困難なのは、自民党のせいなのか？

背景にあるのは日本社会の性格

## 日本にとってのドイツは

- ・ドイツに対して親しみを持っている日本人は少ない
- ・ドイツは日本のお手本だった(法律、軍事、医学、哲学…)
- ・ドイツに限らず、欧米の打ち出す方針に、日本は追従する傾向  
ベビークラッペや内密出産が中国、韓国、インド発のシステムだったら  
日本社会は関心を寄せなかったかもしれない

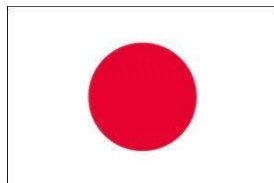


## Ist es die Schuld der LDP, dass die Realisierung eines Gesetzes zur vertraulichen Geburt schwierig ist?

Im Hintergrund steht der Charakter der japanischen Gesellschaft

## Die Bedeutung Deutschlands für Japan

- nicht wenigen Japanern ist Deutschland sympathisch
- Deutschland war ein Vorbild für Japan (Rechtswesen, Militär, Medizin, Philosophie, ...)
- Tendenz, dass Japan die in Europa und Amerika eingeschlagenen Entwicklungen (nicht nur die in Deutschland) nachahmt.  
Wären Babyklappe und vertrauliche Geburt in China, Korea oder Indien entstandene Systeme, hätte die japanische Gesellschaft ihnen vielleicht keine Aufmerksamkeit geschenkt.



## 日本とドイツが似ているのは、勤勉、真面目、几帳面

<単位：百万US\$>

順位	国名	2016年	注
1	 米国	18,569,100	
2	 中国	11,218,281	
3	 日本	4,938,644	
4	 ドイツ	3,466,639	1
5	 イギリス	2,629,188	
6	 フランス	2,463,222	
7	 インド	2,256,397	
8	 イタリア	1,850,735	
9	 ブラジル	1,798,622	
10	 カナダ	1,529,224	

## 2015年9月シリア難民のボートが転覆し、3歳の男の子が溺死



## Japan und Deutschland ähneln sich hinsichtlich der Strebsamkeit, Ernsthaftigkeit, Gewissenhaftigkeit

<単位：百万US\$>

順位	国名	2016年	注
1	米国	18,569,100	
2	中国	11,218,281	
3	日本	4,938,644	
4	ドイツ	3,466,639	1
5	イギリス	2,629,188	
6	フランス	2,463,222	
7	インド	2,256,397	
8	イタリア	1,850,735	
9	ブラジル	1,798,622	
10	カナダ	1,529,224	



Im September 2015 kenterte ein Boot mit syrischen Flüchtlingen; ein dreijähriger Junge ertrank



## 日本はドイツと同じ事ができるのか？

難民受け入れ

ドイツ:2015年100万人 2016年72万人を受け入れ  
2017年に年間20万人を上限とすることで合意

日本:2017年に19,623人が難民申請を行い、  
認定されたのは20人

## 日本はドイツと同じ事ができるのか？

ドイツでは1987年に死刑制度を廃止

## Kann Japan das Gleiche wie Deutschland?

Aufnahme von Flüchtlingen

Deutschland: 2015: Aufnahme von 1.000.000 Menschen,  
2016: Aufnahme von 720.000 Menschen  
2017: Einigung auf eine Obergrenze von  
jährlich 200.000 Menschen

Japan: 2017: Flüchtlingsanträge von 19.623  
Menschen, 20 Menschen wurden  
anerkannt

## Kann Japan das Gleiche wie Deutschland?

Abschaffung der Todesstrafe in Deutschland 1987



„Wie schwer das Verbrechen auch sein mag, **der grundsätzliche Standpunkt der deutschen Regierung, die Todesstrafe als eine unmenschliche, grausame Strafe abzulehnen**, bleibt unverändert. Daher setzt sich Deutschland auch in Zukunft mit den anderen Ländern der EU aktiv für die weltweite Abschaffung der Todesstrafe ein.“

Menschenrechtsbeauftragte der Bundesregierung  
Bärbel Kofler  
6. Juli 2018

## **In der öffentlichen Meinung Japans wird die Todesstrafe von 80% der Menschen anerkannt**

„In Japan gibt es die Kultur, durch seinen Tod zu büßen.“

Selbstentleibung: Buße durch den eigenen Tod

Blutrache: Rächen eines wichtigen Menschen



Die Deutschen haben ein großes Interesse am Thema ungeplante Schwangerschaft  
Die deutsche Babyklappe und  
die „Storchenwiege“ in Japan werden langsam vergessen, aber ...



Hans Carl von Werthern  
Deutscher Botschafter in Japan

„Japan ist Deutschlands engster Freund in Asien.  
Auch wenn in vielen Dingen eine **andere Zugangsweise**  
gewählt wird, ist Japan für uns ein zuverlässiger Freund,  
mit dem wir **Ziele und Visionen teilen.**“

## キリスト教系に多く仏教系に少ない

- ・Baby Box
- ・ホームレス支援
- ・ボランティア
- ・寄付活動
- ・児童養護施設

## 仏教は自助努力の宗教

仏教の教えとは？ ～佐々木閑 花園大学教授～

我々が生きているこの世の中というものは、本質的に苦しみばかりだ。  
生きていれば必ず年を取り、病気になり、死ぬ。  
死んだあとはまたどこかに生まれ変わって、そこでも同じような苦しみが続く。  
永遠に続く輪廻の中で、我々生き物は苦しみ続けなければならない。  
どこかに超越的な絶対者がいて救ってくれるというのなら希望も湧くが、  
そういう不可思議な存在は世界のどこにもいない。  
私たちは、誰からも助けてもらえず、永遠に苦しみの海で漂うしかないのである。



## **zahlreich im Christentum, selten im Buddhismus**

- Babyklappe
- Unterstützung für Obdachlose
- ehrenamtliche Tätigkeiten
- Spendenaktionen
- Einrichtungen zur Kinderfürsorge

## **Der Buddhismus ist eine Religion der Anstrengung und der Selbsthilfe**

### **Was ist die Lehre des Buddhismus?**

Shizuka Sasaki, Professor, Universität Hanazono

Alles in dieser Welt, in der wir leben, ist letztendlich nur Leiden.  
Wenn wir leben, altern wir notwendigerweise, werden krank und sterben.  
Nachdem wir gestorben sind werden wir irgendwo wiedergeboren, und dort setzt sich das Leiden auf gleiche Weise fort. In diesem ewigen Kreislauf der Reinkarnation müssen wir Lebewesen fortgesetzt leiden.  
Es entsteht die Hoffnung, dass irgendwo ein transzendentes absolutes Wesen ist, das uns errettet, aber eine solche mysteriöse Existenz gibt es nirgendwo auf der Welt.  
Wir werden von niemandem gerettet und müssen ewig im Meer des Leidens umhertreiben.

## 仏教は自助努力の宗教

仏教の教えとは？ ～佐々木閑 花園大学教授～

だが、そういう絶望的な状況から抜け出す方法が一つだけある。  
それは精神集中の力によって自分の心の中の悪い要素(煩悩)を  
消し去るという方法である。

我々が輪廻という苦しみ(泥沼)から逃げられないのは、煩悩があるせいだ。

真の幸福に到達するには、煩悩を消す以外に方法はない。

**「修行の力で煩悩を消す」**

それが我々にとって一番重要な、他のなにものにも代えがたい大切な活動だ。

## 日本では Baby Box・内密出産は広まりにくい

自己責任

自助努力

自業自得

因果応報

予期せぬ妊娠をした女性を助けるというより、  
責任と努力を求める空気がある

## Der Buddhismus ist eine Religion der Anstrengung und der Selbsthilfe

### Was ist die Lehre des Buddhismus?

Shizuka Sasaki, Professor, Universität Hanazono

Es gibt aber eine Methode, aus dieser verzweifelten Lage zu entkommen.  
Das ist die Methode, durch die Kraft der Geistessammlung die schlechten  
Elemente im eigenen Herzen (die Verblendungen) auszulöschen.

Wenn wir aus dem Sumpf der Leiden, dem Kreislauf von Werden und Vergehen  
nicht ausbrechen können, so liegt das an unseren Verblendungen.

Um wahres Glück zu erreichen, gibt es keine andere Methode als das Auslöschen  
der Verblendungen.

„Auslöschen der Verblendungen durch die Kraft der asketischen Übung“

Dies ist das Wichtigste für uns, etwas, das durch nichts ersetzt werden kann.

## In Japan lassen sich Babyklappen und vertrauliche Geburt nur schwer verbreiten

Eigenverantwortung

Anstrengung und Selbsthilfe

„Wie die Saat so die Ernte“

strafende Gerechtigkeit

Atmosphäre, in der einer ungeplant schwanger  
gewordenen Frau weniger geholfen, als vielmehr  
Verantwortung und Anstrengung von ihr  
gefordert wird

## キリスト教は「罪をゆるし助ける」宗教

キリスト教徒ではない私が調べてみました

姦通の罪を犯した女を石で打ち殺そうとする  
律法学者やパリサイ人に対して、  
「あなたがたの中で罪のない者が、  
まずこの女に石を投げつけるがよい」  
ヨハネによる福音書第8章2節-11節

脳血管障害で差別された者を助けるイエス  
マルコによる福音書 2章1～12節

## キリスト教は「罪をゆるし助ける」宗教

キリスト教徒ではない私が調べてみました

自分の身に降りかかる危険を顧みず、敵対関係にある  
ユダヤ人を助けるサマリア人  
ルカ福音書10章25－37節

**Das Christentum ist eine Religion der  
„Vergebung der Sünden und Hilfe“  
meine Recherche als Nicht-Christ**

Zu den Schriftgelehrten und Pharisäern, die eine  
ehebrüchige Frau steinigen wollten:

**„Wer von euch ohne Sünde ist, der werfe den  
ersten Stein auf sie.“**

Johannes 8, 2-11

Jesus heilt einen Gelähmten

Markus 2, 1-12

**Das Christentum ist eine Religion der  
„Vergebung der Sünden und Hilfe“  
meine Recherche als Nicht-Christ**

der Samariter, der ohne Rücksicht auf die eigene Gefahr einem Juden  
(eigentlich einem Feind) zu Hilfe kommt

Lukas 10, 25-37



## Das Christentum strebt nach gesellschaftlicher Gerechtigkeit Der Buddhismus strebt nach Frieden des Geistes

Das Christentum kann seine Kraft in den Bereichen soziale Gerechtigkeit, Fürsorge, Fairness, Probleme der Diskriminierung, Rettung Schwacher usw. gut zur Geltung bringen. Denn hier liegt von Beginn an das Interesse und hier werden die Probleme des Menschen und Lösungen dazu gesucht.

Der Buddhismus ist stark im Bereich der Sorgen des Geistes des Einzelnen. Dies zeigt sich auch am historischen Buddha selbst, der mit der asketischen Übung mit dem Ziel begann, seine eigenen geistigen Sorgen und Leiden loszuwerden.

## Persönlicher Standpunkt zur vertraulichen Geburt

1. Die Realisierung eines Systems der vertraulichen Geburt, das wie in Deutschland auf einem Gesetz und der Unterstützung der Verwaltung basiert, wäre ideal.
2. In Japan ist dies jedoch auch in den nächsten 10 bis 20 Jahren nicht zu realisieren.
3. In der Praxis der „Storchenwiege“ fallen die medizinisch unbegleiteten Geburten ins Auge. Die Realisierung der vertraulichen Geburt ist ein dringendes Anliegen.
4. Für Schwangere, die sich der Schwangerschaftsberatung zuwenden und die „momentan ihre Anonymität nicht aufgeben wollen und bei denen die Gefahr besteht, daher zu einer medizinisch unbegleiteten Hausgeburt zu tendieren“ möchte ich eine vertrauliche Geburt im Rahmen der bestehenden Gesetze realisieren. Zugleich möchte ich die Aktivitäten fortsetzen, eine gesetzliche Regelung und eine Unterstützung durch die Verwaltung zu realisieren.

## 予期せぬ妊娠、望まない妊娠への対応

実母が求める匿名性に応じて、全ての選択肢を提供すべきでは？

身元を明かした特別養子縁組

内密出産

匿名出産

Baby Box

## 予期せぬ妊娠、望まない妊娠への対応

最も効果的で重要なのは、相談体制の充実  
「こうのとりのゆりかご」でも内密出産でもなく・

ドイツの内密出産法 第5条

「相談は女性を勇気づけ、その理解を呼び起こすものでなければならず、教示し又は指図するものであってはならない」

日本におけるカウンセリングは、時として「指導型」「上から目線」になりがち。  
「包括的で、敷居の低く、オープンで偏見のない」カウンセリングを定着させられるか？



## Umgang mit ungeplanten und ungewollten Schwangerschaften

**Sollten angesichts der Forderung der leiblichen Mutter nach Anonymität nicht alle Handlungsoptionen angeboten werden?**

spezielle Adoption unter Offenlegung der Identität  
vertrauliche Geburt  
anonyme Geburt  
Babyklappe

## Umgang mit ungeplanten und ungewollten Schwangerschaften

**Am effektivsten und wichtigsten ist der Ausbau des Beratungssystems  
Nicht die „Storchenwiege“, nicht die vertrauliche Geburt ...**

SchKG § 5

„Die Beratung soll ermutigen und Verständnis wecken,  
nicht belehren oder bevormunden.“

Beratungen in Japan tendieren manchmal zu einer „Führung“, einer  
„Perspektive von oben nach unten“.  
Kann eine Beratung etabliert werden, die „umfassend, niedrighschwellig, offen  
und ohne Vorurteile“ ist?

**是枝監督**

「日本の社会の中で、隅に追いやられている、  
本当であれば見過ごしてしまうかもしれない家族の姿を  
どう可視化するかということは考えます。」

産んだ子どもを育てるのが当然と見られがちな日本社会において、  
当然のことができない少数の母親と子どもに手をさしのべることができるか。  
責めず叱らずに…

**Regisseur Koreeda**

„Ich denke daran, wie man die Familien sichtbar machen kann, die an den Rand der japanischen Gesellschaft gedrängt sind und eigentlich übersehen werden.“

Kann in der japanischen Gesellschaft, die dazu tendiert, es als selbstverständlich anzusehen, ein geborenes Kind selbst aufzuziehen, den wenigen Müttern, die das Selbstverständliche nicht leisten können, und ihren Kindern die Hand zur Hilfe ausgestreckt werden?

Ohne Vorwurf, ohne Rüge ...



III

# ドイツの内密出産法の 成立プロセス

匿名か内密か

2018.8.23

大阪薬科大学 阪本恭子

## 目次

1. 内密出産法とは
2. 法律策定の背景
3. 法律成立のプロセス
4. 今後の課題

# **Der Entstehungsprozess des Gesetzes zur vertraulichen Geburt**

**Anonym oder vertraulich?**

23. August 2018

Kyoko Sakamoto (Pharmazeutische Universität Ōsaka)

## **Übersicht**

- 1. Das Gesetz zur vertraulichen Geburt**
- 2. Hintergründe der Genese des Gesetzes**
- 3. Prozess der Gesetzesentstehung**
- 4. Zukünftige Handlungsbedarfe**

# 1. 内密出産法とは

## 法律の要点と制度の利用状況

3

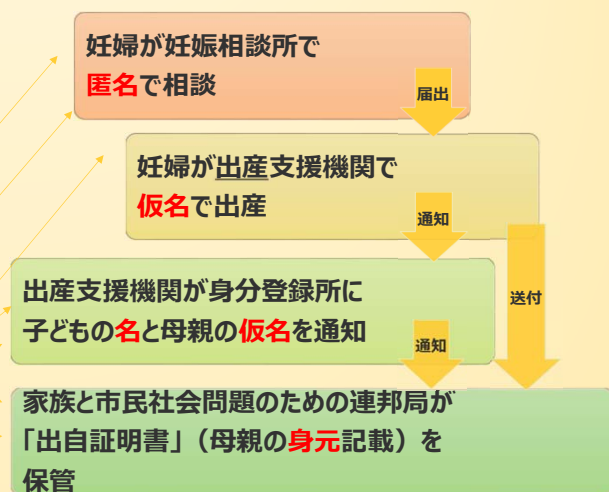
### 法律の概要

#### 【 概要 】

- ・ 「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」
- ・ 「妊娠葛藤法」を中心に関連諸法を改正
- ・ 2013年8月28日公布、2014年5月1日施行

#### 【 要点 】

- ・ 「望まない妊娠」によって困窮する女性への支援
  - ⇒ 妊娠相談の拡充
- ・ 母、父、子の利益を正しく評価するシステムの整備
  - ⇒ 関係諸機関の連携と包括的な支援
- ・ 子どもの「出自を知る権利」の保証
  - ⇒ 「出自証明書」の閲覧（可能性の確保）



4



# 1. Das Gesetz zur vertraulichen Geburt

## Kernpunkte des Gesetzes und Stand der Inanspruchnahme

3

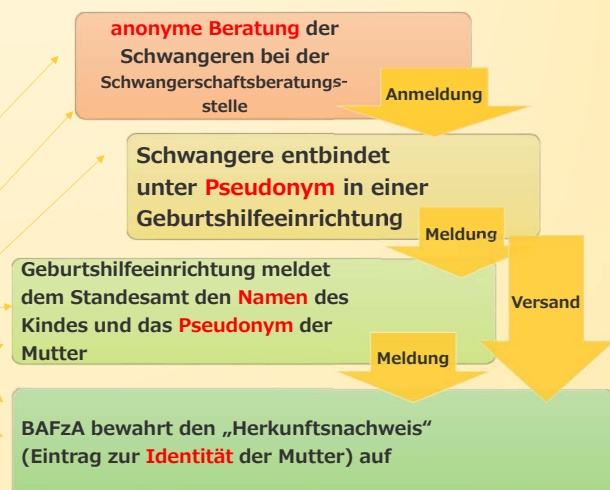
## Überblick über das Gesetz

### [ Überblick ]

- „Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt“
- Änderung der verschiedenen betroffenen Gesetze, insbesondere des SchKG
- am 28. August 2013 erlassen, am 1. Mai 2014 in Kraft getreten

### [ Kernpunkte ]

- Hilfe für Frauen, die sich aufgrund einer „ungewollten Schwangerschaft“ in einer schwierigen Lage befinden
  - ⇒ Ausbau der Schwangerschaftsberatung
- Einrichtung eines Systems, dass die Interessen der Mütter, Väter und Kinder angemessen berücksichtigt
  - ⇒ Kooperation der verschiedenen Akteure und umfassende Hilfe
- Wahrung des „Rechts auf Kenntnis der eigenen Abstammung“ auf Seiten des Kindes
  - ⇒ (Sicherstellung der Möglichkeit zur) Einsicht in den „Herkunftsnachweis“



4

## 制度の利用状況 (2014年5月1日～2016年9月31日)

- ・ 「困難な状況にいる妊婦」のためのホットライン  
⇒ 内密出産の情報提供、妊娠相談所への仲介
- ・ 妊娠一般に関する相談（第1段階）  
= 匿名の放棄または子どもと共に生きることを目指す  
⇒ 匿名を放棄しない場合、内密出産の相談（第2段階）
- ・ 第2段階の相談の結果、246人の女性が249人の子どもを内密に出産（双子含む）
- ・ その他、妊娠中絶（7.9%）、赤ちゃんポストの委託や匿名出産（4.1%）など

ホットラインの利用	11,989件（相談が成立）
内密出産の相談	1,277件
相談の結果 子どもと共に生きる	25.9%
相談の結果 内密出産を選択	19.5%（249件）
相談の結果 正規の養子縁組	15.3%

5

## 2. 法律策定の背景

### 社会の動き

6

## Nutzung der vertraulichen Geburt

(1. Mai 2014 bis 31. September 2016)

Hilfetelefon für „Schwangere in Not“

⇒ Informationen zur vertraulichen Geburt, Vermittlung an eine Schwangerschaftsberatungsstelle

• allgemeine Schwangerschaftsberatung (Stufe 1)

= zielt auf die Aufgabe der Anonymität und ein Leben mit dem Kind

⇒ wird die Anonymität nicht aufgegeben erfolgt Beratung zur vertraulichen Geburt (Stufe 2)

• Ergebnis der 2. Stufe der Beratung: 249 Kinder von 246 Müttern vertraulich geboren (einschl. Mehrlingsgeburten)

• ferner: Abtreibungen (7,9%), Abgaben in Babyklappen, anonyme Geburten (4,1%) usw.

Nutzung des Hilfetelefons	11,989 Beratungen
Beratungen zur vertraulichen Geburt	1,277 Fälle
Ergebnis der Beratung: <b>Leben mit dem Kind</b>	<b>25,9%</b>
Ergebnis der Beratung: Entscheidung für vertrauliche Geburt	19,5% (249 Fälle)
Ergebnis der Beratung: reguläre Adoptionsfreigabe	15,3%

5

## 2. Hintergründe der Genese des Gesetzes

Gesellschaftliche Entwicklung

6

## 社会の動き (1)

【 ドイツ国内の動き 】 1990年代： **「望まない妊娠」における妊娠中絶の抑止**

- ・ 刑法218条： 相談（妊娠葛藤相談）を規定 → 妊娠相談所、相談証明書
  - ・ 刑法219条： 相談の目的 → 未生の生命の保護
  - ・ 妊娠葛藤法5条： 結論を限定しない相談 → 責任と良心を伴う女性の決断を支援
- ◎ 1999年、元ローマ法王（ヨハネ・パウロ2世）がカトリック系の妊娠相談所での相談証明書の発行を禁止

【 国際的な動き 】 2000年前後： **赤ちゃんポストや匿名の委託システムの世界的拡がり**

- ・ 赤ちゃんポスト： オーストリア（2000年）、ベルギー（2000年）、スイス（2001年）、  
イタリア（バチカン市国 12世紀）など
- ・ 匿名の委託： アメリカ（1999年）
- ・ 匿名出産： フランス（1941年）

7

## 社会の動き (2)

【 赤ちゃんポスト関連の動き 】

年月	主催者	出来事
1999年 7/9月	カトリック女性福祉協会（SkF, Amberg）	「モーゼのプロジェクト」 匿名の引き渡しを受け入れる
1999年 12月	青少年支援団体シュテルニパーク （SterniPark e.V., Hamburg）	「捨てられる赤ちゃんのためのプロジェクト」 匿名の引き渡しのための緊急電話網を設置
2000年 4月	青少年支援団体シュテルニパーク （SterniPark e.V., Hamburg）	赤ちゃんポスト第1号を設置 ⇒ 普及キャンペーンを推進

- ・ 現在95の赤ちゃんポストがあり、2012年までに278人の子どもを受けいれている
  - ・ マスコミは当初、困窮者の支援は道徳的責務であるとして、赤ちゃんポストの意義を大々的に扱う
- ◎ 妊娠中絶の抑止 ⇒ 赤ちゃんポスト、匿名の委託システムによる**新生児の遺棄・嬰兒殺の防止**

8

## Gesellschaftliche Entwicklung (1)

[ Entwicklung in Deutschland ] 1990er Jahre: **Verhinderung von Abtreibungen bei „ungewollten Schwangerschaften“**

- § 218 StGB : Regelung der Beratung (Schwangerschaftskonfliktberatung) → Schwangerschaftsberatungsstellen, Beratungsschein
  - § 219 StGB : Ziel der Beratung → Schutz des ungeborenen Lebens
  - § 5 SchKG : ergebnisoffene Beratung → Unterstützung einer verantwortungsvollen und gewissenhaften Entscheidung der Frau
- © 1999: Verbot der Ausstellung von Beratungsscheinen durch katholische Schwangerschaftsberatungsstellen (Papst Johannes Paul II.)

[ internationale Entwicklung ] um 2000: **weltweite Ausbreitung von Babyklappen und Angeboten anonymer Kindesabgabe**

- Babyklappe: Österreich (2000), Belgien (2000), Schweiz (2001)  
Italien (Vatikanstaat, 12. Jh.) usw.
- Anonyme Abgabe: USA (1999)
- Anonyme Geburt: Frankreich (1941)

7

## Gesellschaftliche Entwicklung (2)

[ Entwicklungen im Zusammenhang mit der Babyklappe ]

Zeitpunkt	Institution	Ereignis
Juli/ September 1999	Sozialdienst katholischer Frauen (SKF) Amberg	„Moses-Projekt“ anonyme Arm-zu-Arm-Übergabe
Dezember 1999	SterniPark e.V. Hamburg (freier Träger der Jugendhilfe)	„Projekt Findelbaby“ Einrichtung eines Notruftelefonnetzes zur anonymen Übergabe
April 2000	SterniPark e.V. Hamburg (freier Träger der Jugendhilfe)	Einrichtung der ersten Babyklappe ⇒ Kampagne zur Verbreitung

- gegenwärtig 95 Babyklappen, bis 2012 Abgabe von 278 Kindern
  - anfänglich ausgiebige Medienberichterstattung über die Bedeutsamkeit der Babyklappe hinsichtlich der moralischen Pflicht, Menschen in Not zu helfen
- © Vermeidung von Abtreibungen ⇒ **Verhütung von Kindsaussetzungen und -tötungen** durch Babyklappen und Angebote anonymer Kindesabgabe

8

# 3. 法律成立のプロセス

## 議論のテーマとポイント

9

## 議論のテーマ (1)

【 草案 1 】 2000年10月： **匿名出産の合法化** [BT-Drs.14/4425, CDU/CSUの議員連盟]

- ・ 身分登録法の改正：出産の通知期限の延長（届出から1週以内→認可された妊娠相談所では10週以内）
- ・ 「モーゼのプロジェクト」の合法化を目指す国会議員やシュテルニパークの働きかけ
- ◎ 不成立となるが、**匿名出産の法規制は今後の課題**とされる

【 草案 2 】 2002年4月： **匿名出産と匿名の委託の法的根拠づくり**

[BT-Drs.14/8856, CDU/CSU, SPD, Bündnis 90/Die Grünen, FDP]

- ・ 身分登録法、国籍法、民法、養子縁組の手続きなどの改正
- ・ 子どもの国籍の扱い
- ・ 2002年5月に可決の予定であったが、**課題（子どもの出自を知る権利、妊婦の相談体制、運営者の記録義務の不備）**が残る

10

# 3. Prozess der Gesetzesentstehung

## Themen und wesentliche Punkte der Debatte

9

## Themen der Debatte (1)

[ Gesetzesentwurf 1 ] Oktober 2000: **Legalisierung der vertraulichen Geburt** [BT-Drs.14/4425, Fraktion der CDU/CSU]

- Änderung des PStG: Ausdehnung der Meldefrist von Geburten (Meldung innerhalb einer Woche → zehn Wochen für anerkannte Schwangerschaftsberatungsstellen)

- Ziel einer Legalisierung des „Moses-Projekts“ durch Parlamentarier, sowie Einflussnahme durch SterniPark e.V.

- ⊙ das Gesetz kam nicht zustande, der **Handlungsbedarf zur rechtlichen Regelung der anonymen Geburt** wurde aber anerkannt

[ Gesetzesentwurf 2 ] April 2002: **Schaffung einer gesetzlichen Grundlage für anonyme Geburten und anonyme Abgaben** [BT-Drs.14/8856, CDU/CSU, SPD, Bündnis 90/Die Grünen, FDP]

- Änderung des PStG, StAG, BGB sowie des Adoptionsverfahrens

- Regelung bezüglich der Staatsangehörigkeit der Kinder

- Gesetzesentwurf sollte im Mai 2002 verabschiedet werden; **es bleibt Handlungsbedarf bestehen (das Recht der Kinder auf Kenntnis der eigenen Abstammung, das System der Schwangerschaftsberatung, die fehlende Dokumentationspflicht der Anbieter)**

10

## 議論のテーマ (2)

【 連邦議会の専門家公聴会 】 2001年5月： **内密出産が話題に**

【 ドイツ公的・私的福祉協会の文書 】 2003年8月： **匿名出産から内密出産に議論のテーマが転換**  
「心理社会的に困窮する女性のための社会的介入としての内密出産」

- ・ 現行の内密出産の原案（枠組み、手続きなど）を具体的に提示
- ・ アクセスしやすい**内密の相談**によって、匿名の対象や期間などを話しあう
- ・ 赤ちゃんポストや匿名出産を、子どもの遺棄・殺害の防止策とすることには懐疑的
- ・ 行政規則（養子縁組の手続きなど）の違法性が指摘される
- ・ 2004年9月、内密出産の草案化が試みられるが、出産相談法の導入をめぐる議論は中断

11

## 議論のポイント (1)

【 ドイツ倫理審議会 】 「赤ちゃんポストおよび匿名出産に関するドイツ倫理審議会の見解（2009年）」

- ・ 匿名を望む女性の困窮は限定的で、子どもの出自を知る権利を阻害するものではない
- ・ 赤ちゃんポストや匿名出産の廃止を求める（反対意見あり）
- ・ 合法的な支援の情報提供の強化と養子縁組の促進
- ◎ 「**一時的な匿名届を伴う内密の子どもの委託**」としての内密出産を代替案として支持（ただし不可欠ではない）

【 ドイツ青少年研究所 】 「ドイツ青少年研究所の匿名出産および赤ちゃんポストに関する調査（2011年）」

- ・ 実証的な調査報告書
- ・ 赤ちゃんポストや匿名出産に代わって、内密出産に向けての議論が活発化
- ・ 困窮した女性が利用しやすい支援の拡充と広報
- ・ **匿名の子どもの委託システムの法的規制**

12



## Themen der Debatte (2)

[ Sachverständigenanhörung im Bundestag ] Mai 2001: **vertrauliche Geburt wird thematisiert**

[ Eckpunktepapier des Deutschen Vereins für öffentliche und private Fürsorge ] August 2003: Umschwenken der Debatte **von der anonymen Geburt zur vertraulichen Geburt**

„Vertrauliche Geburt als gesellschaftlicher Eingriff für Frauen in psychosozialen Notlagen“

- konkrete Vorlage für die heutige vertraulichen Geburt (Rahmen, Verfahren usw.)
- Diskussion von Gegenstand und Dauer der Anonymität durch eine leicht zugängliche **vertrauliche Beratung**
- Skepsis hinsichtlich Babyklappe und anonymer Geburt als Maßnahmen zur Verhütung von Kindesaussetzungen und -tötungen
- Gesetzeswidrigkeit von Verwaltungsvorschriften (Adoptionsverfahren usw.) wird aufgezeigt
- Versuch zur gesetzlichen Regelung der vertraulichen Geburt (September 2004), jedoch Abbruch der Diskussion um die Einführung eines Geburtsberatungsgesetzes

11

## wesentliche Punkte der Debatte (1)

[ Deutscher Ethikrat ] *Das Problem der anonymen Kindesabgabe - Stellungnahme* (2009)

• Notlagen von Frauen mit Anonymitätswunsch sind beschränkt und behindern nicht das Recht des Kindes auf Kenntnis seiner Abstammung

• Forderung nach Abschaffung von Babyklappen und anonymer Geburt (aber: Minderheitsvotum)

• Stärkung der Informationsweitergabe zu legalen Hilfen und Förderung der Adoption

© Alternativvorschlag einer „**vertraulichen Kindesabgabe mit vorübergehend anonymer Meldung**“ (jedoch nicht unbedingt nötig)

[ Deutsches Jugendinstitut ] Studie des Deutschen Jugendinstituts *Anonyme Geburt und Babyklappen in Deutschland* (2011)

• empirische Untersuchung

• Verdichtung der Diskussion um die vertrauliche Geburt als Alternative zu Babyklappe und anonymer Geburt

• Ausbau der leicht zugänglichen Hilfen für Frauen in Not, Öffentlichkeitsarbeit

• **gesetzliche Regelung der Angebote anonymer Kindesabgabe**

12

## 議論のポイント（2）

### 【子ども】

- ・ 生命の尊重
- ・ 出自を知ること

⇒ 安全な出産を通じて生命を守られた後は、**出自に依拠しない自己**を確立する

### 【女性】

- ・ 匿名
- ・ 内密

⇒ 限定的（いつまでか）かつ選択的（誰に対してか）な**自分自身の匿名性**を省みる

### 【支援者】

- ・ 知り、伝える

⇒ 困窮者の現状を多様な見地から知り、伝えることで「**あれも、これも**」を試みる

13

## 4. 今後の課題

ドイツの課題、日本の課題

14

## wesentliche Punkte der Debatte (2)

### [Kinder]

- Achtung vor dem Leben
- Kenntnis der eigenen Abstammung

⇒ Bildung eines **von der Abstammung unabhängigen Selbst**, nachdem das Leben durch eine sichere Geburt gerettet wurde

### [Frauen]

- Anonymität
- Vertraulichkeit

⇒ Reflexion der zeitlichen Einschränkung (bis wann) und der Selektivität (wem gegenüber) **der eigenen Anonymität**

### [Unterstützer]

- wissen, weitergeben

⇒ die Situation der Hilfsbedürftigen unter vielschichtigen Gesichtspunkten erkennen und bei der Informationsweitergabe „**dies und das**“ versuchen

13

## 4. Zukünftige Handlungsbedarfe

### Handlungsbedarfe in Deutschland und Japan

14

## ドイツの課題

- ・ 内密出産制度の改善に向けた議論の継続
- ・ 相談状況の定期的な検証
- ・ (早ければ2030年に) 子どもの閲覧権に対処する際のシナリオづくり
- ・ 初等教育における啓蒙

15

## 日本の課題

- ・ 妊娠・出産に関わる広範な相談体制の確保
- ・ 新生児の遺棄・殺害、児童虐待に対する社会的取り組みのための教育
- ・ 望まない妊娠（予期しなかった妊娠）で困窮する女性に関する合意形成
- ・ 望まない妊娠を、予期する妊娠（出産を待ち望む妊娠）に転換させるような養子縁組の普及に関する医療、福祉、行政の連携

16

## Handlungsbedarfe in Deutschland

- Fortsetzung der Debatte um die Verbesserung des Systems der vertraulichen Geburt
- regelmäßige Überprüfung der Situation der Beratungen
- (frühestens 2030) Entwicklung von Szenarien für den Umgang mit dem Einsichtsrecht der Kinder
- Aufklärung in der Primärerziehung

15

## Handlungsbedarfe in Japan

- Sicherstellung eines umfassenden Beratungssystems zu Schwangerschaft und Geburt
- Erziehung zum gesellschaftlichen Engagement gegen Aussetzung und Tötung von Neugeborenen sowie Kindesmisshandlung
- Schaffung eines Konsenses bezüglich Frauen, die sich aufgrund einer ungewollten (unvorhergesehenen) Schwangerschaft in einer Notsituation befinden
- Kooperation von Medizin, Sozialwesen und Verwaltung zur Verbreitung von Adoptionen, bei denen eine ungewollte Schwangerschaft zu einer erwarteten (die Geburt herbeisehnenden) Schwangerschaft wird

16

## 主要参照文献

- ・ Evaluation zu den Auswirkungen aller Maßnahmen und Hilfsangebote, die auf Grund des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt ergriffen wurden. [<https://www.bmfsfj.de/blob/jump/117408/evaluation-hilfsangebote-vertrauliche-geburt-data.pdf>]
- ・ Will, Anne-Kathrin (2017) : Vertrauliche Geburt in Deutschland – die Genese des Gesetzes. In: Eltern (vorerst) unbekannt; anonyme und vertrauliche Geburt in Deutschland. Ulrike Busch, Claudia Krell, Anne-Kathrin Will (Hrsg.), Weinheim Basel, Beltz Verlag. S.46-68.
- ・ バウアー,トビアス (2013) : Angebote anonymer Kindesabgabe aus der Perspektive des Konzepts “statistischer Leben” : Versuch einer Strukturierung der gegenwärtigen Debatte im Anschluss an die Stellungnahme des Deutschen Ethikrates 2009. 『文学部論叢 104』 熊本大学. pp.61-80. [<http://hdl.handle.net/2298/27485>]
- ・ バウアー,トビアスほか訳 (2014) : 「ドイツにおける『赤ちゃんポスト』・『匿名出産』に関する資料集」. [<http://hdl.handle.net/2298/30341>]
- ・ バウアー,トビアス訳 (2017) : 「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援の効果に関する評価調査（抄訳1）」. [<http://hdl.handle.net/2298/38464>]
- ・ 阪本恭子訳 (2017) : 「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援に関する評価調査（抄訳2）」. [<http://hdl.handle.net/2298/38843>]

## Quellen und Literatur

- Evaluation zu den Auswirkungen aller Maßnahmen und Hilfsangebote, die auf Grund des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt ergriffen wurden. [<https://www.bmfsfj.de/blob/jump/117408/evaluation-hilfsangebote-vertrauliche-geburt-data.pdf>]
- Will, Anne-Kathrin (2017) : Vertrauliche Geburt in Deutschland – die Genese des Gesetzes. In: Eltern (vorerst) unbekannt; anonyme und vertrauliche Geburt in Deutschland. Ulrike Busch, Claudia Krell, Anne-Kathrin Will (Hrsg.), Weinheim Basel, Beltz Verlag. S.46-68.
- バウアー,トビアス (2013) : Angebote anonymer Kindesabgabe aus der Perspektive des Konzepts “statistischer Leben” : Versuch einer Strukturierung der gegenwärtigen Debatte im Anschluss an die Stellungnahme des Deutschen Ethikrates 2009. 『文学部論叢 104』 熊本大学. pp.61-80. [<http://hdl.handle.net/2298/27485>]
- バウアー,トビアスほか訳 (2014) : 「ドイツにおける『赤ちゃんポスト』・『匿名出産』に関する資料集」. [<http://hdl.handle.net/2298/30341>]
- バウアー,トビアス訳 (2017) : 「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援の効果に関する評価調査（抄訳1）」. [<http://hdl.handle.net/2298/38464>]
- 阪本恭子訳 (2017) : 「妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律」に基づいて実施した全ての取り組みと支援に関する評価調査（抄訳2）」. [<http://hdl.handle.net/2298/38843>]

# 匿名による子どもの委託の諸制度の問題

## — 歴史的視点からの一考察 —

トビアス・バウアー  
熊本大学大学院人文社会科学部  
bauer@kumamoto-u.ac.jp

国際シンポジウム「ドイツの内密出産制度に学ぶ」  
2018年8月23日 熊本大学

# 匿名による子どもの委託の諸制度の問題

## — 歴史的視点からの一考察 —

- 学際的なテーマとしての「匿名による子どもの委託」
- 歴史的視点の意義
- 歴史にみられる「捨て子」という現象、嬰兒殺し、それに関わる法的枠組み、社会事情、宗教の役割、救済の取り組み等 → 現在の状況と議論の位置付けに役に立つ？ 議論の仕方に類似性がある？ 歴史は繰り返す？
- 匿名による子どもの委託の措置の「需要喚起」という現象を一例として
  - 現在ドイツの赤ちゃんポスト議論にみられる「需要喚起」批判
  - 18・19世紀ヨーロッパの赤ちゃんポストの「需要喚起」現象
  - ドイツの内密出産制度における「需要喚起」



# Die Problematik aktueller Formen anonymer Kindesabgabe aus historischer Perspektive

Tobias Bauer  
Universität Kumamoto  
bauer@kumamoto-u.ac.jp

Symposium „Das System der vertraulichen Geburt in Deutschland“  
23. August 2018 Universität Kumamoto

## Die Problematik aktueller Formen anonymer Kindesabgabe aus historischer Perspektive

- „Anonyme Kindesabgabe“ als multidisziplinäres Forschungsfeld
- Relevanz der historischen Perspektive
- Phänomen der „Findelkinder“, Kindstötung, rechtliche und gesellschaftliche Rahmenbedingungen, Rolle der Religion, Hilfsmaßnahmen usw. aus historischer Perspektive → Erkenntnisse zur Einordnung der gegenwärtigen Situation und Debatte? Parallelen in der Diskussion? Wiederholt sich die Geschichte?
- am Beispiel des Phänomens der Bedarfsweckung anonymer Formen der Kindesabgabe
- → Kritik der Bedarfsweckung in der gegenwärtigen Debatte um Babyklappen → Phänomen der Bedarfsweckung bei den Babyklappen im Europa des 18./19. Jhs. → Bedarfsweckung bei dem System der vertraulichen Geburt

2

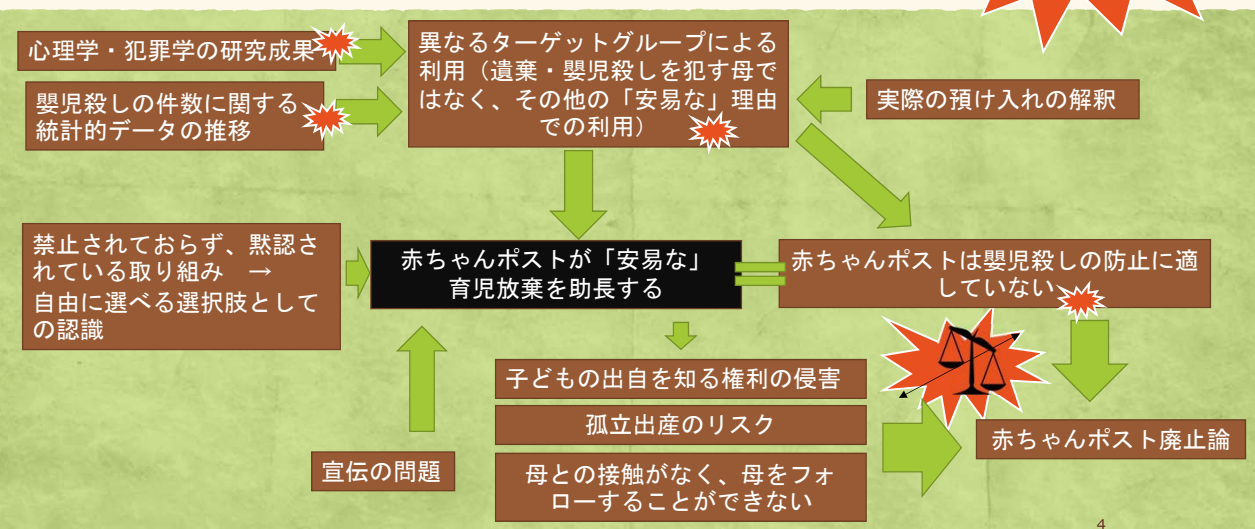
# I.

## 現在ドイツの赤ちゃんポスト議論における「需要喚起」批判

3

### 現在ドイツの赤ちゃんポスト議論にみられる「需要喚起」批判の論拠パターン

赤ちゃんポスト支持者の反論



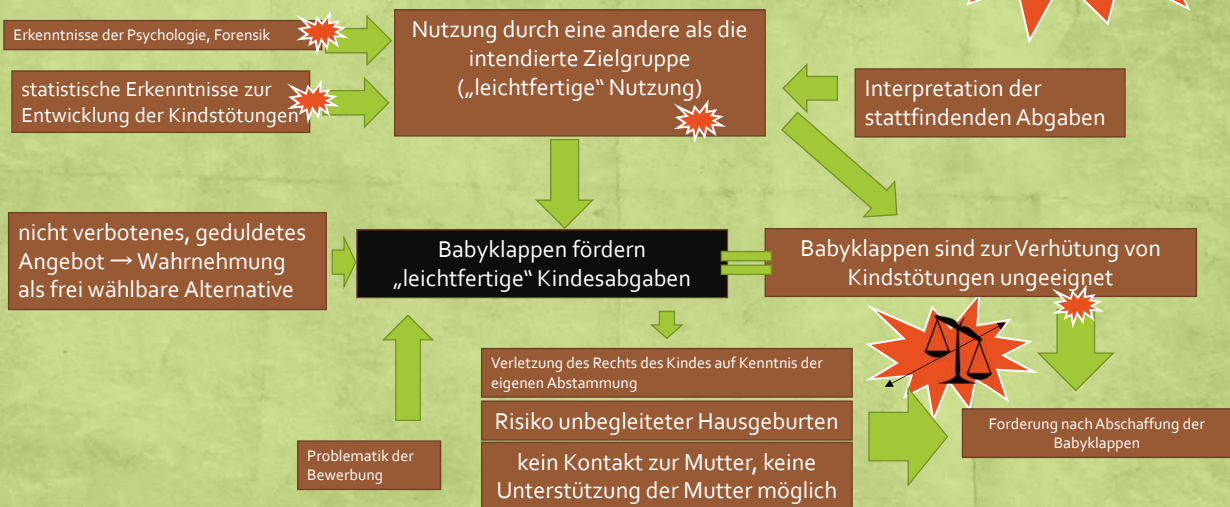
4

# I .

## Kritik der Bedarfsweckung in der gegenwärtigen Debatte um Babyklappen in Deutschland

3

### Kritik der Bedarfsweckung in der gegenwärtigen Debatte um Babyklappen - Argumentationsmuster



4

## 現在ドイツの赤ちゃんポスト議論における 「需要喚起」批判の位置付け

- 「需要喚起」の批判に基づく論拠は現在の議論の中で核心的なものであり、影響力が強い
- 赤ちゃんポスト議論の始まり当初（2000年～）から「需要喚起」が批判されている
- ドイツ倫理審議会の見解（2009年）等にも読み取ることができる

5

## II.

### 18・19世紀ヨーロッパにおける赤ちゃんポスト にみられる「需要喚起」

6

## Stellung des Arguments der Bedarfsweckung in der gegenwärtigen Babyklappen-Debatte

- Argumentation auf Basis einer „Bedarfsweckung“ als zentrales, einflussreiches Element der Debatte
- seit Beginn der Babyklappendebatte (seit 2000) vorgebracht
- auch in der Stellungnahme des Deutschen Ethikrats (2009) und anderen Schlüsseltexten wirksam

5

I I .

Phänomen der Bedarfsweckung bei den  
Babyklappen im Europa des 18./19. Jhs.

6

## 18・19世紀ヨーロッパにおける捨て子問題

- 歴史的背景：キリスト教の広がり → 教会による子どもの匿名委託の制度化 → 貧困による捨て子問題の激化 → 子どもの匿名委託の社会を安定化させる役割 → 制度の改善⇔利用増加 → 「需要喚起」議論 → 捨て子院あるいは赤ちゃんポストを廃止
- 18世紀後半～19世紀後半「捨て子の長い1世紀」(Hunecke, Volker (1987): Die Findelkinder von Mailand. Stuttgart)
- 背景にある社会的な事情：人口増加、貧困、商業と都市の発達、召使い・女中の増加等（例えば、地方の平凡な家から女中として都市に出て来た若い女性が、雇い主に望まぬ妊娠をさせられて、妊娠を隠して、密かに子どもを手放すしかないという状況等）

7

## ハンブルクの赤ちゃんポスト第1号（1709年～1714年）

- 18世紀の初め：貿易による富のある都市、社会問題としての下の層の貧困、社会的格差
- 嬰兒殺し、遺棄（他人のドアの前への遺棄等）が相次ぐ
- 商人で金持ちのハンブルク市民Jost von Overbeckが私財で50,000マルクを寄付し、市政府の承認を得て、嬰兒殺し防止の目的でハンブルク孤児院に回転台を設置

8

## Problematik der Findelkinder im 18./19. Jh.

- historischer Hintergrund: Ausbreitung des Christentums →  
Institutionalisierung der anonymen Kindesabgabe durch die Kirchen  
→ Verschärfung des Findelkindproblems durch Armut →  
gesellschaftsstabilisierende Funktion der anonymen Kindesabgabe →  
Verbesserung der Angebote ⇔ Zunahme der Nutzung →  
Diskussion um das Phänomen der Bedarfsweckung → Abschaffung  
der Babyklappen bzw. Findelhäuser
- das „lange Jahrhundert der Findelkinder“, 2. Hälfte des 18. Jhs. bis 2.  
Hälfte des 19. Jhs. (Hunecke, Volker (1987): Die Findelkinder von Mailand. Stuttgart)
- gesellschaftliche Rahmenbedingungen: Bevölkerungswachstum,  
Armut, Entwicklung der Städte und der Wirtschaft, Zunahme des  
Dienstbotenwesens, der Mobilität usw.

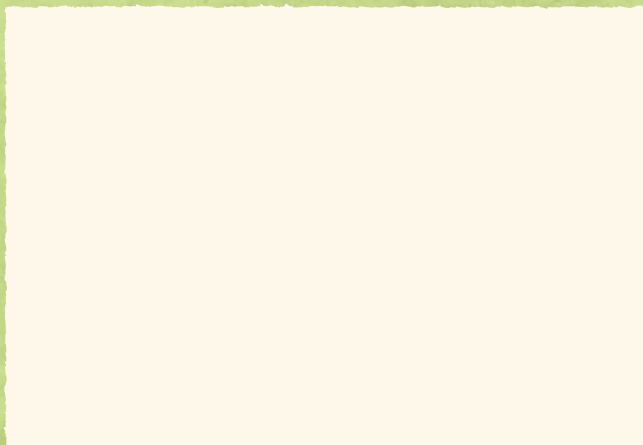
7

## Hamburgs erste Babyklappe (1709-1714)

- zu Beginn des 18. Jhs.: Hamburg als durch den Handel  
reiche Stadt, soziales Problem der Armut der unteren  
Schichten
- Häufung von Kindstötungen und -aussetzungen
- Jost von Overbeck (Hamburger Bürger und wohlhabender  
Kaufmann) spendet 50,000 Mark um mit Zustimmung des  
Rates am Hamburger Waisenhaus eine Drehlade  
einzurichten; Ziel: Verhütung von Kindstötungen

8

## ハンブルク旧孤児院



出典 : Puff, Helmut (1991): "Von der Gutthaetigkeit" und ihrem "staercksten Bewegungs-Grund". Jobst von Overbeck (1663-1726) am Hamburger Hiobshospital. In: Zeitschrift des Vereins für Hamburgische Geschichte 77, S. 2  
9

## ハンブルクの赤ちゃんポスト第1号の銘文

自らの赤ん坊をモレクの怒りに委ねるがごとく  
母の暴虐な手により度々犯される  
嬰兒殺しがこれから犯されないように  
この回転台をここに永遠に置く

西暦1709年

出典 : von Melle, Werner (1883):  
"Die Entwicklung des öffentlichen  
Armenwesens in Hamburg",  
Hamburg, S. 28

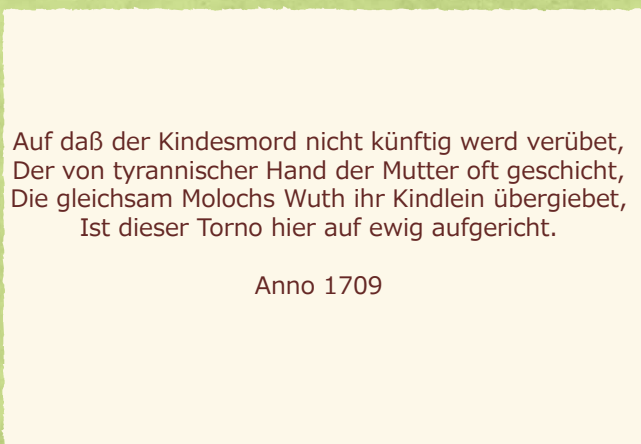


## das alte Hamburger Waisenhaus



Quelle: Puff, Helmut (1991): "Von der Gutthaetigkeit" und ihrem "staercksten Bewegungs-Grund". Jobst von Overbeck (1663-1726) am Hamburger Hiobshospital. In: Zeitschrift des Vereins für Hamburgische Geschichte 77, S. 2  
9

## Hamburgs erste Babyklappe (1709-1714)



Auf daß der Kindesmord nicht künftig werd verübet,  
Der von tyrannischer Hand der Mutter oft geschicht,  
Die gleichsam Molochs Wuth ihr Kindlein übergiebet,  
Ist dieser Torno hier auf ewig aufgericht.

Anno 1709

Quelle : von Melle, Werner (1883):  
Die Entwicklung des öffentlichen  
Armenwesens in Hamburg,  
Hamburg 1883, S. 28

10

## ハンブルクの赤ちゃんポスト第1号（1709年～1714年）

- 教会のミサでの積極的な宣伝
- 数多くの利用、ハンブルク市以外の遠方からの預け入れ、また新生児でない子どもの預け入れが多発
- 対策として、運営開始2ヶ月後に回転台の前に鉄棒を追加設置、預け入れ口を狭くする
- 市門で乳幼児の市内への連れ込み禁止の検討
- 1710年4月に200人の預け入れを超える、孤児院の多大な経済的な負担
- 8月に市政府が条令を発表する（乱用（新生児以外の預け入れ、ハンブルク市外からの預け入れ）の厳禁）が、効果がない
- 1714年10月、想定外の利用による孤児院の運営上および財政上の過度の負担 → 回転台を廃止
- 廃止後も、孤児院の近辺に遺棄が続く
- 1788年にハンブルク救貧院が設立され、背景にある貧困の問題解決に取りかかる

11

## トリーアの回転台（1813年1月～7月）

- 以前：年に1～2人の捨て子
- フランスの領域内の都市として、指令により1813年1月に福祉施設に回転台を設置
- 7か月間に16人の預け入れ
- 数人は1歳、1人は2歳以上、そのうち、母親が判明し子どもを返したケースもある（両親不明の場合のみ捨て子として受け入れ可のため）
- 市外から出産のためにトリーアに来て、子どもを預け去ったケースもあることが判明
- 福祉施設の負担が大きいため、市外の人に来ないように、その違法性を周知
- トリーア、マインツ、カッセル等、赤ちゃんポスト（回転台）の設置前までは大きな捨て子問題はなかったようだが、回転台設置後に捨て子が急増（例えばマインツ：1798～1810…28件、回転台の設置後1813年…178件）、廃止後に捨て子が再び急減

出典：Hunecke, Volker (1987): Die Findelkinder von Mailand. Stuttgart; Huberti, Irmgard (1935): Das Armenwesen in der Stadt Trier. Berlin.

12

## Hamburgs erste Babyklappe (1709-1714)

- aktive Bekanntmachung während der Messe
- hohe Nutzungszahl, Abgaben auch von außerhalb Hamburgs, zahlreiche Abgaben von älteren Kindern
- Als Gegenmaßnahme wurde der Einlass durch die Anbringung zweier Eisenstangen verkleinert.
- Überlegungen zu einem Verbot des Mitbringens von Kleinkindern in die Stadt Hamburg
- im April 1710 bereits über 200 Abgaben; hohe finanzielle Belastung des Waisenhauses
- August: Bekanntmachung des Rates mit Verbot der missbräuchlichen Nutzung (=Abgabe von nicht-neugeborenen Kindern, Abgabe von auswärtigen Kindern), jedoch keine große Wirkung
- Oktober 1714: aufgrund der unerwartet hohen Nutzungszahlen und der außerordentlichen finanziellen Belastung des Waisenhauses → Abschaffung der Drehlade
- in der Folgezeit fortgesetzt Aussetzungen im Umkreis des Waisenhauses
- 1788 Einrichtung einer Armenanstalt in Hamburg, Inangriffnahme eines der den Abgaben zugrundeliegenden Probleme

11

## Drehlade in Trier (Januar - Juli 1813)

- zuvor: jährlich 1-2 Findelkinder
- Als Stadt unter französischer Herrschaft wurde per Dekret im Januar 1813 an einer Fürsorgeanstalt eine Drehlade eingerichtet.
- innerhalb der 7 Monate des Bestehens 16 Abgaben
- darunter mehrere über 1 bzw. 2 Jahre alte Kinder; in einigen Fällen konnte die Mutter ermittelt werden (nur Kinder unbekannter Eltern wurden aufgenommen)
- Fälle von Frauen, die zur Entbindung nach Trier reisten und ihr Kind in der Drehlade zurückließen
- hohe Belastung der Fürsorgeanstalt → Hinweis auf die Ungesetzlichkeit „auswärtiger“ Abgaben
- In Städten wie Trier, Mainz, Kassel usw. die bisher kein Findelkindproblem hatten, nahm die Zahl der Findelkinder mit Einrichtung der Drehladen sehr stark zu (z.B. Mainz: 1798-1810 28 Findelkinder, nach der Einrichtung der Drehlade 1813: 178 Abgaben); nach der Abschaffung der Drehladen wieder starker Rückgang der Findelkinderzahlen

Quellen: Hunecke, Volker (1987): Die Findelkinder von Mailand. Stuttgart;  
Huberti, Irmgard (1935): Das Armenwesen in der Stadt Trier. Berlin.

12

## 18・19世紀ヨーロッパにおける赤ちゃんポストの「需要喚起」 — 感想

- 18・19世紀のこの例からは、当時の赤ちゃんポストは「需要を喚起した」という印象が強い
- 地域による件数の著しい差と変動は何らかの社会問題の差異によるものではなく、赤ちゃんポストの有無と具体的な預け入れ制度や運営の仕方に明らかに左右されていた (Kertzer, David I. (1991): Gender Ideology and Infant Abandonment in Nineteenth-Century Italy. In: The Journal of Interdisciplinary History 22 (1), S. 15)
- 当時の赤ちゃんポストが嬰兒殺しの防止となっていたかは判断できないが、預け入れの背景にある問題の解決にはなっていない
- 利用件数の多さは「安易な」育児放棄というより、貧困や当時の社会的、法的事情の現れである
- 匿名性をめぐる議論 → 支持者：嬰兒殺しを防ぐ機能を果たすために必要  
→ 批判者：赤ちゃんポスト悪用防止のために匿名性をやめるべき

13

### III.

## ドイツの内密出産制度における「需要喚起」

14

## Phänomen der Bedarfsweckung bei den Babyklappen im Europa des 18./19. Jhs. — Beobachtungen

- Die obigen Beispiele vermitteln den Eindruck, dass die damaligen Babyklappen bedarfsweckenden Charakter hatten.
- Die regional stark unterschiedlichen Zahlen von Findelkindern scheinen weniger auf soziale als vielmehr auf institutionelle Unterschiede zurückzuführen zu sein (Angebot einer Drehlade, Bewerbung, Beschränkungen der Abgabe usw.) (Kertzer, David I. (1991): Gender Ideology and Infant Abandonment in Nineteenth-Century Italy. In: The Journal of Interdisciplinary History 22 (1), S. 15)
- Ob die damaligen Babyklappen Kindsmorde verhüten konnten, kann hier nicht beurteilt werden; die zugrundeliegenden gesellschaftlichen Probleme konnten sie wohl nicht beheben
- Die hohen Aussetzungszahlen sind weniger als „leichtfertige“ Abgaben zu interpretieren als vielmehr als Ausdruck der damaligen sozialen Rahmenbedingungen wie etwa Armut, rechtliche Bestimmungen usw.
- Diskussion um die Notwendigkeit von Anonymität: → für die Befürworter der Einrichtungen notwendige Voraussetzung zur Verhütung von Kindstötungen → für die Kritiker der Einrichtungen Grund für die missbräuchlichen Nutzungen

13

### I I I .

## Bedarfsweckung bei dem System der vertraulichen Geburt

14

## 内密出産制度の利用件数

	1年間の内密出産の総件数	内密出産後に身元を明かした件数	内密性を維持した内密出産の件数	データの出典
2013年3月時点の想定（内密出産法の草案付随の立法理由）	50	20	30	Bundesrat（編）『Entwurf eines Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt』、BR-Drs. 214/13（2013）、15頁
2017年7月時点の推計（内密出産法に関する評価調査）	106,5	9	97,5	BMFSFJ（編）『Evaluation zu den Auswirkungen aller Maßnahmen und Hilfsangebote, die auf Grund des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt ergriffen wurden』（2017）、91頁

15

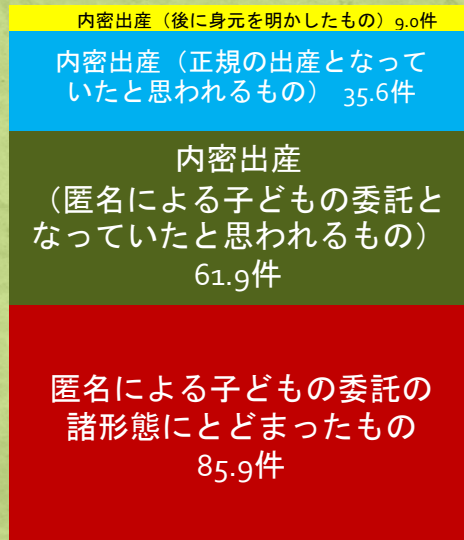
## 内密出産法の量的効果の推測（2017年 評価調査報告書による）

### 内密出産の視点からの%

追加的に内密出産となった割合 36.5%  
 法が意図した内密出産の割合 63.5%

内密出産を維持したもの 100%  
 （97.5件）

### 12か月で推計したケースの絶対数



### 匿名による子どもの委託の諸形態の視点からの%

期待値に対する割合 41.9%

届かなかった、または内密出産に導けなかった対象者の割合 58.1%

法がない場合の期待値 100%  
 （147.8件）

出典：BMFSFJ（編）『Evaluation zu den Auswirkungen aller Maßnahmen und Hilfsangebote, die auf Grund des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt ergriffen wurden』（2017）、91頁  
 翻訳：床谷文雄（訳）、『ドイツ連邦家族省（編）「〈妊婦支援の拡大と内密出産の規定のための法律〉に基づいて実施した全ての取り組みと支援の効果に関する評価調査」：抄訳④』、未公開

16

## Fallzahlen vertrauliche Geburt

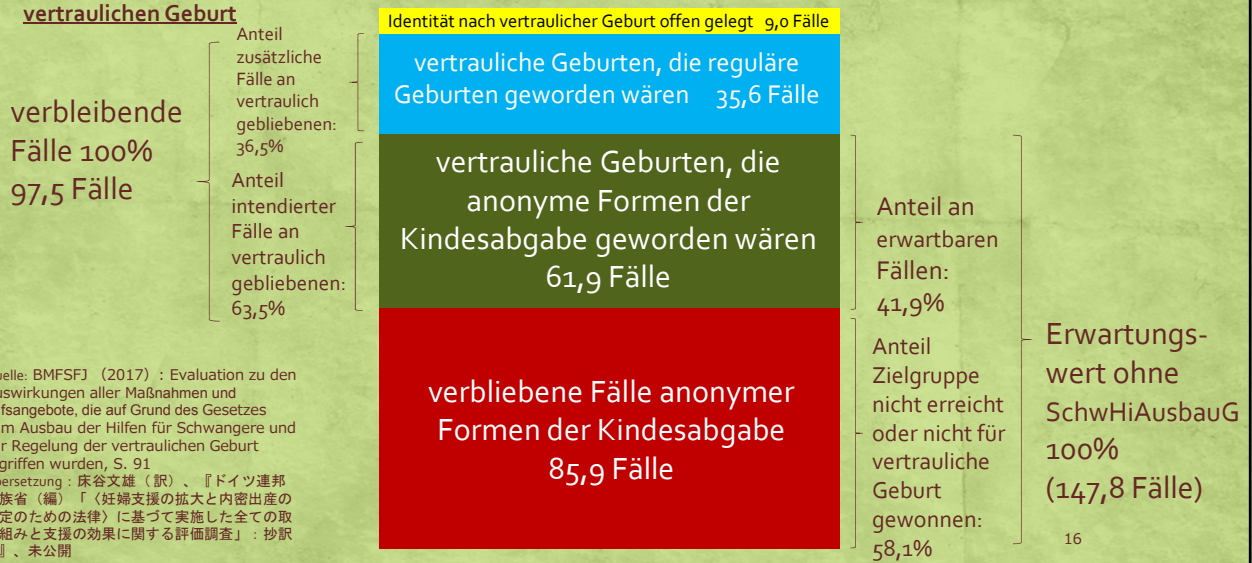
	Fallzahlen vertrauliche Geburt pro Jahr	Offenlegung der Identität nach der Geburt	verbleibende Fälle	Quelle
Schätzung vom März 2013 (Gesetzesfolgenabschätzung)	50	20	30	Bundesrat (2013): Entwurf eines Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt, BR-Drs. 214/13, S. 15
Hochrechnung Stand Juli 2017 (Evaluationsbericht)	106,5	9	97,5	BMFSFJ (2017): Evaluation zu den Auswirkungen aller Maßnahmen und Hilfsangebote, die auf Grund des Gesetzes zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt ergriffen wurden, S. 91 15

## Abschätzung quantitativer Auswirkungen des SchwHiAusbauG (Evaluationsbericht 2017)

aus der Perspektive anonymer Formen der Kindesabgabe

aus der Perspektive der vertraulichen Geburt

Anzahl der Fälle absolut, auf zwölf Monate hochgerechnet



## ドイツの内密出産制度における「需要喚起」

- 立法時当初の見積りの3倍の利用件数
- 内密出産制度によって従来の制度（赤ちゃんポスト、匿名出産、匿名で引き渡せる制度）の利用が減ったが、全体として(少なくとも一時的に)出自を知る権利が侵害されている子どもの数が増加

17

## 結論

18



## Bedarfsweckung bei dem System der vertraulichen Geburt

- 3mal mehr Nutzungen als zum Zeitpunkt der Gesetzesverabschiedung erwartet
- Durch das System der vertraulichen Geburt konnte die Nutzung der bisherigen Angebote anonymer Kindesabgabe verringert werden; die Gesamtzahl an Kindern, deren Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung (zumindest zeitweilig) eingeschränkt wird, ist jedoch gestiegen.

17

Schlussbemerkung

18

## 私見 — 今後の母子救済システムの検討にあたって

- 匿名・内密で子どもの委託を可能とする如何なる古今の制度であれ、「需要喚起」を伴う可能性を否定できない → 新たな制度が導入されれば、想定の内外に関わらず利用者がでてくる？
- 取り組み設計の段階で利用について見積るのは難しいのでは？
- 事実上黙認されている制度よりも、法律によって規定された制度の方が、利用の適切性に関係なく、権利や普通の選択肢の一つとして、利用しやすいと見なされ、選ばれる可能性があるのでは？

19

## 私見 — 今後の母子救済システムの検討にあたって

- しかし：需要喚起の有無に関係なく、匿名（内密）による子どもの委託の諸形態には重要な役割がある
  - 「灯台効果」：よく知られている、相談システムの宣伝・周知効果、相談者にとって主観的にセーフティネットとなり、相談の敷居を低くする効果
  - 「社会のバロメーター」としての赤ちゃんポスト：「安易な」利用であっても、預け入れられた子どもから現代社会の課題が分かる（例えば、男女の割合、障がいの有無等）
  - 「需要喚起」等の批判があるからこそ、社会的議論のきっかけとなり、妊娠を他者に知られたくない女性が抱えてる問題へ社会的な注意の喚起を促し、または支援システムの見直しと改善につながり得る（例えば、「このとりのゆりかご」がなければ、内密出産についての本日のシンポジウムはなかったかもしれない・・・）

20

## Prüfung neuer Möglichkeiten der Hilfen für Mutter und Kind - persönliche Überlegungen

- Das Risiko einer Bedarfsweckung kann in keinem System der anonymen/vertraulichen Kindesabgabe in Geschichte und Gegenwart ausgeschlossen werden → Kann es bei der Einführung neuer Systeme zu unerwartetem Nutzungsverhalten kommen?
- Schwierigkeit, die Nutzung eines Systems im Voraus abzuschätzen
- Gibt es bei gesetzlich verankerten Systemen - im Vergleich zu lediglich geduldeten Systemen - eine erhöhte Gefahr von „Bedarfsweckung“ durch eine mögliche Wahrnehmung derselben als unproblematische, rechtmäßig zustehende Handlungsalternativen?

19

## Prüfung neuer Möglichkeiten der Hilfen für Mutter und Kind - persönliche Überlegungen

- Aber: unabhängig von einer evtl. Bedarfsweckung erfüllen die Angebote anonymer / vertraulicher Kindesabgaben einen wichtigen Zweck
  - „Leuchtturmeffekt“: hoher Bekanntheitsgrad und dadurch wirksam zur Bekanntmachung und Bewerbung von Beratungsangeboten; subjektives Sicherheitsnetz für Ratsuchende; Erleichterung des Einstiegs in die Beratung
  - Babyklappen als „Barometer der Gesellschaft“: Rückschlüsse von den abgegebenen Kindern auf gesellschaftliche Handlungsbedarfe (z.B. Geschlechterverhältnis oder Vorliegen von Behinderungen bei den abgegebenen Kindern)
  - Gerade auch aufgrund von Kritik wie die der „Bedarfsweckung“: Anstoss einer gesellschaftlichen Debatte, Aufmerksam machen auf die Probleme von Frauen, die ihre Schwangerschaft verheimlichen müssen, Anlass für Diskussionen zur Verbesserung der Hilfesysteme

20

# 内密出産の法的課題 —親子法・養子法を中心に—

床谷文雄（大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授）

シンポジウム「ドイツの内密出産制度に学ぶ—新しい母子救済支援の可能性を探る」  
2018年8月23日（木）熊本大学くすの木会館 1

## 内密出産の法的課題

### 第1 苦境にある妊婦の避難路と法制度支援

- 妊娠の継続、出産の選択  
妊娠中の定期検診等の支援と産後の母子の生活保障
- 産まないという選択  
墮胎は、原則として犯罪行為であるが・・・  
一定の要件の下で（母体保護法、ドイツ刑法）中絶を不可罰とする
- 産まなかったことにする  
子捨て（嬰兒遺棄）密かに路上、トイレ、公園、駅などに放置  
子殺し（嬰兒殺） 出産介添者が行う場合もある
- 他人に託する  
他人の子として出生届をする（虚偽出生届～藁の上からの養子）  
公的な場所に置き去り（宗教施設、児童養護施設、役場）  
安全な受入場所の提供（赤ちゃんポスト、避難所、ベビー・クラッペン）  
身元を秘匿して病院等で出産、子をそのまま託す（匿名出産）
- 正規の出生届と養子縁組  
養子縁組あっせん所（機関）の支援（妊娠中からの支援もある）

2

## RECHTLICHE FRAGEN DER VERTRAULICHEN GEBURT - UNTER BESONDERER BERÜCKSICHTIGUNG DES KINDSCHAFTS- UND ADOPTIONSRECHTS -

Fumio Tokotani (Professor, Osaka School of  
International Public Policy, Universität Ōsaka)

**Symposium „Das System der vertraulichen Geburt in  
Deutschland - neue Möglichkeiten der Hilfe für Mutter und  
Kind“**

**23. August 2018 Kusunoki Kaikan, Universität Kumamoto**

**1**

### Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

#### Abschnitt 1 Auswege für Schwangere in Not und Unterstützung durch das Rechtssystem

- Entscheidung für die Fortsetzung der Schwangerschaft und Geburt  
Unterstützung während der Schwangerschaft durch Vorsorgeuntersuchungen usw., sowie  
Unterstützung von Mutter und Kind nach der Geburt
- Entscheidung gegen eine Austragung  
Ein Schwangerschaftsabbruch ist prinzipiell eine Straftat, aber ...  
unter bestimmten Bedingungen (MuSchuG, StGB) ist eine Abtreibung straffrei.
- Verbergen der Geburt  
Aussetzung des Kindes heimlich auf einer Straße, in einer Toilette, einem Park, auf einem  
Bahnhof usw.  
Tötung des Kindes, evtl. auch durch eine der Geburt beiwohnende Person
- Abgabe an Dritte  
Meldung als Kind einer Dritten (Fälschung der Geburtsanzeige, Übernahme des eigenen  
Kindes als „Adoptivkind“)  
Aussetzung des Kindes an einem öffentlichen Platz (religiöse Einrichtung,  
Jugendhilfeeinrichtung, Behörde)  
Zurverfügungstellung eines sicheren Abgabeplatzes (Babyklappe, Zufluchtsort)  
Geburt in einem Krankenhaus o.ä. unter Verheimlichung der eigenen Identität, Zurücklassen  
des Kindes (anonyme Geburt)
- reguläre Geburtsanzeige und Adoptionsfreigabe  
Unterstützung durch eine Adoptionsvermittlungsstelle (evtl. auch bereits während der  
Schwangerschaft)

**2**

## 第2 出産の事実を秘密にする（匿名型出産）諸形態

妊娠を他者に知られたくない女性を支援するものとして、匿名型の出産制度が拡大し、社会的に賛否が分かれている。

- (1) ベビー・ボックス (Babyklappe)
- (2) 匿名での子の引渡し (Anonyme Übergabe)
- (3) 匿名出産 (Anonyme Geburt)
- (4) 内密出産 (Vertrauliche Geburt)

3

## 第2 出産の事実を秘密にする（匿名型出産）諸形態

### (3) 匿名出産型

出産時の医療的補助により、危機に瀕した母子ともに安全な出産の機会を提供する  
 出産した子の母は匿名（母子関係の事実を法的には不明とする）

#### フランスでの匿名出産 (accouchement sous X)

匿名での医療、出産の保障

- ・1941年法：全ての女性は、公的医療施設において、分娩前後の期間、身元を明らかにすることなく無料で医療を受けられることを認める
- ・1986年家族社会扶助法典：身元の守秘を要求した女性の入院分娩費用は、児童社会扶助機関が引き受ける。身元の調査をしない。
- ・2002年法：母の身元等の情報の文書を封印し国の機関に提出可能  
母子関係の成立を制限（フランス民法は母も**認知主義**を採る）
- ・1993年法：匿名出産の場合、母子関係搜索の訴えは認められない。
- ・2009年法：匿名出産の場合でも母の搜索の訴えを認める（実際は困難）  
身分登録上、母不明とすることを認める（匿名出産の合法化）  
年間600～700の匿名出産（推定）

4

## Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

### Abschnitt 2 Verschiedene Formen der Verheimlichung der Tatsache der Geburt (anonyme Formen der Geburt)

Als eine Form der Unterstützung für Frauen, die ihre Schwangerschaft verbergen möchten, verbreiten sich die anonymen Formen der Geburt; die gesellschaftlichen Meinungen darüber gehen auseinander.

- (1) Babyklappe
- (2) Anonyme Übergabe
- (3) Anonyme Geburt
- (4) Vertrauliche Geburt

3

## Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

### Abschnitt 2 Verschiedene Formen der Verheimlichung der Tatsache der Geburt (anonyme Formen der Geburt)

#### (3) Anonyme Form der Geburt

Ermöglichung einer sicheren Geburt für Mutter und Kind in einer Krisensituation durch medizinische Begleitung bei der Geburt  
Die Mutter bleibt anonym (die Tatsache der Mutter-Kind-Beziehung bleibt rechtlich unbestimmt)

anonyme Geburt in **Frankreich** (accouchement sous X)

Sicherstellung einer anonymen, medizinisch begleiteten Geburt

- Gesetzliche Regelung 1941: Jede Frau kann in einer öffentlichen medizinischen Einrichtung vor und nach der Geburt ohne Offenlegung der Identität kostenlos medizinische Behandlung in Anspruch nehmen
- 1986 Code de la famille et de l'aide sociale: die Krankenhaus- und Entbindungskosten einer Frau, die die Geheimhaltung ihrer Identität fordert, werden durch die Aide sociale à l'enfance übernommen. Es finden keine Nachforschungen zur Identität statt.
- 2002: Möglichkeit zur versiegelten Abgabe von Informationen zur Identität der Mutter an eine staatliche Behörde

Beschränkung der Entstehung der Mutter-Kind-Beziehung (das französische Zivilrecht bedient sich des **Prinzips der Anerkennung** durch die Mutter)

- 1993: Klage auf Suche der Mutter im Falle einer anonymen Geburt wird nicht anerkannt
- 2009: Klage auf Suche der Mutter im Falle einer anonymen Geburt wird zugelassen (in der Praxis jedoch schwierig)

personenstandsrechtliche Zulassung einer unbekanntenen Mutter (Legalisierung der anonymen Geburt)

jährlich 600-700 anonyme Geburten (Schätzung)

4

## 第2 出産の事実を秘密にする（匿名型出産）諸形態

### （4）内密出産型

ドイツの新制度：妊婦支援の拡大と内密出産の規律のための法律（2013年8月28日法、2014年5月1日施行）により導入  
 ※妊娠葛藤法、民法、身分登録法、国籍法等の関係法律を改正

#### 【基本構造】

妊娠相談所での相談（2段階の相談体制）

妊婦の氏名、生年月日、住所の情報を提出、封印し、保管  
 病院・助産院では匿名で、安全な出産、医療補助を受けられる  
 身分登録上、子の母は不明（法的には分娩者が母）

子の出自を知る権利との調整

- ・16歳になれば、母が提出した出自証明書を読覧することができる
- ・母は拒否することができる
- ・家庭裁判所が調整する

5

## 第3 ドイツの内密出産法

### （1）妊娠（内密出産）相談

- ◆人工妊娠中絶の前に専門家との相談義務を課す（妊娠葛藤相談）
- ◆妊娠中絶の手続の一環として導入された相談制度を拡充・活用
- ◆内密出産の相談に適した専門家の養成、水準の維持・向上
- ◆2段階の相談体制（一般的妊娠相談から内密出産相談へ）
- ◆相談の基本姿勢：即応・無料・入念・結論を事前に決めない・内密
- ◆相談の機会について多様な手段で周知
  - 冊子、パンフレット、ポスター
  - インターネットで広報
  - ホットラインによる相談（無料、24時間、多言語対応）
  - 車内広告等で周知（ステッカー）

6



## Abschnitt 2 Verschiedene Formen der Verheimlichung der Tatsache der Geburt (anonyme Formen der Geburt)

### (4) Vertrauliche Form der Geburt

Neues System in Deutschland: eingeführt durch das „Gesetz zum Ausbau der Hilfen für Schwangere und zur Regelung der vertraulichen Geburt“ (erlassen am 28. August 2013, inkraftgetreten am 1. Mai 2014)

※ Änderung der relevanten Gesetze wie SchKG, BGB, PStG, StAG usw.  
【Grundstruktur】

Beratung durch die Schwangerschaftsberatungsstellen (2-stufiges Beratungskonzept)

Vor- und Familienname, Geburtsdatum und Wohnort der Schwangeren werden aufgenommen und versiegelt aufbewahrt

die Schwangere kann anonym in einem Krankenhaus oder einer Geburtsklinik sicher entbinden und medizinische Unterstützung in Anspruch nehmen

im Standesregister gilt die Mutter des Kindes als unbekannt (rechtlich ist die Entbindende die Mutter)

- Abwägung mit dem Recht des Kindes auf Kenntnis der eigenen Abstammung
- im Alter 16 Jahren kann der von der Mutter hinterlassene Herkunftsnachweis durch das Kind eingesehen werden
  - die Mutter kann dies verweigern
  - das Familiengericht trifft darüber die Entscheidung

5

## Abschnitt 3

### Das Gesetz zur vertraulichen Geburt in Deutschland

#### (1) Schwangerschaftsberatung (Beratung zur vertraulichen Geburt)

- ◆ Pflicht zur Beratung mit einer Fachperson vor einem Schwangerschaftsabbruch (Schwangerschaftskonfliktberatung)
- ◆ Ausweitung und Nutzung des im Rahmen des Verfahrens zum Schwangerschaftsabbruch eingeführten Beratungssystems
- ◆ Ausbildung von FachberaterInnen für die Beratung zur vertraulichen Geburt, Einhaltung und Verbesserung von Standards
- ◆ 2-stufiges Beratungskonzept (von der allgemeinen Schwangerschaftsberatung zur Beratung zur vertraulichen Geburt)
- ◆ Grundprinzipien der Beratung: sofort, kostenlos, sorgfältig, ergebnisoffen, vertraulich
- ◆ Bekanntmachung des Beratungsangebots mit unterschiedlichen Mitteln  
Broschüren, Handzettel, Poster  
Bewerbung im Internet  
Beratung über ein Hilfetelefon (kostenlos, rund um die Uhr, mehrsprachig)  
Werbung in öffentlichen Verkehrsmitteln usw. (Aufkleber)

6

### 第3 ドイツの内密出産法

#### (2) 匿名による出産と出生の届出

- ◆母は仮名で出産することを法的に認められる
- ◆出産前後の費用は公的に（国）負担
- ◆病院等から相談所に対して、出産した日時等の事実を通知
- ◆相談所から養子縁組あっせん所へ通知
- ◆出生の届出は、原則として、出生から1週間以内にする
- ◆内密出産の場合は仮名で出生登録をすることができる
- ◆届出義務者は親権（配慮権）者である父母の一方  
または病院等の施設長等
- ◆身分登録所は、子の名と母の仮名を  
連邦家族市民社会問題庁（ケルン）へ通知
- ◆連邦庁は、相談所から送付された出自証明書の封筒の表紙に  
身分登録所から通知された子の名前を記載

7

### 第3 ドイツの内密出産法

#### (3) 少年局との連携（官庁後見）による子の保護

- ◆相談所から少年局（Jugendamt【児童相談所に相当】）に対して  
内密出産を希望する妊婦の仮名、出産予定日、病院等について通知
- ◆少年局による官庁後見が行われる
- ◆匿名を望む場合、母の親権（Sorgerecht 配慮権）は停止する

#### (4) 養子縁組の手続

- ◆内密出産の親は、民法（養子法）上は長期行方不明者とする
- ◆養子縁組（実親子関係は終了する）に対する親の同意は不要
- ◆養子縁組あっせん機関（少年局等）が支援し、利害調整する

8

### Abschnitt 3

#### Das Gesetz zur vertraulichen Geburt in Deutschland

##### (2) Anonyme Geburt und Geburtsanzeige

- ◆ rechtliche Zulassung der Entbindung unter einem Pseudonym
- ◆ öffentliche Kostenübernahme vor und nach der Geburt (durch den Bund)
- ◆ Meldung der Geburtsdaten durch das Krankenhaus usw. an die Beratungsstelle
- ◆ Meldung durch die Beratungsstelle an die Adoptionsvermittlungsstelle
- ◆ Geburtsanzeige erfolgt in der Regel innerhalb einer Woche nach der Geburt
- ◆ im Falle einer vertraulichen Geburt kann diese unter dem Pseudonym registriert werden
- ◆ zur Geburtsanzeige verpflichtet sind Vater und Mutter als Sorgeberechtigte, sowie die Leitung des Krankenhauses usw.
- ◆ das Standesamt übermittelt den Namen des Kindes und das Pseudonym der Mutter an das BAFzA (Köln)
- ◆ das BAFzA versieht den von der Beratungsstelle erhaltenen Umschlag des Herkunftsnachweises mit dem vom Standesamt übermittelten Namen des Kindes

7

### Abschnitt 3

#### Das Gesetz zur vertraulichen Geburt in Deutschland

##### (3) Inobhutnahme des Kindes in Kooperation mit dem Jugendamt (Amtsvormund)

- ◆ die Beratungsstelle (entspricht dem japanischen Jidōsōdanjo) meldet dem Jugendamt das Pseudonym der die vertrauliche Geburt wünschenden Schwangeren, den geplanten Entbindungstermin, das Krankenhaus usw.
- ◆ die Amtsvormundschaft wird durch das Jugendamt übernommen
- ◆ wird Anonymität gewünscht, so ruht das Sorgerecht der Mutter

##### (4) Adoptionsverfahren

- ◆ bei einer vertraulichen Geburt wird der Aufenthalt der Eltern zivilrechtlich (adoptionsrechtlich) als dauernd unbekannt angenommen
- ◆ die Zustimmung der Eltern zur Adoption ist nicht nötig (die Beziehung des Kindes zu den leiblichen Eltern erlischt)
- ◆ die Adoptionsvermittlungsstelle (das Jugendamt usw.) unterstützt und wägt die Interessen ab

8

### 第3 ドイツの内密出産法

#### (5) 子の出自を知る権利 と母の秘密保持との調整

- ◆16歳になった子は母の身元に関する書類（出自証明書）を閲覧可能
- ◆子が15歳になった後、子が出自証明書を閲覧することを望まない母は相談所に対して、反対の意思を表示することができる
- ◆相談所は、子の閲覧権（裁判所に訴えることができること）などについて助言する

#### ※母がなお反対するとき：

- ・母は、相談所に対し母に代わって訴訟を担当する者を伝える
- ・相談所は、連邦庁にその旨を通知する
- ・連邦庁が閲覧を拒否⇒子は、家庭裁判所に閲覧の申立てをする
- ・家庭裁判所は、秘密を守ることにける母の利益（閲覧によって母の身体・生命・健康・人格の自由・その他保護に値する利益を害するおそれ）と子の利益（子の出自を知る権利）を衡量して、閲覧の可否を判断する

9

### 内密出産の法的課題

### 第4 内密出産制度の法的構成

#### (1) 法律上の母子関係

- ◆「分娩した女性を子の母とする」ドイツ民法1591条（1997年改正）  
→分娩により当然に母となり子を保護する義務を負うべきところ、新法はこれを回避し、匿名のかたちでの出産に医療的保護とともに法的安定性を与えた（母となるが、子の養育の義務を負わない）
- ◆内密出産導入後もベビー・クラッペ等は禁止されず（グレーゾーン）
- ◆ベビー・クラッペに託された子どもは、一般の捨て子、身分不明者と同様に行政官庁が命名して、出生登録（身分登録法24条・25条）  
内密出産の子については、母の仮名と子の希望名を届出（同18条）  
出生登録では、行政官庁が定める子の氏名等だけを記載（同21条）
- ◆ベビー・クラッペに対しては扶養義務違反（ドイツ刑法170条）、保護義務違反（同171条）の疑いを指摘する見解もあったが、新法ではこの問題は解決された

10

### Abschnitt 3

#### Das Gesetz zur vertraulichen Geburt in Deutschland

##### (5) Abwägung des Rechts des Kindes auf Kenntnis der eigenen Abstammung mit dem Geheimhaltungsinteresse der Mutter

- ◆ im Alter von 16 Jahren kann das Kind die Unterlagen zur Identität seiner Mutter (den Herkunftsnachweis) einsehen
- ◆ nachdem das Kind das 15. Lebensjahr vollendet hat, kann die Mutter gegenüber der Beratungsstelle Einspruch gegen die Einsicht des Kindes in den Herkunftsnachweis erheben
- ◆ die Beratungsstelle berät das Kind hinsichtlich seines Einsichtsrechts (u.a. zur Möglichkeit dieses vor Gericht einzuklagen)

##### ※falls die Mutter weiterhin widerspricht:

- die Mutter benennt gegenüber der Beratungsstelle die Person, die sie im Prozess vertritt
- die Beratungsstelle informiert darüber das BAFzA
- das BAFzA verweigert dem Kind die Einsicht ⇒ das Kind macht sein Einsichtsrecht vor dem Familiengericht geltend
- Das Familiengericht wägt zwischen dem Interesse der Mutter an der Wahrung der Geheimhaltung (Gefährdung von Leib, Leben, Gesundheit, Persönlichkeit oder anderer schutzwürdiger Interessen der Mutter durch die Einsicht) und den Interessen des Kindes (Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung) ab und entscheidet über die Einsicht.

9

### Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

### Abschnitt 4

#### Rechtliche Gestaltung des Systems der vertraulichen Geburt

##### (1) Die gesetzliche Mutter-Kind-Beziehung

- ◆ „Mutter eines Kindes ist die Frau, die es geboren hat“ (BGB §1591, Jahr 1997)  
→ Mit der Entbindung wird die Frau notwendigerweise zur Mutter und übernimmt die Pflicht zur Fürsorge für das Kind. Im neuen Gesetz wird dies vermieden; medizinische Begleitung der Geburt in anonymer Form und Rechtssicherheit werden sichergestellt (die Frau wird zwar zur Mutter, übernimmt jedoch nicht die Pflicht zur Erziehung des Kindes)
- ◆ auch nach der Einführung der vertraulichen Geburt werden Babyklappen usw. nicht verboten (Grauzone)
- ◆ Die in Babyklappen abgegebenen Kinder werden als normale Findelkinder behandelt, erhalten verwaltungsbehördlich einen Namen wie Personen mit ungewissem Personenstand; ihre Geburt wird registriert (Personenstandsgesetz §24, §25). Für vertraulich geborene Kinder wird das Pseudonym der Mutter und der für das Kind gewünschte Namen gemeldet (§18). In das Geburtsregister wird lediglich der verwaltungsbehördlich bestimmte Name usw. eingetragen (§21).
- ◆ Hinsichtlich der Babyklappe wurde auf eine mögliche Verletzung der Unterhaltspflicht (StGB §170) und der Fürsorge- oder Erziehungspflicht (§171) hingewiesen; im neuen Gesetz ist dieses Problem gelöst.

10

## 第4 内密出産制度の法的構成

### (2) 児童福祉と養子縁組法との関連

- ◆ドイツ法では、8週間の間、新生児に関して  
父母の養子縁組同意ができない（民法1747条2項1文）  
その間は代替監護（里親、託児所）  
少年局による後見の下で養子縁組のあつせん
- ◆内密出産の子につき母の親権（配慮権）を停止する  
（民法1674a条）、母は永続的に（dauernd）行方不明という  
取扱い（民法1747条4項2文）となり、  
養子縁組の要件としての親の同意の問題は生じない

11

## 第4 内密出産制度の法的構成

### (3) 出自を知る権利

- ◆ドイツ連邦憲法裁判所1988年1月18日決定が権利を基礎付ける  
→匿名出産の制度化は、自己の出自を知る権利を法律が積極的に  
制約することになるため認められないという批判が強かった
- ◆新制度は、子の出自を知る権利と、出生の際における母の自己の  
アイデンティティ秘匿（プライバシー権）の両立をめざす仕組み
- ◆16歳以上の子に情報開示を認める
- ◆要保護児童の支援者（専門機関）との信頼関係を基礎とする  
専門家による助言・カウンセリングの効果が期待されている  
※母子の生命・健康の尊重を第一に考え、その範囲で母の匿名性保持  
における利益と子の出自を知る権利を調和させる試み
- ◆母が自己の情報を子に開示することに反対するときには、  
家庭裁判所が母と子の利益衡量をして判断（新しい司法関与）  
→裁判官は、極めて難しい判断を迫られる

12

#### Abschnitt 4

#### Rechtliche Gestaltung des Systems der vertraulichen Geburt

##### (2) Beziehung zum Kindeswohl und zum Adoptionsrecht

- ◆ Nach deutschem Recht kann innerhalb der ersten acht Wochen nach der Geburt eines Kindes keine Einwilligung zur Adoption durch die Eltern erfolgen (BGB §1747 Abs. 2 Satz 1). während dieser Zeit erhält das Kind Ersatzpflege (Pflegeeltern, Heim)  
Adoptionsvermittlung unter der Vormundschaft des Jugendamts
- ◆ Bezüglich eines vertraulich geborenen Kindes ruht die elterliche Sorge der Mutter (BGB § 1674a); der Aufenthalt der Mutter wird als dauernd unbekannt angenommen (BGB §1747 Abs. 4 Satz 2). Die Voraussetzung der elterlichen Einwilligung in die Adoption wird nicht zum Problem.

11

#### Abschnitt 4

#### Rechtliche Gestaltung des Systems der vertraulichen Geburt

##### (3) Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung

- ◆ Begründung dieses Rechts durch die Entscheidung des BVerfG (18. Januar 1988)
  - Versuch der Legalisierung der anonymen Geburt wurde stark kritisiert und nicht realisiert, da hier ein Gesetz das Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung aktiv einschränken würde.
- ◆ Das neue System versucht einen Ausgleich zwischen dem Recht des Kindes auf Kenntnis der eigenen Abstammung und dem Interesse der Mutter an der Geheimhaltung der eigenen Identität (Recht auf Privatsphäre) bei der Geburt.
- ◆ die Einsicht in die Informationen wird dem Kind ab 16 Jahren gestattet
- ◆ baut auf dem Vertrauensverhältnis zu den Hilfeleistenden für schutzbedürftige Kinder (Facheinrichtungen) auf  
Erwartung an die Wirkung der Beratung durch Fachpersonal
  - ※ Versuch, die Wertschätzung von Leben und Gesundheit von Mutter und Kind an die erste Stelle zu setzen und innerhalb dieses Rahmens einen Ausgleich zwischen dem Interesse der Mutter an einer Aufrechterhaltung der Anonymität und dem Recht des Kindes auf Kenntnis der eigenen Abstammung herzustellen
- ◆ Wenn die Mutter der Herausgabe der Informationen an das Kind widerspricht, entscheidet das Familiengericht unter Abwägung der Interessen von Mutter und Kind (neue Beteiligung der Justiz).
  - Der Richter steht vor einer äußerst schwierigen Entscheidung.

12

## 第5 内密出産制度の日本法への当てはめ

### (1) 「内密出産」相談と出生の届出

- ◆妊娠相談の充実
- ◆母（判例上、分娩の事実によって母子関係は成立）匿名の出生届  
仮名での出産・出生登録を認容することができるか  
※仮名による戸籍作成：現行戸籍法の原則に抵触する  
→1987年の特別養子縁組制度創設時の議論  
戸籍から出生・出産の事実が明らかにならないようにする（事実と反する戸籍を作成する）ことへの反対意見が強く、二重帳簿方式等を否定
- ◆棄児の届出（戸籍法57条）の転用⇒「棄児」と同様に戸籍編製
- ◆不備な出生届（母不明の出生証明書添付）も受理可能（法務局）
- ◆母の身元証明書の作成・管理、子の閲覧規制
- ◆出産・医療と児童福祉の連携による「子の福祉」の実現が必要

13

## 第5 内密出産制度の日本法への当てはめ

### (2) 「内密出産」の子の養育

- 安定した子の育ちの場（家庭的養護）の提供を重視する
- ◆実母は親権を行うことができない⇒未成年後見人の選任（民838条）
- ◆父の法的地位は不明
- ◆母が未婚：父は認知がなければ法的には不存在（民法779条）
- ◆母が既婚：嫡出否認の訴えは夫が子の出生を知ってから1年（民772）  
※母の出産を夫が知らない場合は、否認権は消滅しない
- ◆子の利益の代弁者：児童相談所長の権限（児福33条の8、33条の2）

14



## Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

### Abschnitt 5 Übertragung des Systems der vertraulichen Geburt in das japanische Recht

#### (1) Beratung zur „vertraulichen Geburt“ und Geburtsanzeige

- ◆ **Ausbau der Schwangerschaftsberatung**
- ◆ **Mutter (aufgrund der Rechtsprechung: Entstehung der Mutter-Kind-Beziehung durch die Tatsache der Entbindung) anonyme Geburtsanzeige**  
Können Geburt und Registrierung einer Geburt unter einem Pseudonym toleriert werden?
  - ※ Anlegen eines Familienregisters unter einem Pseudonym: Verstoß gegen die Prinzipien des geltenden Familienregistergesetzes→ Debatte um die Einführung der speziellen Adoption 1987  
starker Widerstand gegen eine Verschleierung der Tatsache der Geburt im Familienregister (das Anlegen eines wahrheitswidrigen Familienregisters), Ablehnung einer doppelten Buchführung
- ◆ **Anwendung der Findelkindanzeige (Familienregistergesetz §57) ⇒ Anlegen eines Familienregisters wie bei einem „Findelkind“**
- ◆ **eine unvollständige Geburtsanzeige (unter Beifügung eines Belegs für die Geburt durch eine unbekannte Mutter) kann entgegengenommen werden (Rechtsamt)**
- ◆ **Regelung der Ausstellung und Aufbewahrung des Identitätsnachweises der Mutter sowie der Einsicht des Kindes**
- ◆ „Wohlergehen des Kindes“ muss durch Verbindung von Geburt / medizinischer Betreuung und Kindeswohl sichergestellt werden

13

## Rechtliche Fragen der vertraulichen Geburt

### Abschnitt 5 Übertragung des Systems der vertraulichen Geburt in das japanische Recht

#### (2) Erziehung der vertraulich geborenen Kinder

Augenmerk liegt auf dem Zurverfügungstellen eines stabilen Ortes der Erziehung des Kindes (familiäre Erziehung)

- ◆ **kann die leibliche Mutter das elterliche Sorgerecht nicht ausüben ⇒ Ernennung eines Vormundes bei Minderjährigkeit (ZGB §838)**
- ◆ **der rechtliche Status des Vaters ist ungewiss**
- ◆ **ist die Mutter unverheiratet: wird die Vaterschaft nicht anerkannt, so gilt der Vater rechtlich als abwesend (ZGB §779)**
- ◆ **ist die Mutter verheiratet: Anfechtung der Ehelichkeit des Kindes durch den Ehemann innerhalb eines Jahres nach Kenntnisaufnahme von der Geburt (ZGB §772)**
  - ※ Anfechtungsrecht erlischt nicht, falls der Ehemann keine Kenntnis von der Geburt hat
- ◆ **Vertreter der Interessen des Kindes: Befugnis des Jugendamtleiters (Jugendfürsorgegesetz §33/8, §33/2)**

14

## 第5 内密出産制度の日本法への当てはめ

### (3) 「内密出産」の子の養子縁組

#### 特別養子縁組手続による身分の変更・安定化

#### ◆出生の前または直後に養子縁組の手続を進めることができるか

- ※養子縁組への親の同意（民法817条の6）⇒事前の同意は無効
- 出産直後の同意も可能（ドイツと異なり、日本法では撤回が可能）
- 母の身元不明・所在不明⇒同意不要事由となるか
- 内密出産：母の氏名は特定の機関が把握（内密出産＝養子縁組同意？）
- 家庭裁判所による親の同意不要の認定と縁組の成立審判手続の再考

#### ◆子の代弁者：未成年後見人の意見を聴く（家事事件手続法164条）

#### ◆養子縁組成立後の戸籍

15

## 第5 内密出産制度の日本法への当てはめ

### (4) 「内密出産」の子の出自（情報）を知る権利

#### 特別養子縁組による身分の安定に影響があるか

#### ◆出自を知る権利の実定法化が必要（権利の内容と手続）

- 一定の年齢まで認めないものとするか、意思能力の具備で足りるか
- 養親が代理人として請求することができるか
- 誰に対して請求するか（情報保管の責任は誰が負うのか）
- 何を知るか、どのような手続とするか
- 母のプライバシー権との関係（拒否権はあるか）

裁判所の役割⇒子の請求の認否に関わるべきか

情報を請求する前後の子への支援、カウンセリングの必要性

多くの課題が存在している現状では、慎重に検討を進めるべき

16

## Abschnitt 5 Übertragung des Systems der vertraulichen Geburt in das japanische Recht

### (3) Adoption von vertraulich geborenen Kindern

#### Änderung und Stabilisierung des Personenstandes durch das Verfahren der speziellen Adoption

◆ **Kann das Adoptionsverfahren vor bzw. kurz nach der Geburt eingeleitet werden?**

※ Einwilligung der Eltern in die Adoption (ZGB §817/6) ⇒ vorherige Einwilligung ist unwirksam

Einwilligung gleich nach der Geburt ist auch möglich (im Unterschied zu Deutschland ist im japanischen Recht eine Rücknahme möglich)

Mutter mit unbekannter Identität, unbekanntem Aufenthalt ⇒ Grund für Unnötigkeit der Einwilligung?

vertrauliche Geburt: bestimmte Institution kennt den Namen der Mutter (vertrauliche Geburt = Einwilligung in die Adoption?)

Überdenken der Bestätigung der Unnötigkeit der Einwilligung der Eltern durch das Familiengericht und das Verfahren der Entscheidung über das Zustandekommen der Adoption

◆ **Vertreter des Kindes: Anhörung der Meinung des Vormunds für Minderjährige (Gesetz über das Verfahren in Familiensachen §164)**

◆ **Familienregister nach dem Zustandekommen der Adoption**

15

## Abschnitt 5 Übertragung des Systems der vertraulichen Geburt in das japanische Recht

### (4) Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung bei vertraulich geborenen Kindern

#### Gibt es Auswirkungen auf die Stabilität des Personenstandes durch die spezielle Adoption?

◆ **Recht auf Kenntnis der eigenen Abstammung muss als positives Recht eingeführt werden (Inhalt des Rechts und Verfahren)**

Soll dies erst ab einem bestimmten Alter zugestanden werden? Ist die Ausstattung mit Willensfähigkeit ausreichend?

Können die Adoptiveltern dieses stellvertretend geltend machen?

Wem gegenüber kann dies geltend gemacht werden (wer trägt die Verantwortung der Informationsaufbewahrung)?

Was soll gewusst werden, was für ein Verfahren soll gewählt werden?

Beziehung zum Recht auf Privatsphäre seitens der Mutter (Gibt es ein Widerspruchsrecht?)

Rolle der Gerichte ⇒ Sollen diese bei der (Nicht)anerkennung der Forderung des Kindes beteiligt werden?

Unterstützung des Kindes vor und nach seiner Forderung nach Information, Notwendigkeit von Beratung

**gegenwärtig bestehen zahlreiche Hürden,  
eine vorsichtige Prüfung ist notwendig**

16

参考文献（阪本PPT参照文献の他）

Karolina Drazkiewicz, Adoption von Kindern aus der Babyklappe und nach einer vertraulichen Geburt, Verlag DE Iure PL, 2016  
Stephanie Wiesner-Berg, Anonyme Kindesabgabe in Deutschland und der Schweiz, Nomos Verlag, 2009

床谷文雄「ドイツにおける内密出産制度導入の意義と課題(1)」阪大法学68巻1号(2018年5月)

<mailto:tokotani@osipp.osaka-u.ac.jp>

**Literatur**

(zusätzlich zu der bereits von Prof. Sakamoto angegebenen)

Karolina Drazkiewicz, Adoption von Kindern  
aus der Babyklappe und nach einer  
vertraulichen Geburt, Verlag DE Iure PL, 2016  
Stephanie Wiesner-Berg, Anonyme  
Kindesabgabe in Deutschland und der Schweiz,  
Nomos Verlag, 2009

床谷文雄「ドイツにおける内密出産制度導  
入の意義と課題（１）」阪大法学68巻1号  
（2018年5月）

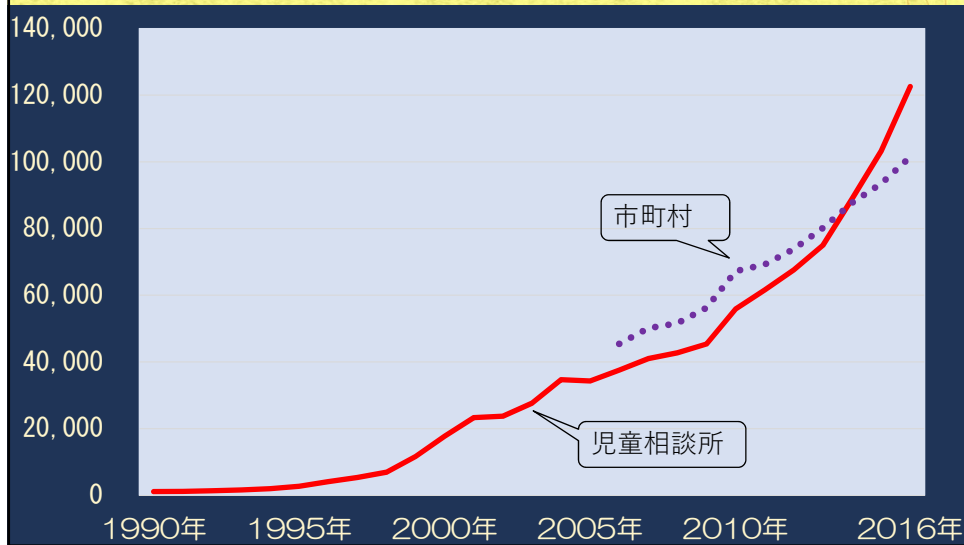
Kontakt: tokotani@osipp.osaka-u.ac.jp

# 「このとりのゆりかご報告書」 からみる子どもの命・人権



関西大学 山縣 文治

## 日本の子ども虐待の現状 ～虐待相談対応件数～



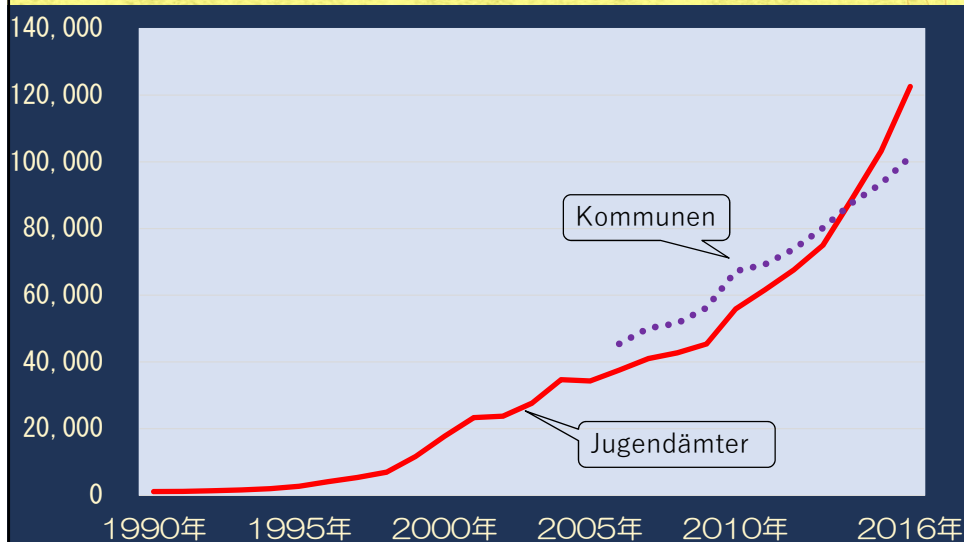
# Leben und Menschenrechte des Kindes – anhand des Berichts der Prüfungskommission zur 'Storchenwiege' –



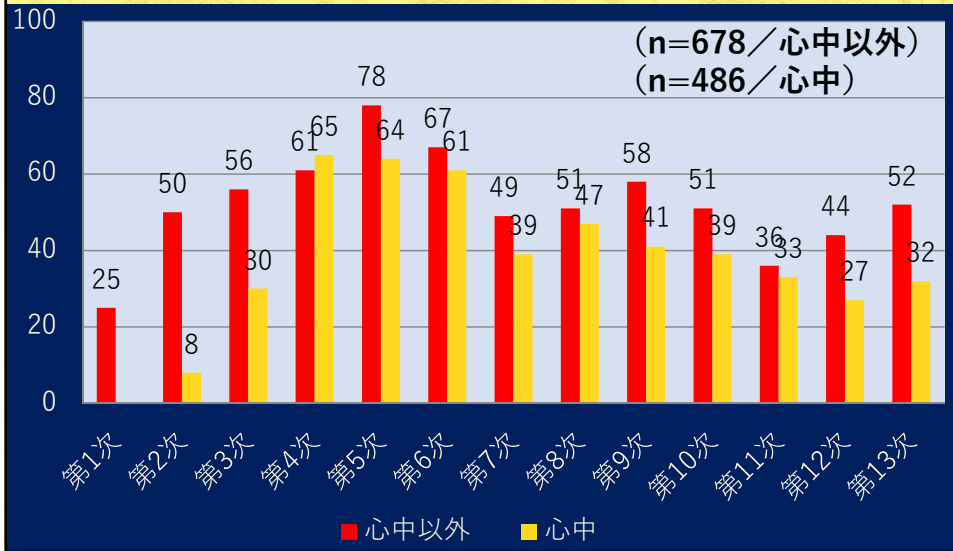
Universität Kansai

Fumiharu Yamagata

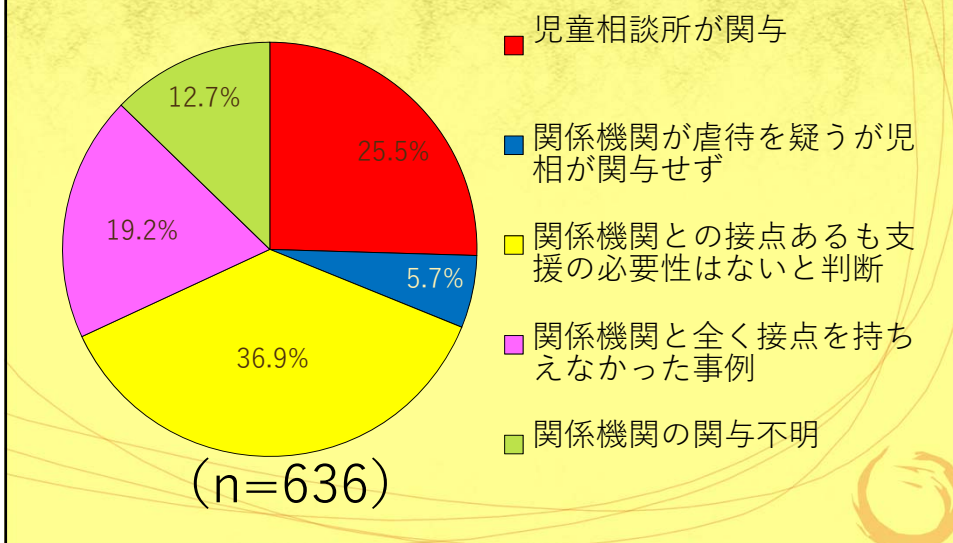
## Aktuelle Situation der Kindesmisshandlung in Japan - Zahl der Beratungen zu Misshandlungen -



## 日本の子ども虐待の現状 ～虐待による死亡～

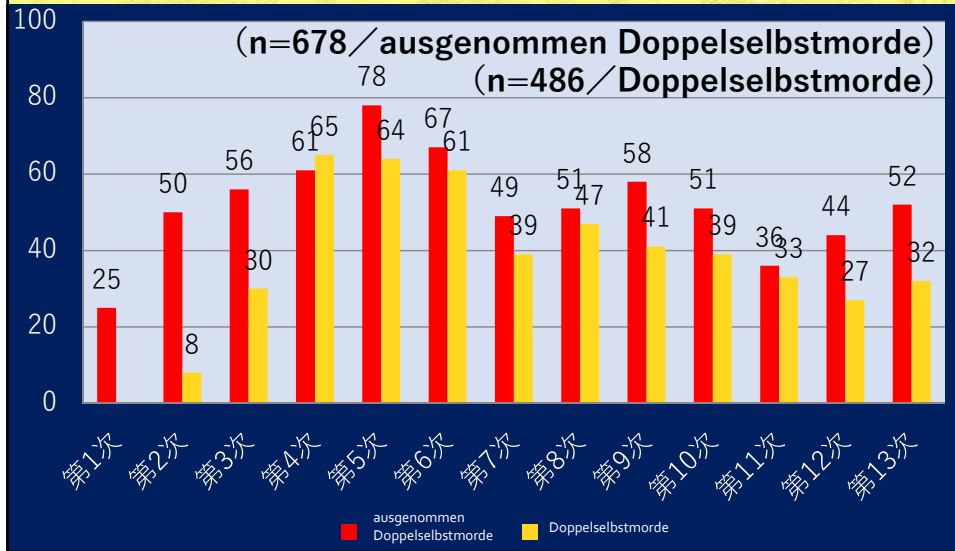


## 日本の子ども虐待の現状 ～関係機関の関与（心中以外）～

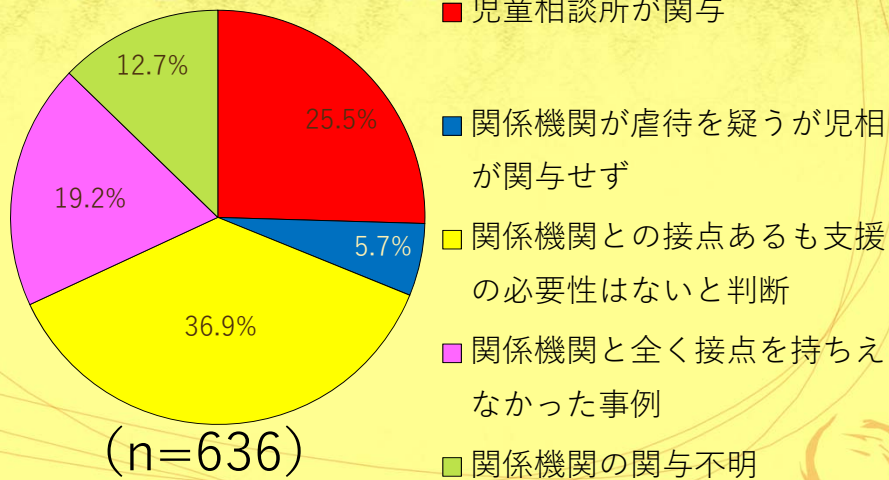




## Aktuelle Situation der Kindesmisshandlung in Japan - Todesfälle durch Misshandlung -

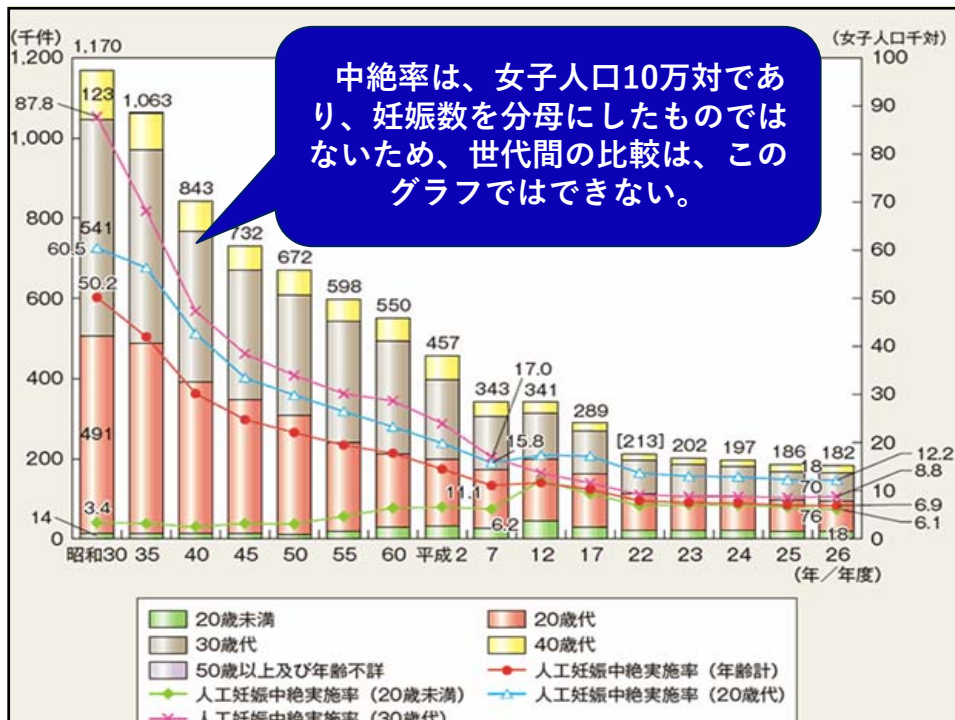


## Aktuelle Situation der Kindesmisshandlung in Japan - Beteiligung der relevanten Akteure (ausgenommen Doppelselbstmord) -



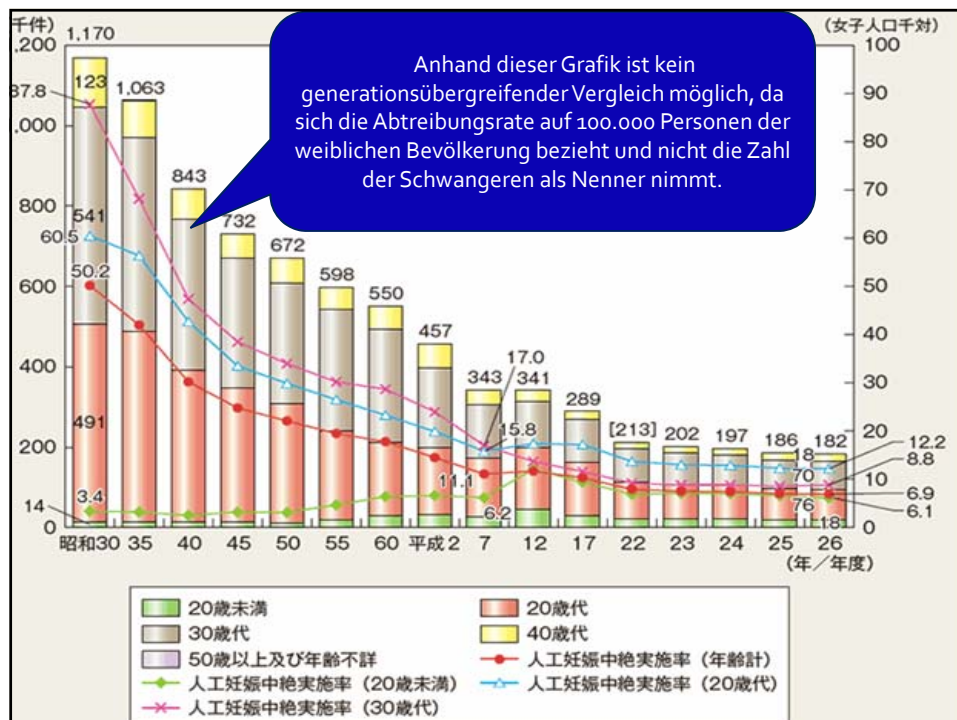
## 人工妊娠中絶

- 制度上は虐待ではない。
- 妊娠中の禁止薬物使用などは胎児虐待と呼ばれることもある。
- 心中・心中未遂は虐待である。
- 人工妊娠中絶は、母体保護法で親の自由意思で認められているわけではない。
- 出生前診断で障がいがあると診断されると98%が中絶（NIPTコンソーシアム加入機関：2013～2015）
- 人工妊娠中絶は、虐待ではないのか。



# Schwangerschaftsabbruch

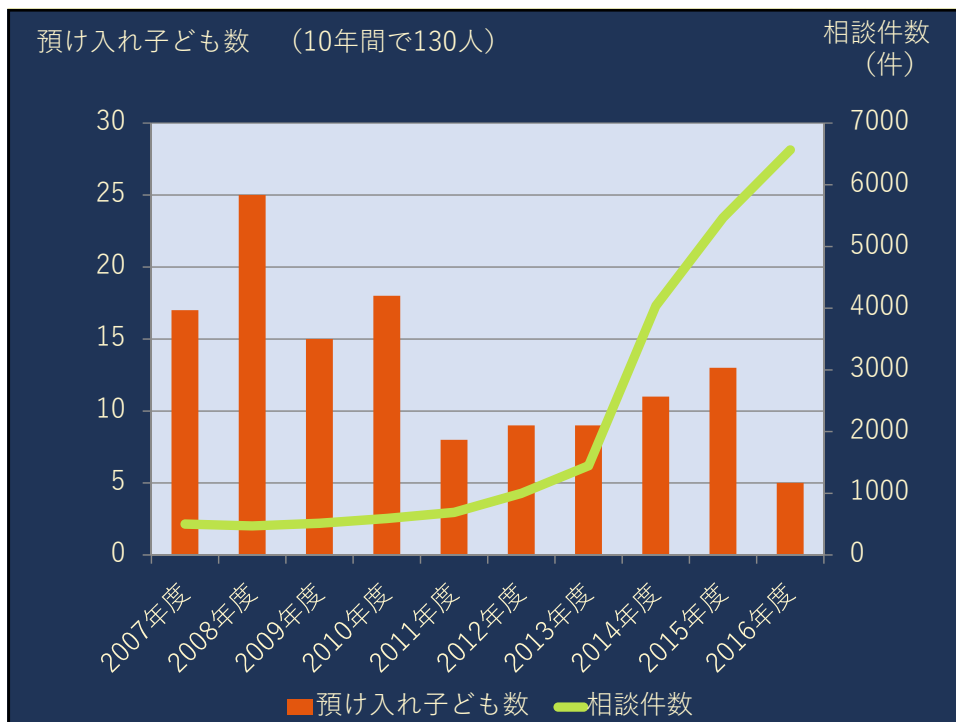
- Gilt nicht als Misshandlung.
- Der Konsum verbotener Substanzen während der Schwangerschaft wird manchmal als Misshandlung des Embryos bezeichnet.
- (Versuchter) Doppelselbstmord ist eine Misshandlung.
- Ein Schwangerschaftsabbruch fällt nach dem Mutterschutzgesetz nicht unter den freien elterlichen Willen.
- Wird bei einer Pränataldiagnostik eine Behinderung festgestellt, erfolgt in 98% der Fälle eine Abtreibung (Einrichtungen des NIPT-Konsortiums, 2013-2015).
- Ist eine Abtreibung etwa keine Misshandlung?



## こうのとりのゆりかご

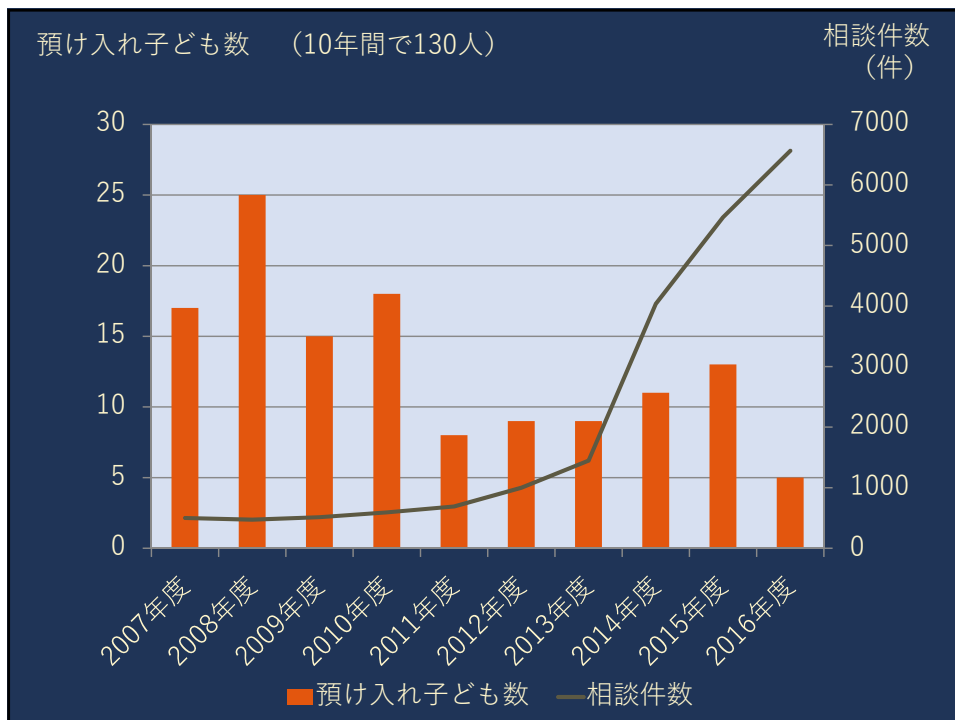
～5つの誤解～

- 本来は相談を意図するものである。
- 預けられると、必ず児童相談所が対応する。
- 児童相談所の統計では、虐待（ネグレクト）とカウントされる。
- 児童相談所が対応すると、保護者を探す（7割くらいがみつかる）。
- 保護者が見つかると、住所を担当する児童相談所に移管される。



## Die Storchenwiege - 5 Missverständnisse -

- **Eigentlich steht die Beratung im Vordergrund.**
- **Wird ein Kind abgegeben, so schaltet sich in jedem Fall das Jugendamt ein.**
- **In der Statistik des Jugendamts zählt die Abgabe als Misshandlung (Vernachlässigung).**
- **Schaltet sich das Jugendamt ein, so werden die Erziehungsberechtigten gesucht (und in etwa 70% der Fälle gefunden).**
- **Werden die Erziehungsberechtigten gefunden, so übernimmt das zuständige Jugendamt vor Ort den Fall.**



こうのとりのゆりかご  
～ 預け入れ部門① ～

- 預け入れ部門が想定していた新生児の割合は82.3%（生後7日未満51.5%。推定含む）。
- 要医療と診断されたものは22.3%。さらに14件、ほぼ1割に障がい認められた。
- 預け入れ場面にいたものは合計189人で、そのうち母（推定含む）は93人とほぼ半数、父は26人。
- 母の年齢が少なくとも推定できるものは99人で、10代15.2%、20代45.5%、30代30.3%。婚姻関係は、既婚34.0%、未婚42.0%であり、既婚者も3分の1以上ある。
- 子どもへのメッセージを残しているものが33.6%あり、子どもへの愛着も感じられる。

こうのとりのゆりかご  
～ 預け入れ部門② ～

- その後、親の居住地がわかったものは76.2%。遠方から預け入れにきたものも少なくない。
- 預け入れをした理由（複数回答）は、生活困窮50.1%、未婚13.6%、世間体12.6%、パートナーの問題11.1%、不倫8.5%。
- 自宅出産が46.6%。医療機関（推計含む）は43.1%、車中というものも4件。
- 身元判明事案104件の2016年度末の状況は、施設入所24.0%、里親委託16.3%、家庭引き取り22.1%、特別養子縁組成立31.7%。
- 身元不明事案26件の同状況は、施設入所11.5%、里親委託34.6%、特別養子縁組成立53.8%。

## Die Storchenwiege

### - Bereich der Aufnahme von Kindern ① -

- Der Anteil der ursprünglich intendierten Neugeborenen beträgt 82,3% (weniger als 7 Tage alt: 51,5%; Schätzungen inbegriffen).
- 22,3% Kinder, die medizinischer Behandlung bedurften. Weiterhin wurde in 14 Fällen, in fast 10% der Fälle, eine Behinderung festgestellt.
- Bei der Abgabe zugegen waren insg. 189 Personen, darunter 93 Mütter (ungefähr die Hälfte; Schätzungen inbegriffen), 26 Väter.
- Das Alter von 99 Müttern kann zumindest geschätzt werden (10-19 Jahre 15,2%, 20-29 Jahre 45,5%, 30-39 Jahre 30,3%). Bezüglich des Familienstandes: 34,0% waren verheiratet, 42,0% unverheiratet (mehr als ein Drittel Verheiratete).
- In 33,6% wurde eine Nachricht an das Kind hinterlassen, was eine Zuneigung gegenüber dem Kind spüren lässt.

## Die Storchenwiege

### - Bereich der Aufnahme von Kindern ② -

- Der Wohnort der Eltern wurde in 76,2% der Fälle nachträglich ermittelt. Nicht wenige waren von weit her zur Abgabe angereist.
- Gründe für die Abgabe (Mehrfachnennungen möglich): schwierige Lebenssituation 50,1%, unverheiratete Mutter 13,6%, soziales Ansehen 12,6%, Probleme mit dem Partner 11,1%, eheliche Untreue 8,5%.
- Anteil an Hausgeburten beträgt 46,6%. Geburt in medizinischen Einrichtungen (Schätzungen inbegriffen) 43,1%, Geburt im Auto 4 Fälle.
- Verbleib der Kinder in Fällen, in denen die Identität der Eltern festgestellt wurde (104 Fälle): Heim 24,0%, Pflegeeltern 16,3%, Rücknahme in die Familie 22,1%, spezielle Adoption 31,7% (Stand: Ende Fiskaljahr 2016)
- Verbleib der Kinder in Fällen, in denen die Identität der Eltern nicht festgestellt werden konnte (26 Fälle): Heim 11,5%, Pflegeeltern 34,6%, spezielle Adoption 53,8% (Stand: Ende Fiskaljahr 2016)

こうのとりのゆりかご  
～ 相談部門① ～

- 2014年度以降相談件数が急増し、2016年度は6,565件と過去最多。
- 架電者は、熊本県外が徐々に増加し、2016年度は95.2%（10年通算88.2%）。
- 相談内容では、妊娠・避妊に関する相談が65.8%（43.0%）と最も多く、次いで思いがけない妊娠が16.3%（15.7%）。
- 妊娠・避妊に関する相談の半数以上が妊娠判定に関するもので、最近ではこの件数が増加。

こうのとりのゆりかご  
～ 相談部門② ～

- 中絶に関する相談は、2016年度で225件（3.4%）、通算でも834件（4.0%）で、割合的には大きな変化はない。
- 特別養子縁組につながった事案は、通算294件（年間平均29.4件）。近年やや減少傾向にあるとはいえ、2016年度においても26件の縁組が成立。
- 全国の成立件数は、ここ数年450～500件程度にすぎず、ゆりかご相談部門だけで5%程度を占める。養子縁組推進機運のなかで、この実績は極めて大きい。



## Die Storchenwiege - Bereich der Beratung ① -

- **Starker Anstieg der Beratungsfallzahlen seit dem Fiskaljahr 2014; im Fiskaljahr 2016 bisher höchste Fallzahl (6565 Fälle).**
- **Zahl der Anrufer von außerhalb der Präfektur Kumamoto stieg nach und nach; Fiskaljahr 2016: 95,2% (10-Jahres-Zeitraum: 88,2%).**
- **Inhalt der Beratung: Schwangerschaft und Verhütung 65,8% (43,0%) als häufigstes Thema, gefolgt von unerwartete Schwangerschaft 16,3% (15,7%).**
- **Über die Hälfte der Beratung zu Schwangerschaft und Verhütung betraf die Feststellung der Schwangerschaft; diese Fälle nehmen in letzter Zeit zu.**

## Die Storchenwiege - Bereich der Beratung ② -

- **Beratung bezüglich Schwangerschaftsabbruch: Fiskaljahr 2016: 225 Fälle (3,4%), insg. 834 Fälle im Gesamtzeitraum (4,0%); der Anteil unterliegt keinen großen Schwankungen.**
- **Spezielle Adoptionen insg. 294 Fälle (Jahresdurchschnitt 29,4 Fälle). Abnehmende Tendenz in den letzten Jahren; jedoch Zustandekommen von 26 Adoptionen im Fiskaljahr 2016.**
- **Landesweite Zahl von speziellen Adoptionen in den letzten Jahren lediglich etwa 450-500 Fälle; allein der Anteil der Fälle aus dem Bereich der Beratung der Storchenwiege beträgt etwa 5%. Dieser Beitrag ist für die Förderung der Adoption sehr bedeutsam.**

### ゆりかごが向き合ってきた命①

- ゆりかごは、子どもの命と向き合ってきた。相談部門の実績は、相談件数に限らず、特別養子縁組の成立件数など、高く評価できる。
- 預け入れ部門の評価は分かれている。分かれる基準は、向き合ってきた命（生命、生活、人生）をどのようにとらえるかに関わる。たとえば、以下のような論点。
- ゆりかごとは無関係に、保健医療関係者の立ち会わない自宅出産（車中出産）自体が、子どもの安全な誕生を阻害しているのではないか。ゆりかごの利用を想定した自宅出産は、その危険を増幅させるものではないか。

### ゆりかごが向き合ってきた命②

- ゆりかごが無ければ死につながったのか、あるいは死を避けたい人が利用したのか。
- 出産直後の、母親による遠隔地からの預け入れは危険度が高いのではないか。
- 仮に匿名で預け入れをしたとしても、その匿名性はその後も継続的に尊重すべきなのか。
- 相談部門と預け入れ部門で、子どもの生活や人生が異なる可能性が高いことについて、行政は子どもにどう説明し、納得を得るのか。
- 代替的養護の質の現状を検討することなく、利用した子どもたちの生活や人生の質を担保することは困難ではないか、など。

## Das Leben, dem sich die Storchenwiege widmet ①

- Die Storchenwiege widmet sich dem Leben der Kinder. Die Leistungen im Bereich der Beratung, nicht nur die Fallzahlen, sondern auch die Zahlen der vermittelten speziellen Adoptionen können hoch bewertet werden.
- Bezüglich des Bereichs der Aufnahme von Kindern gehen die Einschätzungen auseinander. Die unterschiedlichen Maßstäbe bei der Bewertung hängen damit zusammen, wie das Leben, dem sich die Storchenwiege zuwendet, aufgefasst wird. Zum Beispiel in den folgenden Punkten:
- Verhindert nicht eine medizinisch unbegleitete Hausgeburt (oder eine Geburt in einem Auto) – unabhängig von der Storchenwiege – eine sichere Geburt des Kindes? Verstärkt nicht eine Hausgeburt mit dem Ziel der späteren Nutzung der Storchenwiege die Risiken?

## Das Leben, dem sich die Storchenwiege widmet ②

- Wäre das Kind jetzt tot, wenn es die Storchenwiege nicht gegeben hätte, bzw. wurde sie von jemandem genutzt, der den Tod vermeiden wollte?
- Ist es nicht ein großes Risiko, wenn die Mutter gleich nach der Entbindung aus weiter Entfernung zur Abgabe anreist?
- Auch wenn die Abgabe vorläufig anonym erfolgte, sollte diese Anonymität auch danach weiterhin respektiert werden?
- Wie kann die öffentliche Verwaltung dem Kind überzeugend erklären, dass durch die Entscheidung, ob der Bereich der Beratung oder der der Aufnahme von Kindern genutzt wurde, das weitere Leben des Kindes mit großer Wahrscheinlichkeit unterschiedlich verläuft?
- Ist es nicht schwierig, die Qualität des Lebens der Kinder, die in der Storchenwiege abgegeben wurden, sicherzustellen, solange nicht die gegenwärtige Lage der Lebensqualität in der Ersatzpflege überprüft wird? usw.

## ゆりかごの課題を克服するために ～ 内密出産制度について ～

- ドイツは、ベビークラッペに消極的姿勢を示しつつも、全面否定せず、親を知る権利を組み込んだ、内密出産制度を導入した。
- ただし、日本は事実上中絶容認社会であり、内密出産制度は、中絶の減少以上に、顕名出産の人たちが世間体を理由に、これを選択する可能性を否定できない。
- 出生前診断に限らず、たとえば10代の妊娠などの場合、医師が「生みますか」と声をかけ、中絶という選択肢を暗に示すことが少なくなく、同様に誘導が行われる可能性がある

## ゆりかごを通じて考えた 子どもの人権を侵害しない社会の構築

- 男女両性ともに責任を自覚した妊娠・出産の実現とそのための多様な相談体制の構築。
- 母子ともに安全の確保された出産体制の整備。
- 親子の健幸（well-being）の図られた生活の支援。
- それを図ることができない場合、安全・安心・安定の三要素が整った、大人との信頼関係の確保された家庭養護（含養子縁組）の確保。
- 人権擁護の場に値する施設養護の質の確保。

### **Um die Probleme der Storchenwiege zu überwinden - zum System der vertraulichen Geburt -**

- Obwohl sich in Deutschland eine zurückhaltende Einstellung gegenüber der Babyklappe zeigt, wurde diese nicht verboten, sondern vielmehr ein das Recht auf Kenntnis der Eltern mit einbeziehendes System der vertraulichen Geburt eingeführt.
- Japan ist hingegen eine Gesellschaft, die de facto den Schwangerschaftsabbruch akzeptiert und es kann nicht ausgeschlossen werden, dass das System der vertraulichen Geburt aus Gründen des sozialen Ansehens von mehr Frauen (die sonst eine reguläre Geburt gewählt hätten) genutzt wird, als dadurch Schwangerschaftsabbrüche vermieden werden.
- Nicht nur bei der Pränataldiagnostik, sondern auch z.B. im Fall einer sehr jungen Schwangeren fragt der Arzt nicht selten, ob sie das Kind bekommen möchte und spielt dabei auf die Möglichkeit einer Abtreibung an. Es besteht die Möglichkeit, dass hinsichtlich der vertraulichen Geburt in ähnlicher Weise eine Steuerung stattfindet.

### **Erkenntnisse durch die Storchenwiege: Erschaffen einer Gesellschaft, in der die Rechte der Kinder nicht verletzt werden**

- Verwirklichung von Schwangerschaft und Geburt, bei der sich Mann und Frau zugleich ihrer Verantwortung bewusst sind und entsprechende Schaffung eines vielseitigen Beratungssystems.
- Bereitstellung eines Geburtssystems, in dem die Sicherheit von Mutter und Kind gewährleistet ist.
- Unterstützung eines auf das Wohlergehen (well-being) von Eltern und Kindern ausgerichteten Lebens.
- In Fällen, in denen dies nicht möglich ist, Sicherstellung einer Familienpflege (einschl. Adoption), bei der ein Vertrauensverhältnis zu Erwachsenen und die drei Elemente Sicherheit, Unbesorgtheit, Stabilität gegeben sind.
- Gewährleistung der Qualität der Erziehung in Heimen, als Orte an denen die Menschenrechte gewahrt werden.

ゆりかごを通じて考えた

子どもの人権を侵害しない社会の構

既に死んだ人を、幸いだと言おう。更に生きて行かなければならない人よりは幸いだ。いや、その両者よりも幸福なのは、生まれて来なかった者だ。太陽の下に起こる悪い業を見ていないのだから。

(旧約聖書：コレヘトの言葉)

- 人権擁護の場に値する施設長護の責の唯一。

Erkenntnisse durch die Storchenwiege:  
Erreicht die Gesellschaft in der die

- Da preise ich immer wieder die Toten,  
die schon gestorben sind, und nicht die  
Lebenden, die noch leben müssen.
  - Glücklicher aber als beide preise ich den,  
der noch nicht geworden ist, der noch  
nicht das schlimme Tun gesehen hat,  
das unter der Sonne getan wird.
- (Altes Testament: Buch Kohelet)**

denen die menschenrechte gewahrt werden.





IV

本シンポジウム関連の新聞記事一覧

「国内外の識者が内密出産シンポ ― 熊本ですから」

『読売新聞』熊本 2018/8/21 火・朝刊 31 ページ

「内密出産 独から学ぶ ― 熊大でシンポ〈メリットある〉」

『朝日新聞』熊本全県 2018/8/23 木・朝刊 23 ページ

「内密出産 課題探る ― 熊本大で国際シンポ」

『熊本日日新聞』三社 2018/8/23 木・朝刊 25 ページ

「内密出産制度 独に学ぶ ― 熊大でシンポ 政府職員ら現状と課題語る」

『西日本新聞』熊本県 2018/8/25 土・日刊 26 ページ

「構想 10 年 ドイツの内密出産 ― 安全な医療提供 子どもへの支援 課題に」

『熊本日日新聞』暮し 2018/9/2 日・朝刊 18 ページ

「内密出産 独から学ぶ ― 2014 年から実施 熊大でシンポ」

『朝日新聞』長崎全県 2018/9/5 水・朝刊 22 ページ

## 研究組織

氏名	所属機関・部局・職
トビアス・パウアー	熊本大学・大学院人文社会科学研究部・准教授（代表者）
阪本 恭子	大阪薬科大学・薬学部・教授（分担者）
床谷 文雄	大阪大学・国際公共政策研究科・教授（分担者）
山縣 文治	関西大学・人間健康学部・教授（分担者）



日独両国の赤ちゃんポストと関連諸問題における出自を知る権利の扱いに  
関する研究

平成 28 年度～平成 30 年度科学研究費助成事業〔基盤研究 (C)〕  
研究成果報告書 課題番号 16K02125

平成 30 年 9 月

編集、翻訳 トビアス・バウアー

発行 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1  
熊本大学文学部 バウアー研究室  
bauer@kumamoto-u.ac.jp

(非売品) 無断での複製・転載等を禁ず